

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構
(調書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成27年5月1日現在)

星薬科大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	15
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	18
基礎資料 4	カリキュラムマップ	111
基礎資料 5	語学教育の要素	115
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習のスケジュール	117
基礎資料 7	学生受入状況について	121
基礎資料 8	教員・事務職員数	122
基礎資料 9	専任教員年齢構成	123
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	124
基礎資料11	卒業研究の配属状況	136
基礎資料12	講義室等の数と面積	137
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	138
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	139
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	140

旧カリキュラム

		1 年 次 (2014(平成26)年度 実施)								
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育	生命と倫理	前期	126-160	2	286	コ			1	
	医療の担い手としての心構え	後期	286	1	286	コ	S		1	
	薬学への招待	前期	286	1	286	コ			1	
	早期体験学習			286(コ)	1					
			前期	27-28(S)	1-10	286	コ	S	体	1
	※1(択) 文学と表現	前期	106	1	106	コ				
	※1(択) スポーツ実技	前期	64	1	64	技			※1から1科目	
	※1(択) 法学概論	前期	119	1	119	コ			1	
	※1(択) 哲学ゼミナール	前期	10	1	10	演				
	※1(択) 心理ゼミナール	前期	8	1	8	演				
	※2(択) 現代経済論	後期	59	1	59	コ			※2から1科目	
	※2(択) スポーツ科学	後期	70	1	70	コ			1	
	※2(択) 人間の発達	後期	85	1	85	コ				
	※2(択) 歴史人類学	後期	84	1	84	コ				
	※2(択) 法学ゼミナール	後期	8	1	8	演				
	※3(択) 心の科学	後期	90	1	90	コ			※3から1科目	
	※3(択) 医療の歴史	後期	63	1	63	コ			1	
	※3(択) 体育実技	後期	63	1	63	技				
	※3(択) 政治思想史	後期	90	1	90	コ				
	※4(択) 体育学ゼミナール	後期	15	1	15	演			※4から1科目	
	※4(択) 文章表現法	後期	70	1	70	コ			1	
	※4(択) 日本研究入門	後期	104	1	104	コ				
	※4(択) コミュニケーション概論	後期	117	1	117	コ				
	英語 I A	前期	38-39	8	286	コ	S	演	1	
	英語 I B	後期	38-39	8	286	コ	S	演	1	
	第2外国語A口(伊語, コミュニケーション英語, 中国語)	前期	27-40	10	286	コ	S	演	1	
第2外国語B口(伊語, コミュニケーション英語, 中国語)	後期	23-41	10	286	コ	S	演	1		
数学	前期	126-160	2	286	コ			2		
物理学	後期	126-160	2	286	コ			1		
化学	前期	126-160	2	286	コ			1		
基礎の生物(植物)	前期	126-160	2	286	コ			1		
基礎の生物(動物)	前期	126-160	2	286	コ			1		
情報科学	前期	126-160	2	286	コ			1		
※5(択) 高校との接続教育(数学)	前期	68-70	2	286	コ			※5から2科目		
※5(択) 高校との接続教育(生物)	前期	85-86	2	286	コ			各1		
※5(択) 高校との接続教育(物理)	前期	77-88	2	286	コ					
※5(択) 高校との接続教育(化学)	前期	68-77	2	286	コ					
薬学専門教育	物質の状態 I	前期	126-160	2	286	コ			1	
	物質の状態 II	後期	126-160	2	286	コ			1	
	化学物質の基本的性質	前期	126-160	2	286	コ			2	
	有機化合物の構造と反応性	後期	126-160	2	286	コ			2	
	薬になる天然資源 I	後期	126-160	2	286	コ			1	
	人体の基本構造	前期	126-160	2	286	コ			1	
	細胞の構造と機能	前期	126-160	2	286	コ			1	
	生体分子	前期	126-160	2	286	コ			1	
	遺伝情報	後期	126-160	2	286	コ			1	
	タンパク質と酵素	後期	126-160	2	286	コ			1	
	代謝とエネルギー	後期	126-160	2	286	コ			1	
	社会と保健衛生	後期	126-160	2	286	コ			1	
	薬の作用と生体内運命(択)放射線医薬品科学	後期	126-160	2	286	コ			1	
実習	情報科学実習	後期	1組71-80	4	286	実	演		1	
演習										
単位数の合計	(必須科目)								31	
	(選択科目)								7	
	合計								38	

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
 実技=技 体験学習=体

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

旧カリキュラム

		2 年 次 (2015(平成27)年度)							
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	信頼関係	後期	284	1	284	コ	演	S	1
	※6(択) 現代社会論	前期	60-100	1	60	コ			※6から1科目
	※6(択) 西洋文化論	前期	80	1	80	コ			1
	※6(択) 映像文化論	前期	60-100	1	100	コ			※7から1科目
	※6(択) ジェンダー論	前期	60-100	1	65	コ			1
	※7(択) 医療社会論	後期	65-101	1	70	コ	S		※7から1科目
	※7(択) 医療と哲学	後期	65-101	1	65	コ	S		1
	※7(択) スポーツセラピー	後期	65-101	1	101	コ			1
	※7(択) 現代教育論	後期	70	1	70	コ			1
	英語ⅡA	前期	36-40	8	36-40	コ	S	演	1
英語ⅡB	後期	36-40	8	36-40	コ	S	演	1	
統計	前期	122-162	2	284	コ			1	
薬学専門教育	物質の変化	前期	122-162	2	284	コ			1
	物質の構造	後期	122-162	2	284	コ			1
	化学平衡	前期	122-162	2	284	コ			1
	化学物質の検出と定量	後期	122-162	2	284	コ			1
	官能基の性質と反応	前期	122-162	2	284	コ	演		2
	官能基の導入・変換	後期	122-162	2	284	コ			1
	薬になる天然資源Ⅱ	後期	122-162	2	284	コ			1
	生体の機能調節	前期	122-162	2	284	コ			1
	ミクロの生物	前期	122-162	2	284	コ			1
	生体活性分子とシグナル伝達	前期	122-162	2	284	コ			1
	バイオテクノロジー	後期	122-162	2	284	コ			1
	免疫の基礎	後期	122-162	2	284	コ			1
	栄養と健康	前期	122-162	2	284	コ			1
	食品の安全性	後期	122-162	2	284	コ			1
	薬の効き方ⅠA	前期	122-162	2	284	コ			1
薬の効き方ⅠB	前期	122-162	2	284	コ			1	
薬の効き方ⅡA	後期	122-162	2	284	コ			1	
薬の効き方ⅡB	後期	122-162	2	284	コ			1	
実習	物理系実習Ⅰ	前期	1組3-4	2	284	コ	実	演	1.5
	化学系実習Ⅰ	前期	1組3-4	2	284	コ	実		1.5
	化学系実習Ⅱ	後期	1組3-4	2	284	コ	実	演	1.5
	生物系実習Ⅰ	前期	1組2-4	2	284	コ	実		1
	生物系実習Ⅱ	前期	1組38-41	2	284	実			0.5
	生物系実習Ⅲ	後期	1組15-17	2	284	実			1
演習	基礎薬学演習	後期	122-162	2	284	コ	演		2
単位数の合計								(必須科目)	32
								(選択科目)	2
								合計	34

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
 実技=技 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

旧カリキュラム

3 年 次 (2015(平成27)年度)										
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育	※8 (択) スポーツと健康	前期	38-102	1	38	コ			※8から	
	※8 (択) 統治組織論	前期	38-102	1	76	コ	S		1科目	
	※8 (択) 脳と行動	前期	38-102	1	102	コ	S		1	
	※8 (択) エコロジー論	前期	38-102	1	66	コ				
	薬学英語 I A	前期	32-39	8	32-39	コ	S	演	1	
	薬学英語 I B	後期	32-39	8	32-39	コ	S	演	1	
	グローバルゼーション	後期	121-141	2	262	コ			1	
医療心理学	後期	121-141	2	262	コ	S		1		
薬学専門教育	分析技術の臨床応用	前期	121-141	2	262	コ			1	
	生体分子を解析する手法	後期	121-141	2	262	コ			1	
	生体分子の立体構造と相互作用	後期	121-141	2	262	コ			1	
	化合物の構造決定	前期	121-141	2	262	コ	演		1	
	複雑な化合物の合成	後期	121-141	2	262	コ			1	
	生体分子のコアとパーツ	後期	121-141	2	262	コ			1	
	薬になる天然資源Ⅲ	前期	121-141	2	262	コ			1	
	免疫と疾患	前期	121-141	2	262	コ			1	
	感染症と病原体	前期	121-141	2	262	コ			1	
	化学物質の生体への影響	前期	121-141	2	262	コ			1	
	生活環境と健康	前期	121-141	2	262	コ			1	
	薬物の臓器への到達と消失	後期	121-141	2	262	コ	演		1	
	体の変化	前期	121-141	2	262	コ			1	
	疾患と薬物治療 I	後期	121-141	2	262	コ			1	
	医薬品情報	後期	121-141	2	262	コ	S		1	
	製剤材料の性質	前期	121-141	2	262	コ	演		1	
	剤形を作る	後期	121-141	2	262	コ			1	
バイオ医薬品とゲノム情報	前期	121-141	2	262	コ			1		
薬剤師を取り巻く法律と制度	後期	121-141	2	262	コ			1		
実習	物理系実習Ⅱ	前期	1組3	2	262	コ	実		1.5	
	物理系実習Ⅲ	前期	1組4-5	2	262	コ	実	S	0.5	
	化学系実習Ⅲ	前期	1組3-4	2	262	コ	実	S	1.5	
	生物系実習Ⅳ	前期	1組3-5	2	262	コ	実		1	
	生物系実習Ⅴ	後期	1組3-4	2	262	コ	実		1.5	
	薬理系実習	後期	1組24-25	2	262	コ	実		1.5	
	製剤系実習	後期	1組6-7	2	262	コ	実		1	
演習	薬物動態演習	前期	70(1組6-12)	4	262	コ	演	実	0.5	
単位数の合計							(必須科目)			32
							(選択科目)			1
							合計			33

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
 実技=技 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-4) 学年別授業科目

旧カリキュラム

4 年 次 (2015(平成27)年度)										
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育	薬学英語ⅡA	前期	19-24	14	19-24	コ	S	演	1	
	薬学英語ⅡB	後期	17-24	14	17-24	コ	S	演	1	
薬学専門教育	医薬品のコアとパーツ	前期	138-159	2	297	コ			1	
	薬物動態の解析	前期	138-159	2	297	コ	演		1	
	疾患と薬物治療ⅡA	前期	138-159	2	297	コ			1	
	疾患と薬物治療ⅡB	前期	138-159	2	297	コ			1	
	疾患と薬物治療Ⅲ	前期	138-159	2	297	コ			1	
	病原微生物・悪性新生物	後期	297	1	297	コ			1	
	患者情報	前期	138-159	2	297	コ	演	S	1	
	テーラーメイド薬物治療	後期	297	1	297	コ			1	
	DDS	前期	138-159	2	297	コ			1	
	医薬品開発と生産のながれ	前期	138-159	2	297	コ			1	
	リード化合物の創製と最適化	後期	297	1	297	コ			1	
	治験	後期	297	1	297	コ			1	
	バイオスタティクス	後期	297	1	297	コ			1	
社会保障制度と薬剤経済	前期	138-159	2	297	コ			1		
コミュニティーファーマシー	前期	297	1	297	コ	演		1		
実習	事前実習	前期・後期	1組6-12	2	297	コ	実	S	8	
	医療薬学特別実習 ※6年次に決定成績	前期・後期	2-29	23	297	実	演		—	
演習	薬物治療演習	前期	138-159(1組8-9)	2	297	S	演		1	
	総合薬学演習Ⅰ	後期	138-159	2	297	コ	演		3	
単位数の合計							(必須科目)			29
							(選択科目)			0
							合計			29

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
 実技=技 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

旧カリキュラム

	5 年 次 (2015(平成27)年度)							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数(施設数)	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育								
実習	病院・薬局実務実習(病院Ⅰ期) 病院・薬局実務実習(病院Ⅱ期) 病院・薬局実務実習(病院Ⅲ期) 病院・薬局実務実習(日医Ⅰ期) 病院・薬局実務実習(日医Ⅱ期) 病院・薬局実務実習(日医Ⅲ期) 病院・薬局実務実習(日医Ⅳ期) 病院・薬局実務実習(薬局Ⅰ期) 病院・薬局実務実習(薬局Ⅱ期) 病院・薬局実務実習(薬局Ⅲ期) (折)アドバンスト実務実習 医療薬学特別実習 ※6年次に決定成績	前期・後期 後期 前期・後期	1-6 1-6 1-3 16 16 15 16 1-2 1 1 1-3 2-25	58 52 29 1 1 1 1 100 107 54 2 20	84 74 41 16 16 15 16 101 107 54 6 266	実 実 実	演 演	20 3 1
演習								
単位数の合計							(必須科目)	20
							(選択科目)	3
							合計	23

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
 実技=技 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付けてください。

「科目の識別」

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(折)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

旧カリキュラム

		6 年 次 (2015(平成27)年度)								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育										
薬学専門教育	(折) 東洋医学概論	前期	1-267	1	49	コ				1
	(折) プライマリケア学	前期	1-267	1	2	コ	S			1
	(折) 精神科における服薬指導	前期	1-267	1	26	コ				0.5
	(折) 香粧品科学	前期	1-267	1	13	コ	S			1
	(折) 臨床医学概論	前期	1-267	1	18	コ				1
	(折) 在宅医療	前期	1-267	1	85	コ				1
	(折) 医薬・医療ビジネス論	前期	1-267	1	21	コ				1
	(折) 薬学生のための実践英語 (コミュニケーション)	前期	1-30	1	16	演	S			1
	(折) 薬学生のための実践英語 (TOEIC対策)	前期	1-40	1	7	コ	演			1
	(折) 緩和医療学	前期	1-267	1	100	コ				1
	(折) 救命救急学	前期	1-50	1	45	コ	演	体		0.5
	(折) 医薬品評価レギュラトリーサイエンス I	前期	1-267	1	12	コ				0.5
	(折) 医薬品評価レギュラトリーサイエンス II	前期	1-267	1	15	コ				0.5
	(折) 医薬品開発戦略論	前期	1-267	1	63	コ				1
	(折) 司法と薬学	前期	1-267	1	39	コ				0.5
	(折) 臨床栄養学	前期	1-267	1	123	コ				1
	(折) 食品栄養学	前期	1-267	1	109	コ				1
	(折) 症候を眺む	前期	1-40	1	40	コ	S			1
	(折) 医療倫理学	前期	1-267	1	11	コ				1
	(折) ヘルスケアビジネス概論	前期	1-267	1	82	コ	演	S		1
(折) チーム医療入門	前期	1-40	1	27	演	S			0.5	
実習	(折) アドバンスト特別実習	前期・後期	1-14	14	80	実	演			5
	医療薬学特別実習	前期	2-26	20	267	実	演			13
演習	(折) 薬学特別演習 I	前期	267	1	267	コ	演			2
	(折) 薬学特別演習 II	前期	94	1	94	コ	演			12
	総合薬学演習 II	後期	267	1	267	コ	演			10
単位数の合計							(必須科目)			23
							(選択科目)			12
							合計			35

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
 実技=技 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(折)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

旧カリキュラム

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	9	16
教養教育科目	30	7
語学教育科目	12	12
医療安全教育科目	10	17
生涯学習の意欲醸成科目	19	16
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	15	57.5

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

旧カリキュラム

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	31	7	38
2 年 次	32	2	34
3 年 次	32	1	33
4 年 次	29	0	29
5 年 次	20	3	23
6 年 次	23	12	35
合計	167	25	192

新カリキュラム

		1 年 次 (2015 (平成27) 年度)							
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	薬学人としての教養入門	前期	132-160	2	292	コ	S		1.5
	※1 (択) 西洋の言語と風土	後期	21-45	1	44	コ	演		※1から 1科目 1.5
	※1 (択) コミュニケーション概論	後期	21-45	1	45	コ			
	※1 (択) 文章表現法	後期	21-45	1	41	コ	演		
	※1 (択) 歴史人類学	後期	21-45	1	45	コ			
	※1 (択) 政治思想史	後期	21-45	1	37	コ			
	※1 (択) 共生社会と人間	後期	21-45	1	21	コ			
	※1 (択) 現代経済論	後期	21-45	1	22	コ	S		
	※1 (択) スポーツ実技	後期	64	1	64	技			
	英語リーディング・ライティングA	前期	39-41	8	39-41	S			1.5
	英語リーディング・ライティングB	後期	39-41	8	39-41	S			1.5
英語スピーキングA	前期	26-28	12	26-28	S			1.5	
英語スピーキングB	後期	26-28	12	26-28	S			1.5	
情報科学と情報倫理	前期	132-160	2	292	コ	S		1.5	
薬学専門教育	薬学の心構え I	前期	292	1	292	コ	S		1
	薬学の心構え II	後期	132-160	2	292	コ	S		1.5
	数学 I	前期	132-160	2	292	コ			1.5
	物理学	前期	132-160	2	292	コ	演		1.5
	物理化学 I	後期	132-160	2	292	コ			1.5
	分析化学 I	後期	132-160	2	292	コ			1.5
	化学	前期	132-160	2	292	コ			1.5
	有機化学 I	前期	132-160	2	292	コ	演		1.5
	有機化学 II A	後期	132-160	2	292	コ	演		1.5
	有機化学 II B	後期	132-160	2	292	コ	演		1.5
	天然資源 I	前期	132-160	2	292	コ			1.5
	生化学 I	前期	132-160	2	292	コ			1.5
	生化学 II	後期	132-160	2	292	コ			1.5
機能形態学 I	前期	132-160	2	292	コ			1.5	
機能形態学 II	後期	132-160	2	292	コ			1.5	
早期臨床体験学習 ※2年次に決定成績	前期	131-156	2	292	体			-	
実習	研究入門	前期	1組5	2	292	コ	実	演	1
	化学系実習 I	後期	1組2-3	2	292	コ	実		1
	生物系実習 I	後期	1組2-3	2	292	コ	実		1
演習	情報科学演習	後期	70-80	4	292	演			0.5
	基礎演習 I	後期	70-80	4	292	コ	演		0.5
単位数の合計							(必須科目)		35
							(選択科目)		1.5
							合計		36.5

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
 実技=技 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

新カリキュラム

		2 年 次 (2016 (平成28) 年度 予定)								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	※2 (択) 芸術と社会	前期	前期				コ			※2から 1科目 1.5
	※2 (択) 西洋の歴史と文化	前期	前期				コ			
	※2 (択) 生命倫理	前期	前期				コ			
	※2 (択) 現代社会論	前期	前期				コ			
	※2 (択) ジェンダー論	前期	前期				コ			
	※2 (択) 心理学ゼミナール	前期	前期				演			※3から 1科目 1.5
	※2 (択) 体育実技	前期	前期				技			
	※3 (択) 映像文化論	後期	後期				コ			
	※3 (択) 医療社会論	後期	後期				コ			
	※3 (択) 医療哲学ゼミナール	後期	後期				演	S	S	
	※3 (択) 教育学ゼミナール	後期	後期				コ		S	1.5
	※3 (択) 法学ゼミナール	後期	後期				コ		S	
	※3 (択) 心の科学	後期	後期				コ			
	※3 (択) スポーツ科学	後期	後期				コ			
英語ディスカッションA	前期	前期				S			1.5	
英語ディスカッションB	後期	後期				S			1.5	
医療・薬学英語 I A	前期	前期				コ	演		1.5	
医療・薬学英語 I B	後期	後期				コ	演		1.5	
薬学専門教育	物理化学 II	前期	前期				コ			1.5
	分析化学 II	前期	前期				コ			1.5
	臨床分析の基礎と応用	後期	後期				コ			1.5
	有機化学 III A	前期	前期				コ			1.5
	有機化学 III B	後期	後期				コ			1.5
	微生物学	前期	前期				コ			1.5
	細胞生物学	前期	前期				コ			1.5
	免疫学	後期	後期				コ			1.5
	薬理学 I	前期	前期				コ			1.5
	薬理学 II	後期	後期				コ			1.5
	患者・医薬品情報	前期	前期				コ			1.5
	薬物動態 I	後期	後期				コ			1.5
	薬物治療 I	後期	後期				コ			1.5
研究倫理	前期	前期				コ			1.5	
研究の現場	後期	後期				コ			1.5	
早期臨床体験学習	前期・後期	前期・後期				コ	体	S	1.5	
実習	物理系実習 I	前期	前期				コ	実		1
	物理系実習 II	後期	後期				コ	実		1
	化学系実習 II	前期	前期				コ	実		1
	生物系実習 II	後期	後期				コ	実		1
	生物系実習 III	後期	後期				コ	実		1
演習	基礎演習 II	前期	前期				コ	演		0.5
	基礎演習 III	後期	後期				コ	演		0.5
単位数の合計								(必須科目)		36
								(選択科目)		3
								合計		39

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
 実技=技 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

新カリキュラム

		3 年 次 (2017 (平成29) 年度 予定)						
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	※4 (択) ロジカルライティング	後期				コ		※4から 1科目 1.5
	※4 (択) エコロジー論	後期				コ		
	※4 (択) 日本の法制度と憲法	後期				コ		
	※4 (択) 物質の究極像と宇宙	後期				コ		
	※4 (択) 人間の発達	後期				コ		
	※4 (択) スポーツセラピー	後期				コ		
	※4 (択) 数理科学の方法	後期				コ		
	医療・薬学英語ⅡA	前期				コ	演	1.5
医療・薬学英語ⅡB	後期				コ	演	1.5	
情報リテラシー	前期				コ		1.5	
薬学専門教育	ファーマシューティカルコミュニケーション	前期				コ		1.5
	薬学と社会Ⅰ	後期				コ		1.5
	製剤化のサイエンスⅠ	前期				コ		1.5
	製剤化のサイエンスⅡ	後期				コ		1.5
	天然資源Ⅱ	前期				コ		1.5
	生物有機化学	後期				コ		1.5
	分子生物学	前期				コ		1.5
	衛生学Ⅰ	前期				コ		1.5
	衛生学Ⅱ	後期				コ		1.5
	薬物動態Ⅱ	前期				コ		1.5
	薬物治療Ⅱ	前期				コ		1.5
	薬物治療Ⅲ	前期				コ		1.5
	薬物治療Ⅳ	後期				コ		1.5
	薬物治療Ⅴ	後期				コ		1.5
研究特論Ⅰ	後期				コ	演	1.5	
実習	卒論準備実習	前期				実	演	4
	医療薬学特別実習 ※4年次に決定成績	後期				実	演	—
演習	基礎演習Ⅳ	前期				コ	演	0.5
	基礎演習Ⅴ	後期				コ	演	0.5
単位数の合計							(必須科目)	32
							(選択科目)	1.5
							合計	33.5

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
 実技=技 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

新カリキュラム

4 年 次 (2018 (平成30) 年度 予定)										
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育	※5 (択) 異文化理解	前期				コ			※5から 1科目 1.5	
	※5 (択) 日本文化から国際社会へ	前期				コ				
	※5 (択) アジアの人と文化	前期				コ				
	※5 (択) 世界の宗教と社会	前期				コ				
	※5 (択) 国際ジャーナリズム	前期				コ				
	※5 (択) 世界の法と経済	前期				コ				
	※5 (択) 世界の統合医療	前期				コ				
薬学専門教育	医療人としての薬剤師	前期				コ			1.5	
	薬学と社会Ⅱ	前期				コ			1.5	
	バイオスタティスティクス	前期				コ			1.5	
	医薬品開発と生産のながれ	前期				コ			1.5	
	創薬化学	前期				コ			1.5	
	衛生学Ⅲ	前期				コ			1.5	
	薬物治療の個別化・最適化	前期				コ			1.5	
	疾患・有害事象の症候	前期				コ			1.5	
	研究特論Ⅱ	前期				コ	演		1.5	
実習	事前学習	後期				コ	実	S	8	
	医療薬学特別実習	前期・後期				実	演		16	
演習	基礎演習Ⅵ	前期				コ	演		0.5	
	総合薬学演習Ⅰ	後期				コ	演		3	
単位数の合計							(必須科目)			41
							(選択科目)			1.5
							合計			42.5

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
実技=技 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

新カリキュラム

	5 年 次 (2019 (平成31) 年度 予定)								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育									
実習	病院・薬局実務実習	前期・後期				実			20
演習									
単位数の合計							(必須科目)		20
							(選択科目)		0
							合計		20

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
 実技=技 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付けてください。

「科目の識別」

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

新カリキュラム

6 年 次 (2020 (平成32) 年度 予定)									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択) チーム医療入門								0.5
	(択) 専門薬剤師特論 I								0.5
	(択) 専門薬剤師特論 II								0.5
	(択) 専門薬剤師特論 III								0.5
	(択) 専門薬剤師特論 IV								0.5
	(択) 救命救急学								0.5
	(択) 臨床栄養学 I								0.5
	(択) 臨床栄養学 II								0.5
	(択) 食品栄養学 I								0.5
	(択) 食品栄養学 II								0.5
	(択) 漢方治療学								0.5
	(択) プライマリケア学								0.5
	(択) 香粧品科学								0.5
	(択) 臨床評価学								0.5
	(択) 臨床研究・統計学								0.5
	(択) 経営学の諸相								0.5
	(択) MR概論								0.5
	(択) 医薬・医療ビジネス論								0.5
	(択) 医薬品評価レギュラトリーサイエンス								0.5
	(択) 医薬品開発戦略論								0.5
(択) 医療マネジメント学(病院運営)								0.5	
(択) 医療マネジメント学(薬局運営)								0.5	
(択) 薬事と行政								0.5	
(択) アドバンストコミュニケーション学								0.5	
(択) 薬学生のための実践英会話								0.5	
(択) TOEIC/TOEFL対策								0.5	
(択) Academic Writing								0.5	
(択) 思考トレーニング								0.5	
実習	(択) アドバンスト実務実習(病院)								3
	(択) アドバンスト実務実習(薬局)								3
	(択) 海外薬局研修								3
	(択) アドバンスト特別実習								8
演習	総合薬学演習 II								6
単位数の合計							(必須科目)		6
							(選択科目)		10.5
							合計		16.5

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 演習=演 実習=実
 実技=技 体験学習=体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

新カリキュラム(開講予定を含む)

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	10	21
教養教育科目	36	7.5
語学教育科目	13	16.5
医療安全教育科目	10	21
生涯学習の意欲醸成科目	23	11.5
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	17	61

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

新カリキュラム(開講予定を含む)

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	35	1.5	36.5
2 年 次	36	3	39
3 年 次	32	1.5	33.5
4 年 次	41	1.5	42.5
5 年 次	20	0	20
6 年 次	6	10.5	16.5
合計	170	18	188

(基礎資料2-1) 在籍学生数

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計		
入学年度 における	入学定員数	260	260	260	260	260	260	1,560	A	
	編入定員数 転学科数による転入数	—	—	—	—	—	—	0	B	
	入学者数	286	278	261	290	290	268	1,673		
基準日 における	各学年の在籍学生数	292	284	262	297	266	285	1,686	C	
	編入学生数(内)※ 転学科による転入数	0	0	0	2	1	0	3	D	
	留年者数(内)	6	16	15	35	22	52	146		
	留年者の 入学年度	平成20年度 以前	0	0	0	1	3	15	19	
		平成21年度	0	0	0	1	6	37	44	
		平成22年度	0	0	1	4	13		18	
		平成23年度	0	2	1	29			32	
		平成24年度	0	4	13				17	
平成25年度		1	10					11		
	平成26年度	5						5		
C / (A + B)		1.08		※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。 (転学科による転入数を記載)						
D / B		0								

- [注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
 2 「転学科(転入)学生数(内)」および「留年者数(内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

(基礎資料2-2) 休学者数、留年者数、退学者数および転学科者(転入者)数

	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度			
総在籍学生数	1295				1572				1636				1644				1672				1686			
	休学者数	留年者数	退学者数	転学科(転入)者数																				
1年次	6	35	12	0	3	15	13	0	2	19	10	0	0	16	5	0	0	8	6	0	1	3	4	0
2年次	1	20	2	0	0	8	2	0	3	17	4	0	0	23	5	0	1	11	3	0	1	14	3	0
3年次	0	11	2	0	1	5	2	0	0	8	1	0	1	7	1	1	0	4	0	2	0	3	0	0
4年次	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
5年次	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	2	0	0	0	2	1	0	1	3	2	0
6年次					0	0	0	0	1	4	0	0	0	5	0	0	1	15	0	0	1	21	1	0
合計	7	66	16	0	5	28	17	0	7	49	15	0	2	53	11	1	2	40	10	2	4	45	10	0

退学者数には除籍者を含んでいる。また、6年次の留年者には卒業延期者を含んでいる。

[注] 平成27年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	入学者総数		卒業率 (%)
卒業生総数		211 名	235 名	238 名	240 名	245 名				
卒業生の 入学年度 内訳	平成18年度入学者	211 名	24 名	2 名	1 名	0 名		平成18年度	262 名	80.5%
	平成19年度入学者		211 名	28 名	3 名	0 名		平成19年度	268 名	78.7%
	平成20年度入学者			208 名	22 名	3 名		平成20年度	272 名	76.5%
	平成21年度入学者				214 名	18 名		平成21年度	270 名	79.3%
	平成22年度入学者					224 名		平成22年度	268 名	83.6%
	平成23年度入学者							平成23年度	290 名	—

※卒業生総数には、転学科により途中で転入した学生も含んでいる。そのため、入学者総数もその分の数を加えて調整を行った。
(平成19年度+1、平成20年度+1、平成21年度+3。平成18年度と平成22年度は転学科による転入はなし。)

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

※27年度から新カリキュラム開始につき1年に記載の科目名は26年度に実施したもの

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
(1) 生と死						
【生命の尊厳】						
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)	生命と倫理			総合薬学演習 I		
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。	生命と倫理			総合薬学演習 I		
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。	生命と倫理			総合薬学演習 I		
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。	生命と倫理			総合薬学演習 I		
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)				総合薬学演習 I		
【医療の目的】						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	生命と倫理			総合薬学演習 I		
【先進医療と生命倫理】						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。	生命と倫理			総合薬学演習 I		
(2) 医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
【医療行為に関わるこころ構え】						
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
【研究活動に求められるこころ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。	医療の担い手としての心構え、薬学への招待			総合薬学演習 I		
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)	医療の担い手としての心構え、薬学への招待			総合薬学演習 I		
3) 他の研究者の意見を理解し、討議する能力を身につける。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
【自己学習・生涯学習】						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
(3) 信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
【相手の気持ちに配慮する】						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)		信頼関係		総合薬学演習 I		
【患者の気持ちに配慮する】						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。(態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
【チームワーク】						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
2) チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
B イントロダクション						
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。				総合薬学演習 I		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬剤師の活動分野】						
1) 薬剤師の活動分野 (医療機関、製薬企業、衛生行政など) について概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。				総合薬学演習 I		
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。				総合薬学演習 I		
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。				総合薬学演習 I		
【薬について】						
1) 「薬とは何か」を概説できる。				総合薬学演習 I		
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。				総合薬学演習 I		
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。				総合薬学演習 I		
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。				総合薬学演習 I		
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。				総合薬学演習 I		
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。				総合薬学演習 I		
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
【日本薬局方】						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
【総合演習】						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	薬学への招待			総合薬学演習 I		
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)				総合薬学演習 I		
(2) 早期体験学習						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	早期体験学習					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)	早期体験学習					
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)	早期体験学習					
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)	早期体験学習					
C 薬学専門教育						
【物理系薬学を学ぶ】						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【化学結合】						
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。	化学物質の基本的性質	物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 軌道の混成について説明できる。	化学物質の基本的性質	物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。	化学物質の基本的性質	物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。	化学物質の基本的性質	物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子間相互作用】						
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 分散力について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【原子・分子】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 偏光および旋光性について説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 散乱および干渉について説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射線について説明できる。		物理系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。		物理系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		物理系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 核反応および放射平衡について説明できる。		物理系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 放射線の測定原理について説明できる。		物理系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 物質の状態 I						
【総論】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【エネルギー】						
1) 系、外界、境界について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 仕事および熱の概念を説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) エンタルピーについて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 熱力学第二法則について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 熱力学第三法則について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 自由エネルギーについて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 相平衡と相律について説明できる。	物質の状態 II	物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な状態図 (一成分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。	物質の状態 II	物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 物質の溶解平衡について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 界面における平衡について説明できる。	物質の状態 II	物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 吸着平衡について説明できる。	物質の状態 II	物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【溶液の化学】						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 活量と活量係数について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。	物質の状態 II	物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) イオン強度について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【電気化学】						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 標準電極電位について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) Nernstの式が誘導できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 濃淡電池について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物質の変化、物理系実習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物質の変化		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物質の変化		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物質の変化		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物質の変化		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。		物質の変化、物理系実習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 衝突理論について概説できる。		物質の変化		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 遷移状態理論について概説できる。		物質の変化		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。		物質の変化		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。		物質の変化	物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。		物質の変化		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 沈降現象について説明できる。		物質の変化		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 流動現象および粘度について説明できる。		物質の変化、物理系実習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
02 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						
【酸と塩基】						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。		化学平衡		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)		化学平衡		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。		化学平衡		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。		化学平衡		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。		化学平衡		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 酸化還元電位について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 酸化還元平衡について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 分配平衡について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) イオン交換について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【定量の基礎】						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)			物理系実習 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【容量分析】						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量	物理系実習 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)			物理系実習 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。			生体分子を解析する手法、物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。			生体分子を解析する手法、物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)		化学系実習 I	物理系実習 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)			物理系実習 II、物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅱ、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。			分析技術の臨床応用	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的なドラッグミストリーについて概説できる。			分析技術の臨床応用	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な画像診断技術 (X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など) について概説できる。			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 画像診断薬 (造影剤、放射性医薬品など) について概説できる。			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 薬学領域で緊用されるその他の分析技術 (バイオイメージング、マイクロチップなど) について概説できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			分析技術の臨床応用	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) のスクリーニング法を列挙し、説明できる。			分析技術の臨床応用	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)			物理系実習Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。			生体分子を解析する手法、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【相互作用の解析法】						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【相互作用】						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 脂質の水中における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C4 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	化学物質の基本的性質	官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。	化学物質の基本的性質	官能基の性質と反応、化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) キラリティーと光学活性を概説できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 絶対配置の表示法を説明できる。	化学物質の基本的性質、有機化合物の構造と反応			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) Fischer 投影式とNewman 投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【錯体】						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 配位結合を説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 錯体の安定度定数について説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 錯体の反応性について説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。	有機化合物の構造と反応性	化学系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)		化学系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		化学系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 求核置換反応 (S _N 1および S _N 2反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。	化学物質の基本的性質	官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【¹H NMR】						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) ¹ H NMRのスピンの結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 代表的化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【マススペクトル】						
1) マススペクトルの概要と測定法を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明ができる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C5 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。	有機化合物の構造と反応性	官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。		官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。		官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。	有機化合物の構造と反応性	官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。		官能基の性質と反応、官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。		官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		官能基の性質と反応、官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。		官能基の性質と反応、官能基の導入・変換、化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) カルボン酸誘導体 (エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物) の代表的な合成法について説明できる。		官能基の性質と反応、官能基の導入・変換、化学系実習 I、化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。		官能基の性質と反応、官能基の導入・変換、化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)		化学系実習 I、化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。	有機化合物の構造と反応性		複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。		官能基の性質と反応、化学系実習 II	複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。		官能基の性質と反応、化学系実習 II	複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)		化学系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【生体内で機能する複素環】						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 複素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【医薬品に含まれる複素環】						
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【医薬品と生体高分子】						
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生体内分子と反応する医薬品】						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) インターカレーター的作用機序を図示し、説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
C7 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生薬の歴史について概説できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 生薬の生産と流通について概説できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生薬成分の構造と生合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【農薬、化粧品としての利用】						
1) 天然物質の農薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。						
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【漢方処方の応用】						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生物系薬学を学ぶ】						
C8 生命体の成り立ち						
(1) ヒトの成り立ち						
【概論】						
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	人体の基本構造	生物系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	人体の基本構造	生物系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【神経系】						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	人体の基本構造	薬の効き方ⅠA		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【骨格系・筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【皮膚】						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【循環器系】						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節、生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節、生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【呼吸器系】						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体の基本構造	生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【泌尿器系】						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【生殖系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【内分泌系】						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【血液・造血器系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節、生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態および機能的特徴を説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)		生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	人体の基本構造	薬の効き方 II B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 血糖の調節機構を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。		生体の機能調節、生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 腸内細菌の役割について説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) ウイルスの分類法について概説できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 無菌操作を実施できる。(技能)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法 (生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験) について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。	生体分子		物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)		生物系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝(生合成と分解)を説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) DNAの構造について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) RNAの構造について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 染色体の構造を説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) RNAの種類と働きについて説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) リボソームの構造と機能について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) DNAの修復の過程について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【遺伝子多型】						
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 酵素反応速度論について説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)		生物系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。	タンパク質と酵素	生物系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【タンパク質の取扱い】						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)		生物系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)	タンパク質と酵素	生物系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【ATPの産生】						
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 解糖系について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) クエン酸回路について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 電子伝達系 (酸化リン酸化) について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【飢餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 糖新生について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【オータコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義 (生理活性) を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 主な生理活性アミン (セロトニン、ヒスタミンなど) の生合成と役割について説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 主な生理活性ペプチド (アンギオテンシン、ブラジキニンなど) の役割について説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に関するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な細胞内 (核内) 受容体の具体例を挙げて説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(6) 遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【遺伝子のクローニング技術】						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【遺伝子機能の解析技術】						
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C10 生体防御						
(1) 身体をまもる						
【生体防御反応】						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) クローン選択説を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構 (遺伝子再構成) を概説できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。		免疫の基礎	免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		免疫の基礎	免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主なワクチン (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン) について基本的特徴を説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。		免疫の基礎	免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス (Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主なRNAウイルス (Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) レトロウイルス (HIV、HTLV) が引き起こす疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) グラム陰性球菌 (淋菌、Δ髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) グラム陽性桿菌 (破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) グラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) グラム陰性スピリルム属病原菌 (ヘリコバクター・ピロリ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 抗酸菌 (結核菌、非定型抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【健康と環境】						
G11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)			生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		食品の安全性	生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		食品の安全性	生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		食品の安全性	生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。		食品の安全性	生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		食品の安全性	生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 人口静態と人口動態について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。（知識・技能）	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 要因・対照研究（コホート研究）の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。（知識・技能）	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 世界保健機構（WHO）の役割について概説できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 新生児マスキューリングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。（態度）	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、国際感染症など) の特徴について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
G12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 第一相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 第二相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		生物系実習 III	化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOEL) などについて概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 水の浄化法について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) DO、BOD、CODを測定できる。(技能)			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。			生活環境と健康、生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) シックハウス症候群について概説できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) マニフェスト制度について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) PRTR法について概説できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 環境基本法の理念を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【薬と疾病】						
G13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。			薬物の臓器への到達と消失、薬物動態演習	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。(技能)			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 薬の効き方 I						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTIには馴染まない			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 薬の効き方II						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【血液・造血管系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 能動輸送の特徴を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分布】						
到達目標：						
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 薬物の体液中での存在状態 (血漿タンパク結合など) を組織への移行と関連づけて説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 薬物分布の変動要因 (血流量、タンパク結合性、分布容積など) について説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)			薬物動態演習、バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 薬物代謝酵素の変動要因 (誘導、阻害、加齢、SNPsなど) について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 初回通過効果について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 腎クリアランスについて説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 胆汁中排泄について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。			薬物の臓器への到達と消失	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。			薬物動態演習	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態演習	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)			薬物動態演習	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
G14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。			体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。			体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。			体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)				薬物治療演習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【血液・造血系の疾患】						
1) 血液・造血系における代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【消化器系疾患】						
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病			疾患と薬物治療 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)				薬物治療演習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療 II B、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療 II B、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療 II B、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石				疾患と薬物治療 II B、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療 II B、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療 II B、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症				疾患と薬物治療 II B、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				薬物治療演習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(4) 疾患と薬物治療(精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。		薬の効き方ⅡB		疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）				薬物治療演習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) ビリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。		ミクロの生物				総合薬学演習Ⅱ
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。		ミクロの生物、生物系実習Ⅱ		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C15 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【情報】						
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的（効効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【データベース】						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【EBM (Evidence-Based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) EBM実践のプロセスを概説できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【総合演習】						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満など) に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。			製剤材料の性質、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。			製剤材料の性質、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 乳剤の型と性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 粉体の性質について説明できる。			製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 粉末 X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)			製剤材料の性質、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。			剤形を作る、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。			剤形を作る、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 単位操作を組み合わせ代表製剤を調製できる。(技能)			剤形を作る、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。			剤形を作る、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)			剤形を作る、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) DDSの概念と有用性について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性について説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、治験、総合薬学演習		総合薬学演習 II
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【薬害】						
1) 代表的な薬害の例 (サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど) について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【標的生体分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ゲノミックサザンプロット法など) について概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患 (癌、糖尿病など) 関連遺伝子について説明できる。			バイオ医薬品のゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。			バイオ医薬品のゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。				治験		総合薬学演習 II
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。				治験		総合薬学演習 II
3) 治験 (第 I、II、および III 相) の内容を説明できる。				治験		総合薬学演習 II
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。						総合薬学演習 II
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)				治験		総合薬学演習 II
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。				治験		総合薬学演習 II
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。				治験		総合薬学演習 II
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。				治験		総合薬学演習 II
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。				治験		総合薬学演習 II
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)						総合薬学演習 II
(5) バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U 検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett 検定、Tukey 検定など) の概要を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)				バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)				総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 製造物責任法を概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医療保険】						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医療保険のしくみを説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医療保険の種類を列挙できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 医療費の内訳を概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習)SBOs	該 当 科 目			
	3年	4年	5年	6年
D 実務実習教育				
(I) 実務実習事前学習				
(1) 事前学習を始めるにあたって				
《薬剤師業務に注目する》				
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。		事前実習		総合薬学演習Ⅱ
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。		事前実習		総合薬学演習Ⅱ
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)		事前実習		総合薬学演習Ⅱ
《チーム医療に注目する》				
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		事前実習		総合薬学演習Ⅱ
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。		事前実習		総合薬学演習Ⅱ
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)		事前実習		総合薬学演習Ⅱ
《医薬分業に注目する》				
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		事前実習		総合薬学演習Ⅱ
(2) 処方せんと調剤				
《処方せんの基礎》				
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習		総合薬学演習Ⅱ
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習		総合薬学演習Ⅱ
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習		総合薬学演習Ⅱ
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習		総合薬学演習Ⅱ
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習		総合薬学演習Ⅱ
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習		総合薬学演習Ⅱ
《医薬品の用法・用量》				
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習		総合薬学演習Ⅱ
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習		総合薬学演習Ⅱ
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習		総合薬学演習Ⅱ
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習		総合薬学演習Ⅱ
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習		総合薬学演習Ⅱ

《服薬指導の基礎》			
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
《調剤室業務入門》			
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
《疑義照会入門》			
5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ
9. 疑義照会の流れを説明できる。		総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ
10. 疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ
(4) 医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
《特別な配慮を要する医薬品》			
3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
8. 生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
11. 放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ

《製剤化の基礎》			
12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
14. 代表的な院内製剤を調製できる。(技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
《注射剤と輸液》			
17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
18. 代表的な配合変化を検出できる。(技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
《消毒薬》			
21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
(5) リスクマネージメント			
《安全管理に注目する》			
1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
3. 院内感染の回避方法について説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
《副作用に注目する》			
4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
《リスクマネージメント入門》			
5. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
6. リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)		総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ
(6) 服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。		総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ

《患者情報の重要性に注目する》			
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。	総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）	総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
10.	医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。	総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
《服薬指導入門》			
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）	総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）	総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）	総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）	総合薬学演習Ⅰ、事前実習	総合薬学演習Ⅱ
（7）事前学習のまとめ			
		総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ

(基礎資料3-3) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	薬学の心構え I			医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	薬学の心構え I		ファーマシューティカル コミュニケーション	医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)				医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学の心構え I			医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学の心構え I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学の心構え I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。 (知識・態度)	薬学の心構え I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)			ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	薬学の心構え II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。				医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。	薬学の心構え II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。				薬学と社会 II、総合 薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。				医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。 (知識・態度)			ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)				医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。				医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。				医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。				医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。 (知識・態度)	薬学の心構え I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	薬学の心構え I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。 (知識・態度)	薬学の心構え I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学の心構え I			医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学の心構えⅠ			医療人としての薬剤師、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。	薬学の心構えⅠ			医療人としての薬剤師、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）	薬学の心構えⅠ			医療人としての薬剤師、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）	薬学の心構えⅠ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。	薬学の心構えⅡ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）	薬学の心構えⅠ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	薬学の心構えⅠ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。	薬学の心構えⅡ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。		研究倫理	ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	薬学の心構えⅠ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）	薬学の心構えⅠ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。	薬学の心構えⅡ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	薬学の心構えⅡ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 （知識・技能・態度）	薬学の心構えⅡ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	薬学の心構えⅡ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	薬学の心構えⅡ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）	薬学の心構えⅡ	研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度）	薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度）	薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度）	薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度）	薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度）	薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	薬学の心構えⅠ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度）	薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(4) 多職種連携協働とチーム医療						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。			ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。			ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。			ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)			ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)			ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関する問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	薬学の心構え I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	研究入門	物理系実習 I、物理系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	研究入門	物理系実習 I、物理系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	研究入門	物理系実習 I、物理系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) インターネット上の情報を持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)		物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②薬学教育の概要】						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学の心構え I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学の心構え I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③生涯学習】						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学の心構え II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	薬学の心構え II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)				医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)				医療人としての薬剤師、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
B 薬学と社会						
(1) 人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	薬学の心構え II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)	薬学の心構え II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)				薬学と社会 II、総合薬学 演習 I		総合薬学演習 II
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)			ファーマシューティカル コミュニケーション	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	薬学の心構え II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品）の定義について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」の規定について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) 健康被害救済制度について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) レギュラトリーサイエンスの必要性和意義について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。			薬学と社会 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 社会保障制度と医療経済						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医療保険制度について説明できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 療養担当規則について説明できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 公費負担医療制度について概説できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 介護保険制度について概説できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 薬価基準制度について概説できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②医薬品と医療の経済性】						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 国民医療費の動向について概説できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。				薬学と社会 II、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。				薬学と社会Ⅱ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。				薬学と社会Ⅱ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。				薬学と社会Ⅱ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。				薬学と社会Ⅱ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。				薬学と社会Ⅱ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。				薬学と社会Ⅱ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度）				薬学と社会Ⅱ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
C 薬学基礎						
G1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【①化学結合】						
1) 化学結合の様式について説明できる。	化学	臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	化学	臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	化学	臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	物理学	臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	化学	臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	化学	臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物理学	臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。	物理学	臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 光の散乱および干渉について説明できる。	物理学	臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 核反応および放射平衡について説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 放射線測定の原理と利用について概説できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 熱力学第一法則を説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) エンタルピーについて説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 熱力学第二法則について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 熱力学第三法則について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) ギブズエネルギーについて説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 共役反応の原理について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 相平衡と相律について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 状態図について説明できる。	物理化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑥溶液の性質】						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。		物理化学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 活量と活量係数について説明できる。		物理化学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。		物理化学 II、物理系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) イオン強度について説明できる。		物理化学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		物理化学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。		物理化学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 物質の変化						
【①反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理化学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学Ⅱ、物理系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。		物理化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。		物理化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
C2 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	研究入門	物理系実習Ⅰ、物理系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	研究入門	物理系実習Ⅰ、物理系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	分析化学Ⅰ	物理系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)		物理系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 沈殿平衡について説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 酸化還元平衡について説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 分配平衡について説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②定量分析(容量分析・重量分析)】						
1) 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)		物理系実習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 日本薬局方記載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 日本薬局方記載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	分析化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(4) 機器を用いる分析法						
【①分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		物理系実習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】						
1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③質量分析法】						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④X線分析法】						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑤熱分析】						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(5) 分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		物理系実習Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(6) 臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②分析技術】						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	有機化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	化学、有機化学 II A			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	化学、有機化学 II A			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	化学、有機化学 II B	有機化学 III B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。	有機化学 II A	有機化学 III B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学 II A			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	有機化学 II A	有機化学 III B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機化学 I	有機化学 III B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	有機化学 I	化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②アルケン・アルキン】						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I、有機化学 II A、有機化学 II B	有機化学 III B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 II B	有機化学 III B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 II B			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③芳香族化合物】						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	有機化学 I、有機化学 II A、有機化学 II B	有機化学 III B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 芳香族性の概念を説明できる。	有機化学 II A			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。	有機化学 II B			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学 III A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学 III A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 官能基の性質と反応						
【①概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	化学系実習 I	有機化学 III B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 II A			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。	有機化学 I、有機化学 II A			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 脱離反応の特徴について説明できる。	有機化学 I、有機化学 II A			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 I、有機化学 II B			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 I、有機化学 II B			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 I	有機化学 III A、有機化学 III B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 III A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 III A、化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤アミン】						
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 I	有機化学 III A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑥電子効果】						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。		有機化学 III B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑦酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機化学 II B			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。	有機化学 II B			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴 (NMR)】						
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②赤外吸収 (IR)】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③質量分析】						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)	化学系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	化学			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	化学			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	化学			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	化学			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	化学			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C4 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく化学的性質を説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸など）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
1) リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の構造と化学的性質を説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②酵素阻害剤と作用様式】						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
1) 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④生体内で起こる有機反応】						
1) 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。			生物有機化学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1) スクレオンドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) β -ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) ベンジジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。				創薬化学、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C5 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。（知識、技能）	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 植物の主な内部形態について説明できる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④生薬の同定と品質評価】						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)	天然資源 I	化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。	天然資源 I	化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。			天然資源 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然資源 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然資源 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然資源 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然資源 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			天然資源 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然資源 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③天然生物活性物質の取扱い】						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)		化学系実習 II	天然資源 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④天然生物活性物質の利用】						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。			天然資源 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。			天然資源 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。			天然資源 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C6 生命現象の基礎						
(1) 細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	機能形態学 II	細胞生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	機能形態学 II	細胞生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②細胞小器官】						
1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	機能形態学 II	細胞生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③細胞骨格】						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	機能形態学 II	細胞生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 生命現象を担う分子						
【①脂質】						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②糖質】						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④タンパク質】						
1) タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1) ヌクレオチドと核酸 (DNA, RNA) の種類、構造、性質を説明できる。	生化学 I		分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)	研究入門、生物系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
1) 多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。	生化学 I		分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)	生物系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④酵素以外のタンパク質】						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。	生化学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど）を説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) RNA の種類 (hnRNA, mRNA, rRNA, tRNA など) と機能について説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③遺伝子の複製】						
1) DNA の複製の過程について説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④転写・翻訳の過程と調節】						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 転写因子による転写制御について説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) RNA のプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNA の変異と修復について説明できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑥組換え DNA】						
1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。		生物系実習 II	分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。			分子生物学	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【① 概論】						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②ATP の産生と糖質代謝】						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) クエン酸回路 (TCA サイクル) について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 電子伝達系 (酸化的リン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 糖新生について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③脂質代謝】						
1) 脂肪酸の生合成と β 酸化について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④飢餓状態と飽食状態】						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤その他の代謝系】						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝 (尿素回路など) について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ペントースリン酸回路について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【① 概論】						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②細胞内情報伝達】						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 細胞内 (核内) 受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(7) 細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②細胞死】						
1) 細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③がん細胞】						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。		細胞生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。		細胞生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
G7 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1) 人体の成り立ち						
【①遺伝】						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	機能形態学Ⅱ		分子生物学	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 遺伝子多型について概説できる。	機能形態学Ⅱ		分子生物学	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。	機能形態学Ⅱ		分子生物学	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②発生】						
1) 個体発生について概説できる。	機能形態学Ⅱ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	機能形態学Ⅱ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③器官系概論】						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	機能形態学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。（技能）	研究入門			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）		生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④神経系】						
1) 中枢神経系について概説できる。	機能形態学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。	機能形態学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑤骨格系・筋肉系】						
1) 骨、筋肉について概説できる。	機能形態学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑥皮膚】						
1) 皮膚について概説できる。	機能形態学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑦循環器系】						
1) 心臓について概説できる。	機能形態学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 血管系について概説できる。	機能形態学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) リンパ管系について概説できる。	機能形態学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑧呼吸器系】						
1) 肺、気管支について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑨消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑩泌尿器系】						
1) 泌尿器系について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑪生殖器系】						
1) 生殖器系について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑫内分泌系】						
1) 内分泌系について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑬感覚器系】						
1) 感覚器系について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑭血液・造血器系】						
1) 血液・造血器系について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③オータコイドによる調節機構】						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑦体液の調節】						
1) 体液の調節機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。	機能形態学 I、機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑨血液凝固・線溶系】						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑩性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。	機能形態学Ⅱ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【① 生体防御反応】						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
【① 免疫応答の制御と破綻】						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【② 免疫反応の利用】						
1) ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）		免疫学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 微生物の基本						
【① 総論】						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【② 細菌】						
1) 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③ ウイルス】						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑤ 消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑥ 検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。（技能）		生物系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 無菌操作を実施できる。（技能）		生物系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）		生物系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
（4）病原体としての微生物						
【①感染の成立と共生】						
1) 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。		微生物学		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②代表的な病原体】						
1) DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど）について概説できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など）について概説できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など）について概説できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）、蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
D 衛生薬学						
D1 健康						
（1）社会・集団と健康						
【①健康と疾病の概念】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 疾病の予防						
【①疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②感染症とその予防】						
1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④母子保健】						
1) 新生児マスキリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑤労働衛生】						
1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 労働衛生管理について説明できる。			衛生学Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 栄養と健康						
【①栄養】						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	生化学Ⅱ		衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	生化学Ⅱ		衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。	生化学Ⅱ		衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。	生化学Ⅱ		衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。	生化学Ⅱ		衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。	生化学Ⅱ		衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。	生化学Ⅱ		衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。	生化学Ⅱ		衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②食品機能と食品衛生】						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 油脂が変質する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)		物理系実習Ⅰ	衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③食中毒と食品汚染】						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
D2 環境						
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④放射線の生体への影響】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 環境基本法の理念を説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）		物理系実習Ⅰ		衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）		物理系実習Ⅰ		衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④大気環境】						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 主な大気汚染物質を測定できる。（技能）		物理系実習Ⅰ		衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑤室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）		物理系実習Ⅰ		衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑥廃棄物】						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) マニフェスト制度について説明できる。				衛生学Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1) 薬の作用						
【①薬の作用】						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学Ⅰ、生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。		薬理学Ⅰ、生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。		薬理学Ⅰ、生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		薬理学Ⅰ、生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【②細胞内情報伝達】1～5.参照)		薬理学Ⅰ、生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)		薬物動態Ⅰ、生物系実習Ⅲ	薬物動態Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。		生物系実習Ⅲ		薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)		薬物動態Ⅰ、生物系実習Ⅲ	薬物動態Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		生物系実習Ⅲ		疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)		生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)	研究入門	生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)		生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③日本薬局方】						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 身体の病的変化を知る						
【①症候】						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疽、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸痛、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②病態・臨床検査】						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 薬物治療の位置づけ						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。		薬物治療Ⅰ	薬物治療Ⅱ、薬物治療Ⅲ、薬物治療Ⅳ、薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(4) 医薬品の安全性						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害				疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）		生物系実習Ⅲ		疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
【①自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）		生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）		生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。		薬理学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症、不眠症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
10) 認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
11) 片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)		生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)		薬理学Ⅱ、生物系実習Ⅲ	薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症		薬理学Ⅱ		疾患・有害事象の症候、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④化学構造と薬効】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅰ、薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。		薬理学Ⅰ、薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 創傷治癒の過程について説明できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 免疫抑制薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息(重複)		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態(病態生理、症状等)および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson(スティーブンス-ジョンソン)症候群、中毒性表皮壊死症(重複)、薬剤性過敏症症候群、薬疹		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 以下の疾患について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 バセドウ病(重複)、橋本病(重複)、悪性貧血(重複)、アジソン病、1型糖尿病(重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血(重複)、シェーグレン症候群		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ(重複)		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 臓器移植(腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血)について、拒絶反応および移植片対宿主病(GVHD)の病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④化学構造と薬効】						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(Af)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室細動(Vf)、房室ブロック、QT延長症候群			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)		生物系実習Ⅲ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複) (E2 (7) 【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)		薬物治療Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】						
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜炎、子宮筋腫			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 以下の生殖系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④化学構造と薬効】						
1) 循環系・泌尿器系・生殖系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬物治療Ⅲ、薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬物治療Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 機能的消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③化学構造と薬効】						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内膜症(重複)、アジソン病(重複)			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③化学構造と薬効】						
1) 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(2))【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(7))【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④化学構造と薬効】						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学Ⅰ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬						
【①抗菌薬】						
1) 以下の抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体（アミノグリコシド）系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤（ST合剤を含む）、その他の抗菌薬			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ、その作用機序を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②抗菌薬の耐性】						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症）を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、バラチフス、偽膜性大腸炎			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
1) ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) ウイルス性肝炎 (HAV, HBV, HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理 (急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。(重複)			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 以下のウイルス感染症 (プリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性紅斑 (リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob (クロイツフェルト-ヤコブ) 病			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑦悪性腫瘍】						
1) 腫瘍の定義 (良性腫瘍と悪性腫瘍の違い) を説明できる。			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査 (細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー (腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学 (がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用 (下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害 (手足症候群を含む)、血小板減少等) の軽減のための対処法を説明できる。			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的ながん化学療法レジメン (FOLFOX等) について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 以下の白血病について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性 (慢性) 骨髄性白血病、急性 (慢性) リンパ性白血病、成人T細胞白血病 (ATL)			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 骨肉腫について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 肺癌について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍			薬物治療 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌			薬物治療 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍 (腎癌、膀胱癌) について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
13) 乳癌について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
1) がん終末期の病態 (病態生理、症状等) と治療を説明できる。			薬物治療 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) がん性疼痛の病態 (病態生理、症状等) と薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑩化学構造と薬効】						
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			薬物治療 II、薬物治療 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【①組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 胚性幹細胞 (ES細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS細胞) を用いた細胞移植医療について概説できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 要指導医薬品および一般用医薬品 (リスクの程度に応じた区分 (第一類、第二類、第三類) も含む) について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 主な養生法 (運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む) とその健康の保持・促進における意義を説明できる。				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(10) 医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。			天然資源Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証			天然資源Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。			天然資源Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。			天然資源Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。			天然資源Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 日本薬局方に記載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。			天然資源Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。			天然資源Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。			天然資源Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④EBM (Evidence-based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。 (E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑤生物統計】						
1) 臨床研究における基本的な統計量(平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など)の意味と違いを説明できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な分布(正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布)について概説できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 二群間の差の検定(t検定、 χ^2 検定など)を実施できる。(技能)				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 主な回帰分析(直線回帰、ロジスティック回帰など)と相関係数の検定について概説できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 基本的な生存時間解析法(カプラン・マイヤー曲線など)について概説できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究(治験を含む)の代表的な手法(介入研究、観察研究)を列挙し、それらの特徴を概説できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン(症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など)について概説できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 副作用の因果関係を評価するための方法(副作用判定アルゴリズムなど)について概説できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 介入研究の計画上の技法(症例数設定、ランダム化、盲検化など)について概説できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 統計解析時の注意点について概説できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 介入研究の効果指標(真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント)の違いを、例を挙げて説明できる。				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 臨床研究の結果(有効性、安全性)の主なパラメータ(相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合)を説明し、計算できる。(知識・技能)				バイオスタティスティクス、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑦医薬品の比較・評価】						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能)		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)		患者・医薬品情報		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 患者情報						
【①情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。		患者・医薬品情報		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【③患者の権利】参照)		患者・医薬品情報		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 個別化医療						
【①遺伝的素因】						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②年齢的要因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④その他の要因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤個別化医療の計画・立案】						
1) 個別の患者情報 (遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。				薬物治療の個別化・最適化、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
E4 薬の生体内運命						
(1) 薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物の吸収に影響する因子 (薬物の物性、生理学的要因など) を列挙し、説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 初回通過効果について説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物の組織移行性 (分布容積) と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④代謝】						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物代謝の第 I 相反応 (酸化・還元・加水分解)、第 II 相反応 (抱合) について、例を挙げて説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤排泄】						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		薬物動態 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。			薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)			薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)			薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 薬物動態学-薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。			薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】						
1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。			薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)			薬物動態Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。			薬物動態Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
E5 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤の性質						
【①固形材料】						
1) 粉体の性質について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。		物理系実習Ⅱ	製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2(2)【①酸・塩基平衡】1.及び【②各種の化学平衡】2.参照)		物理系実習Ⅱ	製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。		物理系実習Ⅱ	製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		物理系実習Ⅱ	製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形(レオロジー)について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③分散系材料】						
1) 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2(2)【②各種の化学平衡】4.参照)			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④薬物及び製剤材料の物性】						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。 (C1(3)【①反応速度】1.~7.参照)			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。			製剤化のサイエンスⅠ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②製剤化と製剤試験法】						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。		物理系実習Ⅱ	製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③生物学的同等性】						
1) 製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)						
【①DDS の必要性】						
1) DDSの概念と有用性について説明できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 （プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4.も参照）			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②コントロールドリリース（放出制御）】						
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③ターゲティング（標的指向化）】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④吸収改善】						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤化のサイエンスⅡ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
F 薬学臨床						
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
(1) 薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	早期臨床体験学習			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	早期臨床体験学習			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)	早期臨床体験学習			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【②臨床における心構え】 [A(1)、(2)参照]						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③臨床実習の基礎】						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				事前学習、総合薬学演習		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				事前学習、総合薬学演習		総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。 【B（3）①参照】				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。（態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
9) 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
15) 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
(2) 処方せんに基づく調剤						
【①法令・規則等の理解と遵守】 【B（2）、（3）参照】						
1) 前) 調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義と取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
【②処方せんと疑義照会】						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				事前学習、総合薬学演習		総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。				事前学習、総合薬学演習		総合薬学演習Ⅱ
5) 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
8) 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③処方せんに基づく医薬品の調製】						
1) 前) 薬袋・薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
13) 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
16) 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
18) 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。（態度）				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）				事前学習、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。（態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
10) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
【⑤医薬品の供給と管理】						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
【⑥安全管理】						
1) 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
10) 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
14) 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
(3) 薬物療法の実践						
【①患者情報の把握】						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度） 【E3(2)①参照】				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
6) 患者・薬局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
【②医薬品情報の収集と活用】 〔E3（1）参照〕						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
9) 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。（知識・技能）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の実案ができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
11) 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
(4) チーム医療への参画 [A(4)参照]						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
9) 病院内の多様な医療チーム(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B(4)参照]						
【①在宅(訪問)医療・介護への参画】						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務)を体験する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
4) 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 〔E2（9）参照〕						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
8) 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
【④災害時医療と薬剤師】						
1) 前) 災害時医療について概説できる。				事前学習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）					病院・薬局実務実習	総合薬学演習Ⅱ
9 薬学研究						
（1）薬学における研究の位置づけ						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。		研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。		研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。（知識・技能・態度）	研究入門	物理系実習Ⅰ、物理系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。（態度）		研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
（2）研究に必要な法規範と倫理						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。		研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。		研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）A-(2)-④-3再掲		研究倫理		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
（3）研究の実践						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。（知識・技能）			卒論準備実習、医療薬学特別実習	総合薬学演習Ⅰ、医療薬学特別実習		総合薬学演習Ⅱ
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。（知識・技能）	研究入門	物理系実習Ⅰ、物理系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。（技能・態度）	研究入門	物理系実習Ⅰ、物理系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。（知識・技能・態度）	研究入門	物理系実習Ⅰ、物理系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。（知識・技能・態度）			医療薬学特別実習	総合薬学演習Ⅰ、医療薬学特別実習		総合薬学演習Ⅱ
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。（技能）	研究入門	物理系実習Ⅰ、物理系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

(基礎資料4) カリキュラムマップ

薬学科(6年制)カリキュラム・マップ (旧カリキュラム:平成27年度2年生以上)

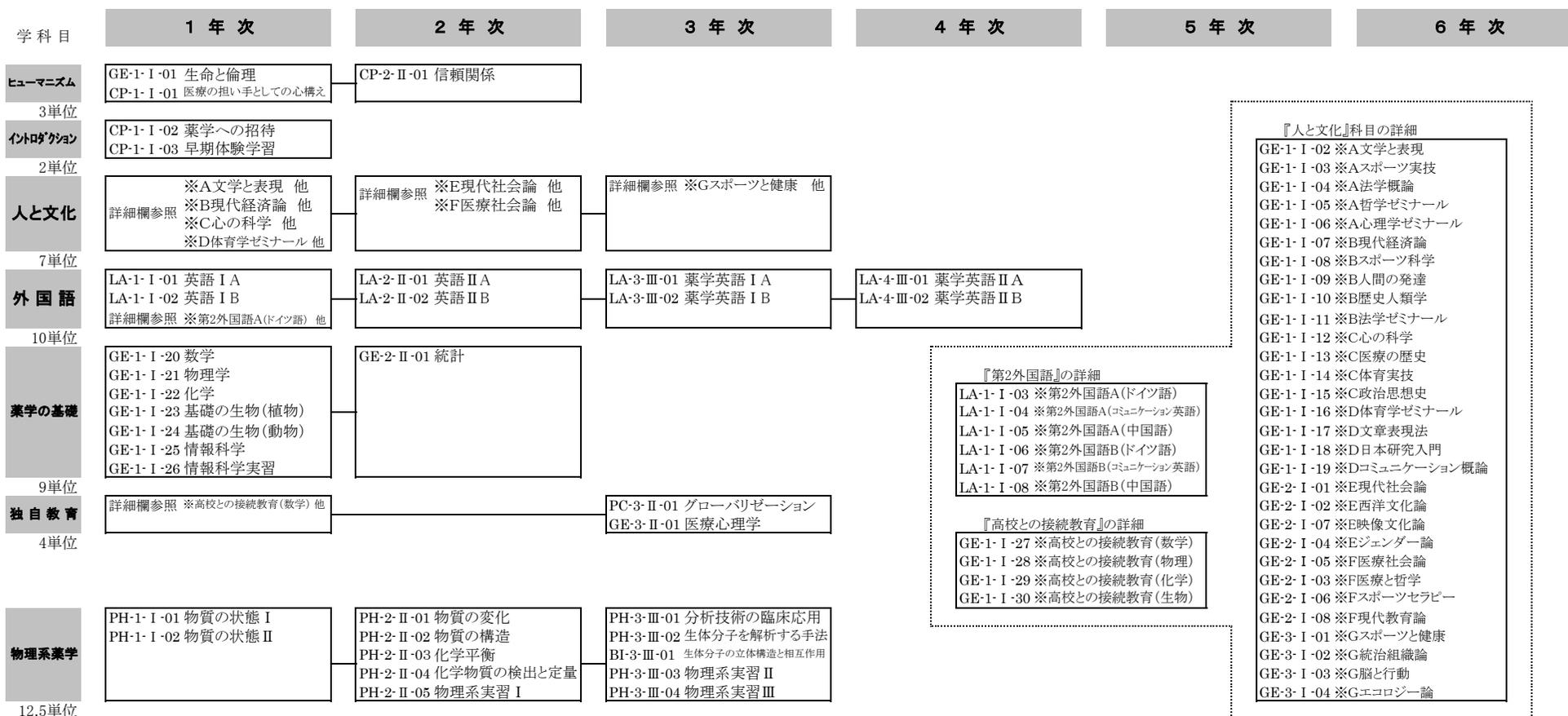
卒業に必要な単位数 188単位

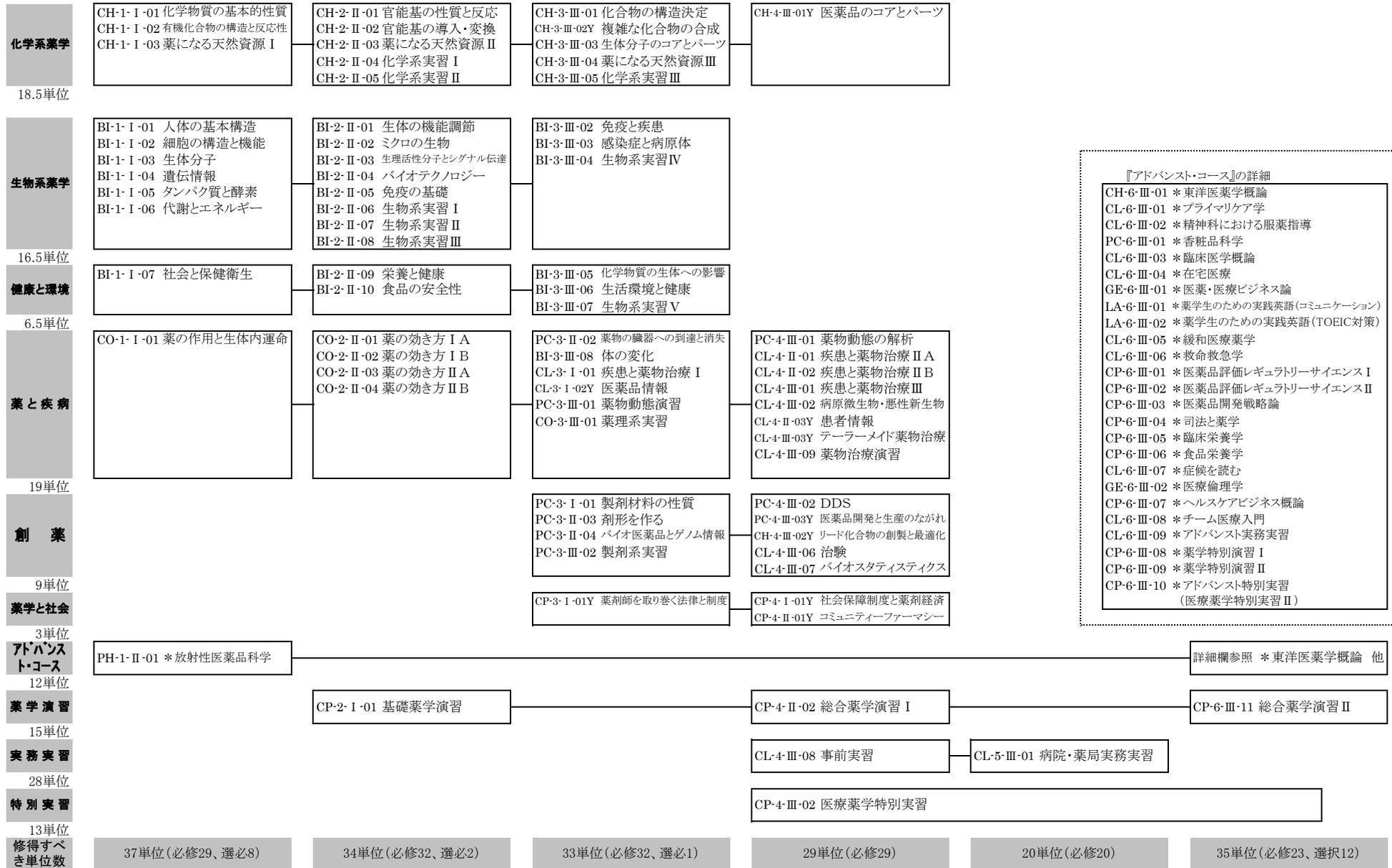
※ 選択必修科目(選必)

※ 選択科目(選択)

カリキュラムナンバー 各科目のナンバーリングは、『分類記号ー開講学年ー段階記号ー通し番号(学年別)』で構成されています。段階を踏んで学べるように科目を配置しておりますので、参考にしてください。

分類記号	GE (General Education)	: 教養系教育科目	段階記号	I : 導入(基礎的な科目)
	LA (Language)	: 語学教育科目		II : 展開(基礎科目を受けて開講する科目)
	PH (Physics)	: 物理系薬学科目		III : 先進(その分類における発展的な科目)
	CH (Chemistry)	: 化学系薬学科目		
	BI (Biology)	: 生物系薬学科目		
	CO (Pharmacology)	: 薬理系薬学科目		
	PC (Pharmaceutics)	: 薬剤系薬学科目		
	CL (Clinical Pharmacy)	: 臨床系薬学科目		
	CP (Comprehensive Pharmacy)	: 薬学全般科目(複数分類にまたがる科目を含む)		





『アドバンスト・コース』の詳細

CH-6-III-01 * 東洋医薬学概論
CL-6-III-01 * プライマリケア学
CL-6-III-02 * 精神科における服薬指導
PC-6-III-01 * 香粧品科学
CL-6-III-03 * 臨床医学概論
CL-6-III-04 * 在宅医療
GE-6-III-01 * 医薬・医療ビジネス論
LA-6-III-01 * 薬学生のための実践英語(コミュニケーション)
LA-6-III-02 * 薬学生のための実践英語(TOEIC対策)
CL-6-III-05 * 緩和医療薬学
CL-6-III-06 * 救命救急学
CP-6-III-01 * 医薬品評価レギュラトリーサイエンス I
CP-6-III-02 * 医薬品評価レギュラトリーサイエンス II
CP-6-III-03 * 医薬品開発戦略論
CP-6-III-04 * 司法と薬学
CP-6-III-05 * 臨床栄養学
CP-6-III-06 * 食品栄養学
CL-6-III-07 * 症候を読む
GE-6-III-02 * 医療倫理学
CP-6-III-07 * ヘルスケアビジネス概論
CL-6-III-08 * チーム医療入門
CL-6-III-09 * アドバンスト実務実習
CP-6-III-08 * 薬学特別演習 I
CP-6-III-09 * 薬学特別演習 II
CP-6-III-10 * アドバンスト特別実習 (医療薬学特別実習 II)

薬学科(6年制)カリキュラム・マップ (新カリキュラム:平成27年度1年生)

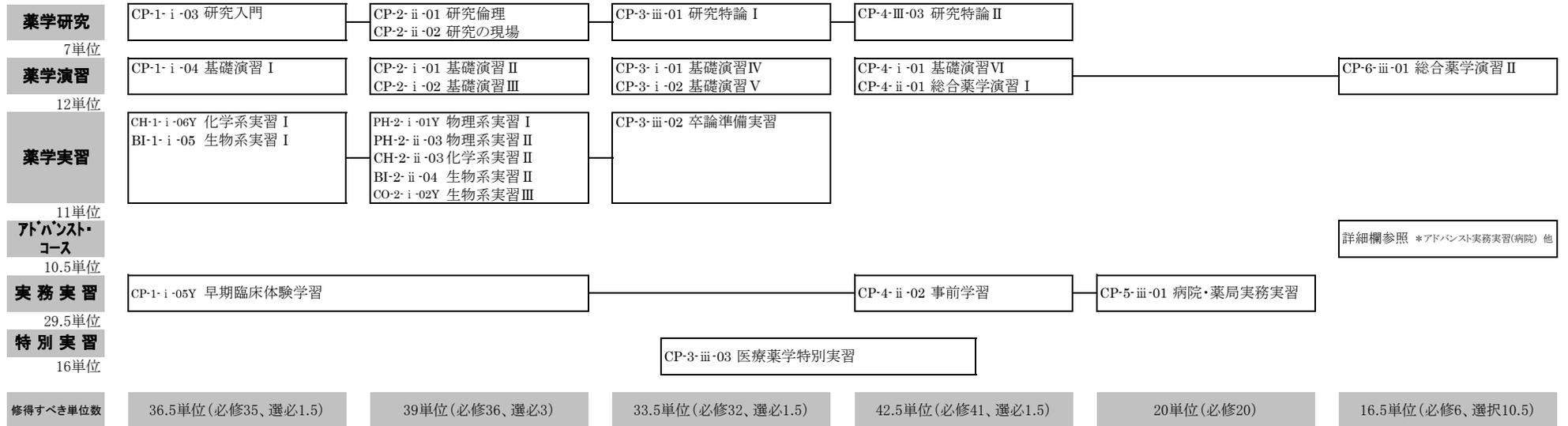
卒業に必要な単位数 188単位

※ 選択必修科目(選必)
* 選択科目(選択)

カリキュラムナンバー 各科目のナンバーリングは、『分類記号－開講学年－段階記号－通し番号(学年別)』で構成されています。段階を踏んで学べるように科目を配置しておりますので、参考してください。

分類記号	GE (General Education)	: 教養系教育科目	段階記号	i : 導入(基礎的な科目)
	LA (Language)	: 語学教育科目		
	PH (Physics)	: 物理系薬学科目		ii : 展開(基礎科目を受けて開講する科目)
	CH (Chemistry)	: 化学系薬学科目		
	BI (Biology)	: 生物系薬学科目		iii : 先進(その分類における発展的な科目)
	CO (Pharmacology)	: 薬理系薬学科目		
	PC (Pharmaceutics)	: 薬剤系薬学科目		
	CL (Clinical Pharmacy)	: 臨床系薬学科目		
	CP (Comprehensive Pharmacy)	: 薬学全般科目(複数分類にまたがる科目を含む)		

学 科 目	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	5 年 次	6 年 次
人と文化 9単位	GE-1-i-01 薬学人としての教養入門 詳細欄参照 ※A西洋の言語と風土 他	詳細欄参照 ※B芸術と社会 他 ※C映像文化論 他	詳細欄参照 ※Dデジタルライティング 他	詳細欄参照 ※E異文化理解 他		
薬学英語 15単位	LA-1-i-01 英語リーディング・ライティングA LA-1-i-02 英語リーディング・ライティングB LA-1-i-03 英語スピーキングA LA-1-i-04 英語スピーキングB	LA-2-ii-01 英語ディスカッションA LA-2-ii-02 英語ディスカッションB LA-2-ii-03 医療・薬学英語 I A LA-2-ii-04 医療・薬学英語 I B	LA-3-iii-01 医療・薬学英語 II A LA-3-iii-02 医療・薬学英語 II B			
情報科学 3.5単位	GE-1-i-10 情報科学と情報倫理 GE-1-i-11 情報科学演習		GE-3-ii-01 情報リテラシー			
薬学と社会 8.5単位	CP-1-i-01 薬学の心構え I CP-1-i-02 薬学の心構え II		CP-3-ii-01 ファーマシューティカルコミュニケーション CP-3-ii-02 薬学と社会 I	CP-4-iii-01 医療人としての薬剤師 CP-4-iii-02 薬学と社会 II		
物理系薬学 16.5単位	PH-1-i-01 数学 I PH-1-i-02 物理学 PH-1-i-03 物理化学 I PH-1-i-04 分析化学 I	PH-2-ii-01 物理化学 II PH-2-ii-02 分析化学 II PH-2-iii-03 臨床分析の基礎と応用	PC-3-i-01 製剤化のサイエンス I PC-3-ii-01 製剤化のサイエンス II	CL-4-iii-01 バイオスタティスティクス PC-4-iii-01 医薬品開発と生産のながれ		
化学系薬学 15単位	CH-1-i-01 化学 CH-1-i-02 有機化学 I CH-1-i-03 有機化学 II A CH-1-i-04 有機化学 II B CH-1-i-05 天然資源 I	CH-2-ii-01 有機化学 III A CH-2-ii-02 有機化学 III B	CH-3-iii-01 天然資源 II CH-3-iii-02 生物有機化学	CH-4-iii-01 創薬化学		
生物系薬学 16.5単位	BI-1-i-01 生化学 I BI-1-i-02 生化学 II BI-1-i-03 機能形態学 I BI-1-i-04 機能形態学 II	BI-2-ii-01 微生物学 BI-2-ii-02 細胞生物学 BI-2-ii-03 免疫学	BI-3-iii-01 分子生物学 BI-3-iii-02 衛生学 I BI-3-iii-03 衛生学 II	BI-4-iii-01 衛生学 III		
医療薬学 18単位		CO-2-i-01 薬理学 I CO-2-ii-01 薬理学 II CL-2-i-01 患者・医薬品情報 PC-2-i-01 薬物動態 I CL-2-i-02 薬物治療 I	PC-3-ii-01 薬物動態 II CL-3-ii-01 薬物治療 II CL-3-ii-02 薬物治療 III CL-3-ii-03 薬物治療 IV CL-3-ii-04 薬物治療 V	CL-4-iii-02 薬物治療の個別化・最適化 CL-4-iii-03 疾患・有害事象の症候		



『人と文化』科目の詳細

GE-1-i-02 ※A西洋の言語と風土	GE-2-i-11 ※C教育学特論
GE-1-i-03 ※Aコミュニケーション概論	GE-2-i-12 ※C法学特論
GE-1-i-04 ※A文章表現法	GE-2-i-13 ※C心の科学
GE-1-i-05 ※A歴史人類学	GE-2-i-14 ※Cスポーツ科学特論
GE-1-i-06 ※A政治思想史	GE-3-i-01 ※Dロジカルライティング
GE-1-i-07 ※A共生社会と人間	GE-3-i-02 ※Dエコロジー論
GE-1-i-08 ※A現代経済論	GE-3-i-03 ※D日本の法制度と憲法
GE-1-i-09 ※Aスポーツ実技	GE-3-i-04 ※D物質の究極値と宇宙
GE-2-i-01 ※B芸術と社会	GE-3-i-05 ※D人間の発達
GE-2-i-02 ※B西洋の歴史と文化	GE-3-i-06 ※Dスポーツセラピー
GE-2-i-03 ※B生命倫理	GE-3-i-07 ※D数理科学の方法
GE-2-i-04 ※B現代社会論	GE-4-i-01 ※E異文化理解
GE-2-i-05 ※Bジェンダー論	GE-4-i-02 ※E日本文化から国際社会へ
GE-2-i-06 ※B心理学特論	GE-4-i-03 ※Eアジアの人と文化
GE-2-i-07 ※B体育実技	GE-4-i-04 ※E世界の宗教と社会
GE-2-i-08 ※C映像文化論	GE-4-i-05 ※E国際ジャーナリズム
GE-2-i-09 ※C医療社会論	GE-4-i-06 ※E世界の法と経済
GE-2-i-10 ※C哲学特論	GE-4-i-07 ※E世界の統合医療

『アドバンスト・コース』の詳細(予定)

*アドバンスト実務実習(病院)	*化粧品科学
*アドバンスト実務実習(薬局)	*臨床評価学
*海外薬局研修	*臨床研究・統計学
*アドバンスト特別実習	*経営学の諸相
*チーム医療入門	*MR概論
*専門薬剤師特論 I	*医薬・医療ビジネス論
*専門薬剤師特論 II	*医薬品評価レギュラトリーサイエンス
*専門薬剤師特論 III	*医薬品開発戦略論
*専門薬剤師特論 IV	*医療マネジメント学(病院運営)
*救命救急学	*医療マネジメント学(薬局運営)
*臨床栄養学 I	*薬事と行政
*臨床栄養学 II	*アドバンストコミュニケーション学
*食品栄養学 I	*薬学生のための実践英会話
*食品栄養学 II	*TOEIC/TOEFL対策
*漢方治療学	*Academic Writing
*プライマリケア学	*思考トレーニング

(基礎資料5) 語学教育の要素

旧カリキュラム

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語ⅠA	1	○	○	○	○
英語ⅠB	1	○	○	○	○
第2外国語A(ドイツ語、コミュニケーション英語、中国語)	1	○	○	○	○
第2外国語B(ドイツ語、コミュニケーション英語、中国語)	1	○	○	○	○
英語ⅡA	2	○	○	○	○
英語ⅡB	2	○	○	○	○
薬学英語ⅠA	3	○	○	○	○
薬学英語ⅠB	3	○	○	○	○
薬学英語ⅡA	4	○			
薬学英語ⅡB	4	○			
薬学生のための実践英語(コミュニケーション)	6			○	○
薬学生のための実践英語(TOEIC対策)	6	○		○	

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料5) 語学教育の要素

新カリキュラム

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語リーディング・ライティングA	1	○	○	○	
英語リーディング・ライティングB	1	○	○	○	
英語スピーキングA	1			○	○
英語スピーキングB	1			○	○
英語ディスカッションA	2			○	○
英語ディスカッションB	2			○	○
医療・薬学英语ⅠA	2	○	○	○	○
医療・薬学英语ⅠB	2	○	○	○	○
医療・薬学英语ⅡA	3	○			
医療・薬学英语ⅡB	3	○			
薬学生のための実践英会話	6			○	○
TOEIC/TOEFL対策	6	○	○	○	
Academic Writing	6	○	○		

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

実習日	日付	前半 後半	実習内容	LS	学習 方法	時間
						(90×)
1	4/6 (月)	全体	オリエンテーション (事前実習の目的、身だしなみ、メンタル アンケート、救命用紙など)	S101 S102	講義	0.5
		全体	ガイダンス (注意事項、試験についてなど)		講義	0.5
		全体	実務実習報告会について		講義	0.5
		全体	事前学習・実務実習における実習日誌の書 き方の注意点、メールの書き方の注意点な ど		講義	0.5
		全体	今日の治療薬の見方 DI、リスクマネジメント	S501 S502 S503	講義	1
2	4/7 (火)	全体	KJ法	S101 S102 S103 S106	演習	3
3	4/8 (水)	全体	処方	S201 S202 S203 S205 S206 S209	講義	2
		全体	患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦 など)に適した用法・用量 警告、禁忌、副作用、相互作用	S207 S305	講義	1
4	4/9 (木)	全体	倫理	S101	演習	3
5	4/13 (月)	全体	接遇について		講義	1
		全体	態度教育		演習	2
6	4/14 (火)	全体	がん治療で用いられる薬品について正しい と判断できる知識を習得する	S504 S505	講義	1
		全体	注射調剤の流れ、無菌操作	S411	講義	1
		全体	配合変化	S302 S412	講義	1
7	4/15 (水)	全体	処方解析		演習	3
8	4/16 (木)	全体	疑義照会	S204 S301 S302 S303 S305	講義	1
		全体	輸液	S413	講義	1
		全体	フィジカルアセスメント(医師)		講義	1
9	4/20 (月)	全体	調剤複合 (調剤の流れ、調剤鑑査、散剤、処方鑑査 +錠剤、コミュニケーション、計算)	S210	演習	3
10	4/21 (火)	全体	テスト(講義内容、医薬品含む)		演習	1
		全体	院内製剤・薬局製剤、消毒薬	S408 S409 S414	講義	1
		全体	栄養	S413	講義	1

実習日	日付	前半 後半	実習内容	LS	学習 方法	時間
						(90×)
11	4/23 (木)	前半	注射計数	S210 S406	演習	3
12	4/27 (月)	前半	輸液	S413	演習	3
13	4/28 (火)	前半	フィジカルアセスメント①		演習	3
14	4/30 (木)	前半	OTC		演習	3
15	5/7 (木)	前半	無菌操作	S302 S411 S412	演習	3
16	5/11 (月)	前半	栄養	S413	演習	3
17	5/12 (火)	前半	フィジカルアセスメント②		演習	3
18	5/13 (水)	前半	臨床推論		演習	3
19	5/14 (木)	前半	在宅		講義	1
		前半	医薬品管理	S401 S402 S403	講義	1
		前半	血液	S404 S405	講義	1
11		後半	救命救急	S507	演習	3
20 12	5/16 (土)	前半 後半	実務実習・ アドバンスト実務実習報告会		講義	3
21	5/18	前半	コミュニケーション		演習	3
13	(月)	後半	院内教室	S602	演習	3
22	5/19 (火)	前半	疑義照会 (OSCE形式)	S304 S306	演習	3
		前半	計数調剤 (OSCE形式)	S210 S306	演習	
14		後半	リスク	S501 S501 S503 S506 S507	演習	3
23	5/20	前半	テスト (演習、医薬品含む)		演習	3
15	(水)	後半	口頭試験		演習	3
16	5/21 (木)	後半	注射計数	S210 S406	演習	3
17	5/25 (月)	後半	輸液	S413	演習	3
18	5/26 (火)	後半	フィジカルアセスメント①		演習	3
19	5/27 (水)	後半	OTC		演習	3
20	5/28 (木)	後半	無菌操作	S302 S411 S412	演習	3
21	6/1 (月)	後半	栄養	S413	演習	3
22	6/2 (火)	後半	フィジカルアセスメント②		演習	3
23	6/3 (水)	後半	臨床推論		演習	3
24		前半	救命救急	S507	演習	3
		後半	在宅		講義	1

24	6/4 (木)	後半	医薬品管理	S401 S402 S403	講義	1
		後半	血液	S404 S405	講義	1
25	6/8 (月)	前半	院内教室	S602	演習	3
25		後半	コミュニケーション		演習	3
26	6/9 (火)	前半	リスク	S501 S501 S503 S506 S507	演習	3
		後半	疑義照会 (OSCE形式)	S304 S306	演習	3
26	後半	計数調剤 (OSCE形式)	S210 S306	演習		
27	6/10 (水)	前半	口頭試験		演習	3
27		後半	テスト (演習、医薬品含む)		演習	3

実習日	日付	前半 後半	実習内容	LS	学習 方法	時間
						(90×)
28	9/14 (月)	前半	連絡事項、OSCEについて		講義	0.5
			コミュニケーション	S601 S602 S603 S604 S605 S606	講義	1
			医療安全	S501 S502	講義	1
			テスト (医薬品)		演習	0.5
29	9/15 (火)	前半	無菌操作	S411	演習	3
30	9/16 (水)	前半	軟膏、院内製剤	S210 S408 S410	演習	3
31	9/17 (木)	前半	コミュニケーション	S603 S606	演習	1.5
			調剤薬鑑査	S210	演習	1.5
32	9/28 (月)	前半	水剤	S210	演習	1.5
			散剤	S210 S303	演習	1.5
33	9/29 (火)	前半	コミュニケーション+疑義照会+計数調剤	S701	演習	3
34	9/30 (水)	前半	軟膏剤	S701	演習	3
35	10/1 (木)	前半	水剤	S302 S701	演習	3
36	10/5 (月)	前半	散剤	S701	演習	3
37	10/6 (火)	前半	調剤薬鑑査	S701	演習	3
38	10/7 (水)	前半	無菌操作	S411	演習	3
28	10/8 (木)	後半	連絡事項、OSCEについて		講義	0.5
			コミュニケーション	S601 S602 S603 S604 S605 S606	講義	1
			医療安全	S501 S502	講義	1
			テスト (医薬品)		演習	0.5

29	10/13 (火)	後半	無菌操作	S411	演習	3
30	10/14 (水)	後半	軟膏、院内製剤	S210 S408 S410	演習	3
31	10/15 (木)	後半	コミュニケーション	S603 S606	演習	1.5
			調剤薬鑑査	S210	演習	1.5
39	10/17	前半	実務実習報告会			講義
32	(土)	後半				
33	10/19 (月)	後半	水剤	S210	演習	1.5
			散剤	S210 S303	演習	1.5
34	10/20 (火)	後半	コミュニケーション+疑義照会+計数調剤	S701	演習	3
35	10/21 (水)	後半	軟膏剤	S701	演習	3
36	10/22 (木)	後半	水剤	S302 S701	演習	3
37	10/26 (月)	後半	散剤	S701	演習	3
38	10/27 (火)	後半	調剤薬鑑査	S701	演習	3
39	10/28 (水)	後半	無菌操作	S411	演習	3
40	11/30 (月)	前半	総合演習 コミュニケーション、散剤、無菌操作	S701	演習	3
41	12/1 (火)	前半	総合演習 コミュニケーション、計数調剤、調剤薬鑑査	S701	演習	3
42	12/2 (水)	前半	総合演習講義 * 10:30 スタート	S701	講義	3
43	12/3 (木)	前半	総合演習 水剤、軟膏剤	S701	演習	3
40	12/7 (月)	後半	総合演習 コミュニケーション、散剤、無菌操作	S701	演習	3
41	12/8 (火)	後半	総合演習 コミュニケーション、計数調剤、調剤薬鑑査	S701	演習	3
42	12/9 (水)	後半	総合演習講義 * 10:30 スタート	S701	演習	3
43	12/10 (木)	後半	総合演習 水剤、軟膏剤	S701	演習	3
44	12/14 (月)	前半	総合演習	S701	演習	3
44	12/15 (火)	後半	総合演習	S701	演習	3

(基礎資料7) 学生受入状況について

学部	学科名	入試の種類		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
				入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	入試(26年度実施)	入試(27年度実施)	
薬学部	薬学科	一般入学試A方式(大学入試センター試験利用)	受験者数	860	970	976	1,050	845	995	128.3%
			合格者数	134	161	151	161	190	167	
			入学者数(A)	11	15	10	7	27	7	
			募集定員数(B)	10	10	10	10	10	10	
		A/B*100(%)	110.0%	150.0%	100.0%	70.0%	270.0%	70.0%		
		一般入学試B方式(個別試験)	受験者数	1,491	1,629	1,684	1,826	1,807	1,676	95.8%
			合格者数	336	313	308	317	291	369	
			入学者数(A)	131	108	102	112	106	131	
			募集定員数(B)	120	120	120	120	120	120	
		A/B*100(%)	109.2%	90.0%	85.0%	93.3%	88.3%	109.2%		
		一般入学試S方式(大学入試センター試験・個別試験併用入試)	受験者数	368	476	492	562	500	394	106.7%
			合格者数	97	118	103	104	101	95	
			入学者数(A)	24	39	27	31	35	36	
			募集定員数(B)	30	30	30	30	30	30	
		A/B*100(%)	80.0%	130.0%	90.0%	103.3%	116.7%	120.0%		
		公募制推薦入学選考A(専願)	受験者数	294	285	302	317	320	289	101.5%
			合格者数	84	83	82	81	80	78	
			入学者数(A)	84	83	82	81	79	78	
			募集定員数(B)	80	80	80	80	80	80	
		A/B*100(%)	105.0%	103.8%	102.5%	101.3%	98.8%	97.5%		
公募制推薦入学選考B(併願可)	受験者数	215	275	275	276	288	302	203.3%		
	合格者数	83	93	81	87	86	77			
	入学者数(A)	40	45	40	47	39	33			
	募集定員数(B)	20	20	20	20	20	20			
A/B*100(%)	200.0%	225.0%	200.0%	235.0%	195.0%	165.0%				
学 科 計	受験者数	3,228	3,635	3,729	4,031	3,760	3,656	108.3%		
	合格者数	734	768	725	750	748	786			
	入学者数(A)	290	290	261	278	286	285			
	募集定員数(B)	260	260	260	260	260	260			
	A/B*100(%)	111.5%	111.5%	100.4%	106.9%	110.0%	109.6%			

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な6年制薬学科の教員数 * 1	34名
②設置基準において、必要な実務家教員数 * 2	6名

* 1 大学設置基準 第二条別表第一、イ備考4

* 2 大学設置基準 別表第一、イ十号

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育	2	2	2			
語学教育	1					
薬学基礎教育	2	7	5	6	1	TA:1, RA:2
専門薬学教育	17	12	5	20	2	TA:28, RA:18
実務実習教育	1(1)	1(1)	5(5)			7名全員が実務家教員
小計	23(1)	22(1)	17(5)	26	3	
専任教員数	88 (7)					
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連	1	2(1)	3	36(5)	4(1)	医療職:1, 技術職:3(1)
法人業務関連				1		
小計	1	2(1)	3	37(5)	4(1)	
事務職員数	43 (6)					

- [注] 1 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 2 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示:6(2)=6名のうち2名が特任)
- 3 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示:3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 5 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授		7	14(2)	2			23(2)
	%	30.4%	60.9%	8.7%	%	%	100%
准教授		1	6	15(3)			22(3)
	%	4.5%	27.3%	68.2%	%	%	100%
専任講師		2(1)	3(2)	4(1)	8		17(4)
	%	11.8%	17.6%	23.5%	47.1%	%	100%
助教			2(2)	5(2)	17(4)	2(1)	26(9)
	%	%	7.7%	19.2%	65.4%	7.7%	100%
合計		10(1)	25(6)	26(6)	25(4)	2(1)	88(18)
	%	11.4%	28.4%	29.5%	28.4%	2.3%	100%
定年年齢	65歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ()に女性の数を記入してください。(例示: 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

注) 以下の授業時間数には、兼担している創薬科学科の時間数も含んでいる。

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 職 年月日	現職就任 年月日	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科 (兼 創薬科学科)	学長	学長	たなか たかはる	男	69	H24. 4. 1	H24. 4. 1	薬学の心構え I	0.21						0.21	0.00	0.11	神戸大学 理学研究科 修士課程 修士課程 修士課程 理博
			田中 隆治										0.00	0.00				
													0.00	0.00				
			計					0.21	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.21	0.00			
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤学教室	教授	たかやま こうぞう	男	63	S54. 4. 1	H11. 4. 1	製材材料の性質	2.50					2.50	0.00	2.83	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修士課程 修士課程 薬博	
			刑形を作る					0.83	1.25				0.83	1.25				
			D D S										0.00	0.00				
			製材系実習								0.97		0.00	0.97				
			総合薬学演習Ⅱ							0.10			0.00	0.10				
計	3.33	1.25	0.00	0.10	0.00	0.97	3.33	2.32										
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬物治療学 教室	教授	かめい じゅんぞう	男	59	S58. 4. 1	H14. 10. 1	疾患と薬物治療ⅡA	2.50					2.50	0.00	5.43	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修士課程 修士課程 薬博	
			疾患と薬物治療Ⅲ					2.12					2.12	0.00				
			治療						0.31				0.00	0.31				
			緩和医療薬学					0.10					0.10	0.00				
			薬物治療演習							5.82			5.82	0.00				
計	4.72	0.31	5.82	0.00	0.00	0.00	10.54	0.31										
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬動学教室	教授	すぎやま きよし	男	64	H13. 10. 1	H15. 4. 1	薬物の臓器への到達と消失		2.50				0.00	2.50	1.94	静岡薬科大学 薬学研究科 博士課程 修士課程 修士課程 薬博	
			薬物動態演習						1.17				1.17	0.00				
			総合薬学演習Ⅱ							0.21			0.00	0.21				
			計					0.00	2.50	1.17	0.21	0.00	1.17	2.71				
薬学科 (兼 創薬科学科)	衛生化学教 室	教授	たかはし のりこ	女	57	H7. 6. 1	H16. 4. 1	生活環境と健康	0.38		0.19			0.57	0.00	6.16	京都大学 薬学研究科 博士課程 修士課程 修士課程 薬博	
			化学物質の生体への影響					2.31		0.19			2.50	0.00				
			グローバリゼーション										0.00	0.19				
			物理系実習Ⅲ								2.92		2.92	0.00				
			生物系実習Ⅳ								5.83		5.83	0.00				
			総合薬学演習Ⅱ							0.31			0.00	0.31				
計	2.69	0.19	0.38	0.31	8.75	0.00	11.82	0.50										
薬学科 (兼 創薬科学科)	実務教育研 究部門	教授 (実務家)	さくらい しょうたろう	男	64	H17. 5. 1	H17. 5. 1	医薬品情報		0.96				0.00	1.54	9.65	星薬科大学 学士課程 修士課程 修士課程 博(薬)	
			事前実習									5.83	5.83	5.83	5.83			
			薬学の心構えⅠ					6.00					6.00	0.00				
			総合薬学演習Ⅱ							0.10			0.00	0.10				
計	6.00	0.96	0.00	0.68	5.83	5.83	11.83	7.47										
薬学科 (兼 創薬科学科)	生体分子有 機化学研究 室	教授	つぶき まさよし	男	61	S58. 4. 1	H21. 4. 1	官能基の導入・変換		2.50				0.00	2.50	8.36	東北大学 薬学研究科 博士課程 修士課程 修士課程 薬博	
			医薬品科学Ⅱ						1.25				0.00	1.25				
			合成化学					1.25					1.25	0.00				
			化学系実習Ⅱ									8.75	0.00	8.75				
			化学系実習Ⅰ									2.86	0.00	2.86				
			総合薬学演習Ⅱ							0.10			0.00	0.10				
計	1.25	3.75	0.00	0.10	0.00	11.61	1.25	15.46										
薬学科 (兼 創薬科学科)	医療薬剤学 教室	教授	おおにし ひらく	男	59	S58. 1. 1	H22. 4. 1	医薬品開発と生産のながれ	2.50					2.50	0.00	2.95	東京大学 薬学系研究科 博士課程 中退 薬博	
			医薬品科学Ⅰ					0.87					0.87	0.00				
			グローバリゼーション						1.35				0.00	1.35				
			薬物動態演習							1.17			1.17	0.00				
計	3.37	1.35	1.17	0.00	0.00	0.00	4.54	1.35										

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬理学教室	教授	なりた むのる 成田 年	男	51	H11. 7. 1	H23. 4. 1	薬の効き方ⅠA	2.50						2.50	0.00	7.13	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)	
								薬の効き方ⅡB	0.19	2.50						0.00			2.50
								緩和医療薬学							8.75	0.00			8.75
								薬理系実習							0.00	8.75			
								総合薬学演習Ⅱ				0.31			0.00	0.31			
計	2.69	2.50	0.00	0.31	0.00	8.75	2.69	11.56											
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤師教育 研究部門	教授	あさい かずのり 浅井 和範	男	56	H18. 4. 1	H23. 6. 1	総合薬学演習Ⅰ				0.21			0.00	0.21	0.32	星薬科大学 学士課程 修了 博(薬)	
								総合薬学演習Ⅱ				0.42			0.00	0.42			
														0.00	0.00				
														0.00	0.00				
								計	0.00	0.00	0.00	0.63	0.00	0.00	0.00	0.63			
薬学科 (兼 創薬科学科)	病態生理学 教室	教授	むとう あきひろ 武藤 章弘	男	51	H15. 4. 1	H24. 4. 1	免疫と疾患	1.88						1.88	0.00	2.97	慶應義塾大学 学士課程 修了 博(医)	
								疾患と薬物治療Ⅰ		1.88					0.00	1.88			
								症候を讀む	1.25						1.25	0.00			
								病原微生物・悪性新生物		0.63					0.00	0.63			
								総合薬学演習Ⅱ				0.31			0.00	0.31			
計	3.13	2.50	0.00	0.31	0.00	0.00	3.13	2.81											
薬学科 (兼 創薬科学科)	物理学研究 室	教授	なかがわ こういち 中川 弘一	男	53	H5. 4. 1	H25. 1. 1	物理学	3.00						3.00	0.00	1.61	立教大学 理学研究科 博士課程 修了 理博	
								基礎演習Ⅰ				0.21				0.00			0.21
														0.00	0.00				
								計	3.00	0.00	0.00	0.21	0.00	0.00	3.00	0.21			
薬学科 (兼 創薬科学科)	英語研究室	教授	かなざわ ようこ 金澤 洋子	女	53	H25. 4. 1	H25. 4. 1	英語ⅡA			2.50				2.50	0.00	6.47	東京大学 総合文化研究科 博士課程 満期退学 修(学術)	
								英語ⅡB			2.50				0.00	2.50			
								薬学英语ⅠA			2.50				2.50	0.00			
								薬学英语ⅠB			2.50				0.00	2.50			
								薬学英语ⅡA			1.25				1.25	0.00			
								薬学英语ⅡB			1.25				0.00	1.25			
								薬学人としての教養入門	0.43						0.43	0.00			
計	0.43	0.00	6.25	6.25	0.00	0.00	6.68	6.25											
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬品分析化 学教室	教授	さいとう こういち 斉藤 貢一	男	59	H16. 7. 1	H25. 4. 1	化学物質の検出と定量				2.12			0.00	2.12	8.24	日本大学 学士課程 修了 博(薬)	
								分析技術の臨床応用	2.50						2.50	0.00			
								司法と薬学	0.21						0.21	0.00			
								生体分子を解析する手法		2.50					0.00	2.50			
								物理系実習Ⅱ						8.75	8.75	0.00			
								総合薬学演習Ⅱ				0.21			0.00	0.21			
								計	2.71	4.62	0.00	0.40	8.75	0.00	11.46	5.02			
薬学科 (兼 創薬科学科)	哲学研究室	教授	しげの とよたか 重野 豊隆	男	62	H20. 4. 1	H26. 1. 1	医療と哲学	1.25						1.25	0.00	3.27	東洋大学 文学研究科 博士課程 単位取得退学 文修	
								薬学英语ⅡA			1.25				1.25	0.00			
								薬学英语ⅡB			1.25				0.00	1.25			
								薬学人としての教養入門	0.86						0.86	0.00			
								薬学の心構えⅠ	0.43						0.43	0.00			
								薬学の心構えⅡ		1.50					0.00	1.50			
計	2.54	1.50	1.25	1.25	0.00	0.00	3.79	2.75											
薬学科 (兼 創薬科学科)	生化学教室	教授	かわしま ひろと 川島 博人	男	50	H26. 5. 1	H26. 5. 1	生物系実習Ⅰ					5.83		5.83	0.00	4.42	東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 博(薬)	
								生化学Ⅰ	1.50						1.50	0.00			
								生化学Ⅱ		1.50					0.00	1.50			
															0.00	0.00			
								計	1.50	1.50	0.00	0.00	5.83	0.00	7.33	1.50			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
薬学科 (兼 創薬科学科)	教育実習セ ンター	教授	わち ひろし 輪千 浩史	男	47	H11.4.1	H27.4.1	バイオテクノロジー		2.50						0.00	2.50	11.54	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)
								体の変化	2.50							2.50	0.00		
								生物系実習Ⅳ					5.83			5.83	0.00		
								物理系実習Ⅲ					2.92			2.92	0.00		
								研究入門	0.25		0.25		1.43			1.93	0.00		
								生物系実習Ⅰ						7.29		0.00	7.29		
								総合薬学演習Ⅱ				0.10				0.00	0.10		
								計	2.75	2.50	0.25	0.10	10.18	7.29	13.18	9.89			
薬学科 (兼 創薬科学科)	心理学研究 室	准教授	かわさき かつよし 川崎 勝義	男	51	H13.4.1	H16.10.1	脳と行動	1.25						1.25	0.00	3.57	筑波大学 心理学研究科 博士課程 中退 教修	
								医療心理学		2.50					0.00	2.50			
								薬学英語ⅡA			1.25				1.25	0.00			
								薬学人としての教養入門	0.43						0.43	0.00			
								薬学の心構えⅡ			1.71				1.71	0.00			
								計	1.68	2.50	2.96	0.00	0.00	0.00	4.64	2.50			
薬学科 (兼 創薬科学科)	実務教育研 究部門	准教授 (実務家)	まだら よしあき 町田 昌明	男	54	H17.8.1	H17.8.1	医療情報	0.77		0.10				0.87	0.00	4.29	星薬科大学 学士課程 修了 博(薬)	
								薬物治療演習			1.46				1.46	0.00			
								事前実習						5.83	0.00	5.83			
								総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21				
								総合薬学演習Ⅱ			0.21			0.00	0.21				
								計	0.77	0.00	1.56	0.42	0.00	5.83	2.33	6.25			
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬品物理化 学教室	准教授	えんどう ともひろ 遠藤 朋宏	男	49	H4.4.1	H20.4.1	物理系実習Ⅰ					8.75		8.75	0.00	5.49	東京薬科大学 学士課程 修了 博(薬)	
								物理化学Ⅰ		1.71					0.00	1.71			
								総合薬学演習Ⅰ			0.21				0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ			0.31				0.00	0.31			
								計	0.00	1.71	0.00	0.52	8.75	0.00	8.75	2.23			
薬学科 (兼 創薬科学科)	総合基礎薬 学教育研究 部門	准教授	ちば よしひこ 千葉 義彦	男	49	H8.4.1	H20.4.1	バイオスタティクス	2.50	0.42					0.00	0.42	4.49	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)	
								薬の効き方ⅠB		2.50					2.50	0.00			
								薬の効き方ⅡA		2.50					0.00	2.50			
								薬学英語ⅡA			1.25				1.25	0.00			
								生物系実習Ⅰ					1.79		0.00	1.79			
								総合薬学演習Ⅰ			0.21				0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ			0.31				0.00	0.31			
								計	2.50	2.92	1.25	0.52	0.00	1.79	3.75	5.23			
薬学科 (兼 創薬科学科)	衛生化学教 室	准教授	たかはし かつひこ 高橋 勝彦	男	47	H20.4.1	H20.4.1	生活環境と健康	1.15		0.19				1.34	0.00	5.93	東京大学 薬学系研究科 修士課程 修了 博(薬)	
								薬学英語ⅡB			1.25				0.00	1.25			
								物理系実習Ⅲ					2.92		2.92	0.00			
								生物系実習Ⅳ					5.83		5.83	0.00			
								総合薬学演習Ⅰ			0.21				0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ			0.31				0.00	0.31			
								計	1.15	0.00	0.19	1.77	8.75	0.00	10.09	1.77			
薬学科 (兼 創薬科学科)	衛生化学教 室	准教授	やまさき まさひろ 山崎 正博	男	42	H12.4.1	H21.4.1	栄養と健康	2.50						2.50	0.00	8.61	京都大学 薬学研究科 博士課程 修了 薬博	
								食品の安全性		2.50					0.00	2.50			
								グローバルイノベーション		0.19					0.00	0.19			
								生物系実習Ⅴ					8.75		0.00	8.75			
								生物系実習Ⅰ					2.86		0.00	2.86			
								総合薬学演習Ⅰ			0.21				0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ			0.21				0.00	0.21			
								計	2.50	2.69	0.00	0.42	0.00	11.61	2.50	14.72			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号										
								科目名	毎週授業時間数																		
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計												
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期									
薬学科 (兼 創薬科学科)	有機合成化学研究室	准教授	やまうち たかやす 山内 貴靖	男	47	H5. 4. 1	H21. 5. 1	官能基の性質と反応	2.50						2.50	0.00	8.52	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)									
								生体分子のコアとパーツ		1.25					0.00	1.25											
								創薬化学Ⅱ	1.25						1.25	0.00											
								化学系実習Ⅱ					8.75		0.00	8.75											
								化学系実習Ⅰ					2.86		0.00	2.86											
								総合薬学演習Ⅰ			0.21				0.00	0.21											
								総合薬学演習Ⅱ			0.21				0.00	0.21											
								計	3.75	1.25	0.00	0.42	0.00	11.61	3.75	13.28											
薬学科 (兼 創薬科学科)	医療薬剤学教室	准教授	はっとり よしゆき 服部 喜之	男	43	H14. 4. 1	H21. 5. 1	DDS	0.83					0.83	0.00	3.65	京都大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)										
								バイオ医薬品とゲノム情報	2.50					2.50	0.00												
								生体分子の立体構造と相互作用		0.63				0.00	0.63												
								製剤系実習					2.91	0.00	2.91												
								総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21												
								総合薬学演習Ⅱ			0.21			0.00	0.21												
								計	3.33	0.63	0.00	0.42	0.00	2.91	3.33			3.96									
								薬学科 (兼 創薬科学科)	微生物学教室	准教授	ついし まこと 築地 信	男	43	H22. 1. 1	H22. 1. 1			生体分子の立体構造と相互作用		0.63				0.00	0.63	6.21	東京大学 薬学系研究科 博士課程 中退 博(薬)
感染症と病原体	2.50					2.50	0.00																				
薬学英語ⅡA			1.25			1.25	0.00																				
生物系実習Ⅲ					5.83	0.00	5.83																				
生物系実習Ⅰ					1.79	0.00	1.79																				
総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21																				
総合薬学演習Ⅱ			0.21			0.00	0.21																				
計	2.50	0.63	1.25	0.42	0.00	7.62	3.75									8.67											
薬学科 (兼 創薬科学科)	総合基礎薬学教育研究部門	准教授	さかた けん 坂田 健	男	42	H12. 4. 1	H22. 4. 1	物質の構造		2.50				0.00	2.50	4.71	京都大学 工学研究科 博士課程 修了 博(工)										
								薬学英語ⅡA		1.25				1.25	0.00												
								化学	3.00					3.00	0.00												
								情報科学演習			2.14			0.00	2.14												
								基礎演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21												
								総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21												
								総合薬学演習Ⅱ			0.10			0.00	0.10												
								計	3.00	2.50	1.25	2.66	0.00	0.00	4.25			5.16									
薬学科 (兼 創薬科学科)	生薬学教室	准教授	すどう ひろし 須藤 浩	男	53	H23. 4. 1	H23. 4. 1	化学系実習Ⅲ				8.75		8.75	0.00	8.10	千葉大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)										
								天然資源Ⅰ	3.00					3.00	0.00												
								化学系実習Ⅰ					3.93	0.00	3.93												
								基礎演習Ⅰ		0.21				0.00	0.21												
								総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21												
								総合薬学演習Ⅱ			0.10			0.00	0.10												
								計	3.00	0.21	0.00	0.31	8.75	3.93	11.75			4.45									
								薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤師教育研究部門	准教授	くぼ はじめ 久保 元	男	55	S60. 4. 1	H23. 5. 1			官能基の性質と反応	2.50					2.50	0.00	2.66	千葉大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)
基礎薬学演習			1.46			0.00	1.46																				
基礎演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21																				
総合薬学演習Ⅰ			0.63			0.00	0.63																				
総合薬学演習Ⅱ			0.52			0.00	0.52																				
計	2.50	0.00	0.00	2.82	0.00	0.00	2.50									2.82											
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬理学教室	准教授	もり ともひさ 森 友久	男	45	H23. 5. 1	H23. 5. 1									医薬品毒性学Ⅱ		1.25				0.00	1.25	8.74	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)		
																司法と薬学	0.10					0.10	0.00				
								薬物治療演習			5.82			5.82	0.00												
								薬学英語ⅡA			1.25			1.25	0.00												
								薬理系実習					8.75	0.00	8.75												
								総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21												
								総合薬学演習Ⅱ			0.10			0.00	0.10												
								計	0.10	1.25	7.07	0.31	0.00	8.75	7.17	10.31											

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤師職能 開発研究部 門	准教授 (実務家)	ゆもと てつろう 湯本 哲郎	男	40	H23. 9. 1	H23. 9. 1	ヘルスケアビジネス概論	0.83		0.42				1.25	0.00	8.30	星薬科大学 学士課程 修了 博(薬)
								患者情報	0.96		0.96				1.92	0.00		
								信頼関係				0.21			0.00	0.21		
								薬物治療演習			1.46			1.46	0.00			
								事前実習					5.83	5.83	5.83	5.83		
								総合薬学演習Ⅱ				0.10		0.00	0.10			
計	1.79	0.00	2.84	0.31	5.83	5.83	10.46	6.14										
薬学科 (兼 創薬科学科)	総合基礎薬 学教育研究 部門	准教授	たけのや ふみこ 竹ノ谷 文子	女	47	H2. 4. 1	H24. 4. 1	スポーツセラピー		1.25				0.00	1.25	1.25	日本体育大学 学士課程 修了 博(医)	
								スポーツと健康	1.25					1.25	0.00			
														0.00	0.00			
								計	1.25	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	1.25			1.25
薬学科 (兼 創薬科学科)	機器セン ター	准教授	ながせ ひろまさ 長瀬 弘昌	男	62	S53. 4. 1	H24. 4. 1	物理系実習Ⅰ					8.75	0.00	5.28	星薬科大学 学士課程 修了 博(工)		
								分析化学Ⅰ	1.50					1.50			0.00	
								総合薬学演習Ⅰ				0.21		0.00			0.21	
								総合薬学演習Ⅱ				0.10		0.00			0.10	
								計	1.50	0.00	0.00	0.31	8.75	0.00			10.25	0.31
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤師教育 研究部門	准教授	おおの しゅうじ 大野 修司	男	52	H13. 4. 1	H24. 4. 1	生理活性分子とシグナル伝達	2.50					2.50	0.00	3.85	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 薬博	
								基礎薬学演習			0.83			0.00	0.83			
								総合薬学演習Ⅰ			0.42			0.00	0.42			
								総合薬学演習Ⅱ			0.52			0.00	0.52			
								基礎演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21			
								生物系実習Ⅰ					3.21	0.00	3.21			
								計	2.50	0.00	0.00	1.98	0.00	3.21	2.50			5.19
薬学科 (兼 創薬科学科)	病態生理学 教室	准教授	しみず たかつね 清水 孝恒	男	41	H24. 6. 1	H24. 6. 1	免疫と疾患	0.42					0.42	0.00	1.72	慶應義塾大学 医学研究科 博士課程 修了 博(医)	
								疾患と薬物治療Ⅰ			0.63			0.00	0.63			
								病原微生物・悪性新生物			0.63			0.00	0.63			
								薬学英語ⅡB				1.25		0.00	1.25			
								総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ			0.31			0.00	0.31			
								計	0.42	1.25	0.00	1.77	0.00	0.00	0.42			3.02
薬学科 (兼 創薬科学科)	教育学研究 室	准教授	よしざわ(わたなべ) さゆり 吉澤(渡邊)小百合	女	43	H20. 4. 1	H25. 4. 1	英語ⅡA			2.50			2.50	0.00	6.47	東京工業大学 総合工学研究科 博士課程 単位取得退学 修(教)	
								英語ⅡB				2.50		0.00	2.50			
								薬学英語ⅠA			2.50			2.50	0.00			
								薬学英語ⅠB				2.50		0.00	2.50			
								薬学英語ⅡA			1.25			1.25	0.00			
								薬学英語ⅡB				1.25		0.00	1.25			
								薬学人としての教養入門	0.43					0.43	0.00			
								計	0.43	0.00	6.25	6.25	0.00	0.00	6.68			6.25
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬物治療学 教室	准教授	いけだ ひろこ 池田 弘子	女	42	H22. 10. 1	H25. 10. 1	疾患と薬物治療ⅡB	2.50					2.50	0.00	5.52	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 歯博	
								テーラーメイド薬物治療			1.25			0.00	1.25			
								薬物治療演習			5.82			5.82	0.00			
								薬学英語ⅡA			1.25			1.25	0.00			
								総合薬学演習Ⅱ				0.21		0.00	0.21			
計	2.50	1.25	7.07	0.21	0.00	0.00	9.57	1.46										
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬物学教室	准教授	おちあい わたる 落合 和	男	41	H21. 4. 1	H26. 4. 1	薬物動態の解析	2.50					2.50	0.00	3.25	熊本大学 医学研究科 博士課程 修了 博(医)	
								薬物動態演習			2.33			2.33	0.00			
								薬学英語ⅡB				1.25		0.00	1.25			
								総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ			0.21			0.00	0.21			
計	2.50	0.00	2.33	1.67	0.00	0.00	4.83	1.67										

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科 (兼 創薬科学科)	生薬学教室	准教授	かねだ としお 金田 利夫	男	50	H13. 4. 1	H26. 10. 1	薬になる天然資源Ⅱ		0.77					0.00	0.77	7.62	北海道大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(学術)
								薬になる天然資源Ⅲ	0.58					0.58	0.00			
								薬学英語ⅡB			1.25			0.00	1.25			
								化学系実習Ⅲ				8.75		8.75	0.00			
								化学系実習Ⅰ					3.57	0.00	3.57			
								総合薬学演習Ⅰ						0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ						0.00	0.10			
								計	0.58	0.77	0.00	1.56	8.75	3.57	9.33	5.90		
薬学科 (兼 創薬科学科)	情報科学研究室	講師	かがわ ひろたか 香川 博隆	男	48	H9. 4. 1	H17. 4. 1	薬学英語ⅡB			1.25			0.00	1.25	5.02	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 中退 博(薬)	
								数学Ⅰ	3.00					3.00	0.00			
								情報科学と情報倫理	3.00					3.00	0.00			
								情報科学演習			2.14			0.00	2.14			
								薬学人としての教養入門	0.43					0.43	0.00			
								基礎演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21			
								計	6.43	0.00	0.00	3.60	0.00	0.00	6.43			3.60
薬学科 (兼 創薬科学科)	実務教育研究部門	講師 (実務家)	しろず しゅんすけ 白水 俊介	男	44	H18. 4. 1	H18. 4. 1	医薬品情報	0.48	0.96		0.58		0.00	1.54	3.98	東北薬科大学 学士課程 修了 学(薬)	
								医療情報					0.48	0.00				
								事前実習				5.83		5.83	0.00			
								総合薬学演習Ⅱ			0.10		0.00	0.10				
								計	0.48	0.96	0.00	0.68	5.83	0.00	6.31			1.64
薬学科 (兼 創薬科学科)	生体分子有機化学研究室	講師	たかはし かずのり 高橋 万紀	男	38	H17. 4. 1	H22. 4. 1	創薬化学Ⅰ		1.25				0.00	1.25	9.77	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 薬(博)	
								化学系実習Ⅱ					8.75	0.00	8.75			
								有機化学Ⅰ	2.79					2.79	0.00			
								研究入門				1.43		1.43	0.00			
								化学系実習Ⅰ					5.00	0.00	5.00			
								総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ			0.10			0.00	0.10			
計	2.79	1.25	0.00	0.31	1.43	13.75	4.22	15.31										
薬学科 (兼 創薬科学科)	法学研究室	講師	やまもと ひろし 山本 弘	男	40	H23. 4. 1	H23. 4. 1	薬事関連法・制度Ⅰ	1.25	1.25				0.00	1.25	5.12	九州大学 法学府 博士課程 単位取得退学 法修	
								薬事関連法・制度Ⅱ						1.25	0.00			
								薬剤師を取り巻く法律と制度		2.50				0.00	2.50			
								統治組織論	1.25					1.25	0.00			
								社会保障制度と薬剤経済	2.50					2.50	0.00			
								薬学人としての教養入門	0.86					0.86	0.00			
								総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ			0.42			0.00	0.42			
								計	5.86	3.75	0.00	0.63	0.00	0.00	5.86			4.38
薬学科 (兼 創薬科学科)	医療薬剤学教室	講師	いけうち ゆり 池内 由里	女	47	H23. 4. 1	H23. 4. 1	グローバルゼーション		0.77				0.00	0.77	3.78	星薬科大学 学士課程 修了 博(薬)	
								バイオスタティスティクス		0.42				0.00	0.42			
								生体分子の立体構造と相互作用		0.63				0.00	0.63			
								医薬品科学Ⅰ	0.42					0.42	0.00			
								薬物動態演習			2.33			2.33	0.00			
								薬学英語ⅡA			1.25			1.25	0.00			
								研究入門				1.43		1.43	0.00			
								総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ			0.10			0.00	0.10			
								計	0.42	1.82	3.58	0.31	1.43	0.00	5.43			2.13

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤学教室	講師	おばた やすこ 小幡 誉子	女	52	H5.10.1	H24.4.1	製剤材料の性質	1.25						1.25	0.00	4.71	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)	
								剤形を作る		2.50						0.00			2.50
								D D S	0.83							0.83			0.00
								薬学英語ⅡA			1.25					1.25			0.00
								製剤系実習						1.94		0.00			1.94
								研究入門					1.43			1.43			0.00
								総合薬学演習Ⅰ						0.21		0.00			0.21
計	2.08	2.50	1.25	0.21	1.43	1.94		4.76	4.65										
薬学科 (兼 創薬科学科)	実務教育研究部門	講師 (実務家)	いしつか かずみ 石塚 和美	男	33	H24.5.1	H24.5.1	信頼関係		1.04					0.00	1.25	7.24	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)	
								薬学英語ⅡB							0.00	1.25			
								事前実習				5.83	5.83		5.83	5.83			
								総合薬学演習Ⅰ							0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ							0.00	0.10			
								計	0.00	1.04	0.00	1.77	5.83	5.83		5.83			8.64
薬学科 (兼 創薬科学科)	教育実習センター	講師	みやした まさひろ 宮下 正弘	男	60	S54.4.1	H25.1.1	物理系実習Ⅲ					2.92		2.92	0.00	14.20	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)	
								生物系実習Ⅱ					2.92		2.92	0.00			
								生物系実習Ⅲ						5.83		0.00			5.83
								生物系実習Ⅳ						5.83		5.83			0.00
								薬学英語ⅡB			1.25				0.00	1.25			
								研究入門	0.25		0.25		1.43		1.93	0.00			
								生物系実習Ⅰ						7.71		0.00			7.71
計	0.25	0.00	0.25	1.25	13.10	13.54		13.60	14.79										
薬学科 (兼 創薬科学科)	教育実習センター	講師	わたなべ さとし 渡辺 聡	男	59	S55.4.1	H25.1.1	生活環境と健康	0.77		0.19				0.96	0.00	15.41	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)	
								物理系実習Ⅰ					8.75		8.75	0.00			
								物理系実習Ⅱ					8.75		8.75	0.00			
								生物系実習Ⅴ						8.75		0.00			8.75
								薬学英語ⅡB			1.25				0.00	1.25			
								研究入門	0.25		0.25		1.43		1.93	0.00			
								総合薬学演習Ⅰ							0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ							0.00	0.21			
								計	1.02	0.00	0.44	1.67	18.93	8.75		20.39			10.42
薬学科 (兼 創薬科学科)	機器センター	講師	かさい ひろこ 笠井 博子	女	60	S58.4.1	H25.4.1	化学平衡	2.50					2.50	0.00	7.87	東北大学 学士課程 修了 薬博		
								薬学英語ⅡB				1.25			0.00			1.25	
								物理系実習Ⅱ					8.75		8.75			0.00	
								分析化学Ⅰ							0.00			1.50	
								研究入門						1.43				1.43	0.00
								総合薬学演習Ⅰ							0.00			0.21	
								総合薬学演習Ⅱ							0.00			0.10	
								計	2.50	1.50	0.00	1.56	10.18	0.00				12.68	3.06
薬学科 (兼 創薬科学科)	機能形態学研究室	講師	まつもと たかゆき 松本 貴之	男	39	H15.4.1	H25.4.1	生体分子の立体構造と相互作用						0.00	0.63	9.20	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 中退 博(薬)		
								バイオスタティスティクス							0.00			0.42	
								統計	2.50						2.50			0.00	
								薬学英語ⅡB				1.25			0.00			1.25	
								生物系実習Ⅰ							0.00			5.83	
								生物系実習Ⅱ							0.00			2.92	
								機能形態学Ⅱ							0.00			3.00	
								研究入門						1.43				1.43	0.00
								総合薬学演習Ⅰ							0.00			0.21	
								総合薬学演習Ⅱ							0.00			0.21	
								計	2.50	4.05	0.00	1.67	1.43	8.75				3.93	14.47

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号				
								科目名	毎週授業時間数												
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計						
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期			
薬学科 (兼 創薬科学科)	実務教育研究部門	講師 (実務家)	わくい のぶゆき 湧井 宣行	男	34	H25. 7. 1	H25. 7. 1	薬学英語Ⅱ A			1.25			5.83	5.83	1.25	0.00	6.51	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)		
								事前実習								5.83	5.83			0.00	0.10
								総合薬学演習Ⅱ												0.00	0.00
								計	0.00	0.00	1.25	0.10	5.83	5.83	7.08	5.93					
薬学科 (兼 創薬科学科)	実務教育研究部門	講師 (実務家)	やまむら みほ 山村 美保	女	52	H26. 4. 1	H26. 4. 1	コミュニティファーマシー	1.25						1.25	0.00	7.24	昭和薬科大学 学士課程 修了			
								薬物治療演習			1.46					1.46			0.00		
								事前実習					5.83	5.83	5.83	5.83			0.00	0.10	
								総合薬学演習Ⅱ							0.10	0.10					
計	1.25	0.00	1.46	0.10	5.83	5.83	8.54	5.93													
薬学科 (兼 創薬科学科)	実務教育研究部門	講師 (実務家)	とりごえ かずひろ 鳥越 一宏	男	34	H26. 4. 1	H26. 4. 1	薬物治療演習			1.46				1.46	0.00	7.28	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)			
								患者情報	0.38		0.96				1.34	0.00					
								事前実習					5.83	5.83	5.83	5.83			0.00	0.10	
								総合薬学演習Ⅱ							0.10	0.10					
計	0.38	0.00	2.42	0.10	5.83	5.83	8.63	5.93													
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤師職能開発研究部門	講師	さかい ひろやす 酒井 寛泰	男	39	H12. 4. 1	H26. 4. 1	薬学英語Ⅱ B				1.25			0.00	1.25	1.73	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)			
								研究入門			0.25		1.43		1.68	0.00					
								総合薬学演習Ⅰ				0.21		0.00	0.21						
								総合薬学演習Ⅱ				0.31		0.00	0.31						
計	0.00	0.00	0.25	1.77	1.43	0.00	1.68	1.77													
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤師職能開発研究部門	講師	さと ふみあき 里 史明	男	38	H22. 6. 1	H26. 4. 1	基礎薬学演習				0.83			0.00	0.83	7.77	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)			
								薬学英語Ⅱ A			1.25			5.83	5.83	1.25			0.00		
								生物系実習Ⅳ						2.92	2.92	5.83			0.00		
								物理系実習Ⅲ								2.92			0.00		
								研究入門			0.25		1.43		1.68	0.00					
								生物系実習Ⅰ						2.50	0.00	2.50					
								総合薬学演習Ⅰ				0.21		0.00	0.21						
								総合薬学演習Ⅱ				0.31		0.00	0.31						
								計	0.00	0.00	1.50	1.35	10.18	2.50	11.68	3.85					
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬理学教室	講師	くずまき なおこ 葛巻 直子	女	37	H26. 4. 1	H26. 4. 1	薬学英語Ⅱ A			1.25				1.25	0.00	5.93	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)			
								薬理系実習						8.75	0.00	8.75					
								研究入門					1.43		1.43	0.00					
								総合薬学演習Ⅰ				0.21		0.00	0.21						
								総合薬学演習Ⅱ				0.21		0.00	0.21						
計	0.00	0.00	1.25	0.42	1.43	8.75	2.68	9.17													
薬学科 (兼 創薬科学科)	機器セン ター	助教	いけがみ まゆみ 池上 真由美	女	52	H7. 2. 1	H19. 4. 1	生物系実習Ⅲ					5.83	0.00	5.83	4.17	宇都宮大学 学士課程 修了 博(薬)				
								生物系実習Ⅰ						2.50	0.00			2.50			
															0.00			0.00			
								計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.33	0.00			8.33			
薬学科 (兼 創薬科学科)	医療薬剤学 教室	助教	かわの くみ 川野 久美	女	39	H15. 4. 1	H19. 4. 1	生物系実習Ⅴ					8.75	0.00	8.75	5.22	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)				
								研究入門			0.25		1.43		1.68			0.00			
															0.00			0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	1.43	8.75	1.68			8.75			
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬品分析化 学教室	助教	いとう りえ 伊藤 里恵	女	37	H15. 9. 1		物理系実習Ⅱ					8.75	8.75	0.00	4.48	星薬科大学 工学研究科 博士課程 中退 博(薬)				
								総合薬学演習Ⅰ				0.21		0.00	0.21						
															0.00			0.00			
								計	0.00	0.00	0.00	0.21	8.75	0.00	8.75			0.21			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
薬学科 (兼 創薬科学科)	衛生化学教室	助教	いまい まさひこ 今井 正彦	男	36	H20. 4. 1	H20. 4. 1	物理系実習Ⅲ					2.92		2.92	0.00	6.65	東京薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)	
								生物系実習Ⅳ				5.83		5.83	0.00				
								生物系実習Ⅰ					2.86	0.00	2.86	0.00			
								研究入門			0.25		1.43		1.68	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	10.18	2.86	10.43	2.86			
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤師生涯 学習支援室	助教	ほりうち まさこ 堀内 正子	女	50	S62. 4. 1	H21. 4. 1	生物系実習Ⅰ					5.83		5.83	0.00	6.82	星薬科大学 学士課程 修了 博(薬)	
								生物系実習Ⅱ				2.92		2.92	0.00				
								生物系実習Ⅰ					3.21	0.00	3.21	0.00			
								研究入門			0.25		1.43		1.68	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	10.18	3.21	10.43	3.21			
薬学科 (兼 創薬科学科)	教育実習セ ンター	助教	ささつ まさなほ 笹津 備尚	男	37	H17. 9. 1	H21. 4. 1	生物系実習Ⅴ					8.75		0.00	8.75	5.22	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 中退 博(薬)	
								研究入門			0.25		1.43		1.68	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	1.43	8.75	1.68	8.75			
薬学科 (兼 創薬科学科)	生体分子有 機化学研究 室	助教	よこえ ひろまさ 横江 弘雅	男	33	H23. 4. 1	H23. 4. 1	化学系実習Ⅰ(2年)					8.75		8.75	0.00	7.18	徳島大学 薬科学教育部 博士課程 修了 博(薬)	
								化学系実習Ⅰ(1年)					3.93		0.00	3.93			
								研究入門			0.25		1.43		1.68	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	10.18	3.93	10.43	3.93			
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬理学教室	助教	しばさき まさひろ 芝崎 真裕	男	37	H23. 4. 1	H23. 4. 1	薬理系実習					8.75		0.00	8.75	5.22	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 中退 博(薬)	
								研究入門			0.25		1.43		1.68	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	1.43	8.75	1.68	8.75			
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤師教育 研究部門	助教	くどう きなえ 工藤 早苗	女	45	H6. 4. 1	H23. 5. 1	物理系実習Ⅰ					3.21		0.00	3.21	1.61	千葉大学 薬学研究科 修士課程 修了 修(薬)	
														0.00	0.00	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
								計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.21	0.00	3.21			
薬学科 (兼 創薬科学科)	病態生理学 教室	助教	ふくち ゆみ 福地 由美	女	49	H23. 6. 1	H23. 6. 1	物理系実習Ⅲ					2.92		2.92	0.00	6.65	北海道大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)	
								生物系実習Ⅳ						5.83		5.83			0.00
								生物系実習Ⅰ					2.86		0.00	2.86			
								研究入門			0.25		1.43		1.68	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	10.18	2.86	10.43	2.86			
薬学科 (兼 創薬科学科)	生化学教室	助教	わたなべ まさただ 渡辺 正忠	男	46	H14. 5. 1	H24. 4. 1	生物系実習Ⅰ					7.71		0.00	7.71	3.86	総合研究大学院大 学 生命科学研究所 博士課程 修了 博(理)	
														0.00	0.00	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
								計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	7.71	0.00	7.71			
薬学科 (兼 創薬科学科)	総合基礎薬 学教育研究 部門	助教	いわさき ゆうすけ 岩崎 雄介	男	34	H17. 4. 1	H24. 4. 1	物理系実習Ⅱ					8.75		8.75	0.00	5.22	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 薬(博)	
								研究入門			0.25		1.43		1.68	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	10.18	0.00	10.43	0.00			
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤師教育 研究部門	助教	やまうち りえ 山内 理恵	女	35	H24. 9. 1	H24. 9. 1	基礎薬学演習					1.25		0.00	1.25	1.15	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)	
								総合薬学演習Ⅰ					0.63		0.00	0.63			
								総合薬学演習Ⅱ					0.42		0.00	0.42			
														0.00	0.00	0.00			
								計	0.00	0.00	0.00	2.30	0.00	0.00	0.00	2.30			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期	
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬動学教室	助教	いからし のぶとも 五十嵐 信智	男	34	H17.6.1	H25.4.1	薬物動態演習			2.33			1.43		2.33	0.00	2.01	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 中退 博(薬)
								研究入門			0.25					1.68	0.00		
																0.00	0.00		
								計	0.00	0.00	2.58	0.00	1.43	0.00	4.01	0.00			
薬学科 (兼 創薬科学科)	衛生化学教室	助教	はせがわ しんや 長谷川 晋也	男	35	H16.4.1	H25.4.1	生物系実習Ⅴ						8.75	0.00	8.75	6.82	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 中退 博(薬)	
								生物系実習Ⅰ						3.21	0.00	3.21			
								研究入門			0.25			1.43	1.68	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	1.43	11.96	1.68	11.96			
薬学科 (兼 創薬科学科)	生体分子有機化学研究室	助教	うわもり まさひろ 上森 理弘	男	30	H25.4.1	H25.4.1	化学系実習Ⅱ						8.75	0.00	8.75	6.82	早稲田大学 先進理工学研究 科 博士課程 修了 博(理)	
								化学系実習Ⅰ						3.21	0.00	3.21			
								研究入門			0.25			1.43	1.68	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	1.43	11.96	1.68	11.96			
薬学科 (兼 創薬科学科)	生化学教室	助教	ひらかわ じょうたろう 平川 城太郎	男	32	H26.10.1	H26.10.1	生物系実習Ⅰ						5.83	0.00	5.83	6.65	静岡県立大学 薬学研究科 博士課程 修了 博(薬)	
								生物系実習Ⅱ						2.92	0.00	2.92			
								物理系実習Ⅰ						2.86	0.00	2.86			
								研究入門			0.25			1.43	1.68	0.00			
計	0.00	0.00	0.25	0.00	10.18	2.86	10.43	2.86											
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬理学教室	助教	かわだ みほ 河田 美穂	女	27	H27.4.1	H27.4.1	薬理系実習						8.75	0.00	8.75	6.82	奈良先端科学技術大 学院 薬学 科 バイオサイエンス研 究科 博士課程 単位取得退学 修(バイオ)	
								物理系実習Ⅰ						3.21	0.00	3.21			
								研究入門			0.25			1.43	1.68	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	1.43	11.96	1.68	11.96			
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬品物理化学教室	助手	ぐんじ みほこ 郡司 美穂子	女	58	S56.4.1	S56.4.1	物理系実習Ⅰ						8.75	0.00	8.75	5.22	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 薬修	
								研究入門			0.25			1.43	1.68	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	10.18	0.00	10.43	0.00			
薬学科 (兼 創薬科学科)	教育実習セ ンター	助手	いたばし たけし 板橋 武史	男	47	H14.7.1	H14.7.1	化学系実習Ⅰ(2年)						8.75	0.00	8.75	18.16	星薬科大学 博士課程 中退 薬(修)	
								化学系実習Ⅱ						8.75	0.00	8.75			
								化学系実習Ⅲ						8.14	0.00	8.14			
								研究入門	0.25		0.25		1.43	1.93	0.00				
計	0.25	0.00	0.25	0.00	18.93	16.89	19.43	16.89											
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬剤学教室	助手	うつみ しゅんいち 内海 俊一	男	34	H27.4.1	H27.4.1	製剤系実習						0.97	0.00	0.97	1.33	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 修(薬)	
								研究入門			0.25			1.43	1.68	0.00			
														0.00	0.00	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	1.43	0.97	1.68	0.97			
創薬科学科 (兼 薬学科)	微生物学教室	教授	つじ つとむ 辻 勉	男	61	H9.4.1	H9.4.1	ミクロの生物	2.50					2.50	0.00	2.50	6.13	東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 薬博	
								免疫の基礎		2.50					0.00	2.50			
								生物系実習Ⅲ						5.83	0.00	5.83			
								生物系実習Ⅰ						1.43	0.00	1.43			
計	2.50	2.50	0.00	0.00	0.00	7.26	2.50	9.76											
創薬科学科 (兼 薬学科)	有機合成化 学研究室	教授	ひがしやま きみお 東山 公男	男	61	S51.4.1	H14.10.1	複雑な化合物の合成		2.50				0.00	2.50	9.50	星薬科大学 学士課程 修了 薬博		
								化学系実習Ⅰ						8.75	8.75			0.00	
								有機化学ⅡB		3.00					0.00			3.00	
								化学系実習Ⅰ						4.64	0.00			4.64	
計	0.00	5.50	0.00	0.10	8.75	4.64	8.75	10.24											

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
創薬科学科 (兼 薬学科)	生薬学教室	教授	もりた ひろし 森田 博史	男	55	H17.4.1	H17.4.1	化合物の構造決定	2.50					2.50	0.00	8.67	東京薬科大学 薬学研究科 博士課程 修士課程 修了 薬博	
								薬になる天然資源Ⅱ		1.92				0.00	1.92			
								薬になる天然資源Ⅲ	1.92					1.92	0.00			
								化学系実習Ⅲ				8.75		8.75	0.00			
								化学系実習Ⅰ					2.14	0.00	2.14			
								総合薬学演習Ⅱ			0.10			0.00	0.10			
計	4.42	1.92	0.00	0.10	8.75	2.14	13.17	4.16										
創薬科学科 (兼 薬学科)	機能形態学 研究室	教授	こばやし つねお 小林 恒雄	男	43	H13.5.1	H24.4.1	生体の機能調節	2.50					2.50	0.00	4.42	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修士課程 修了 博(薬)	
								生物系実習Ⅱ				2.92		2.92	0.00			
								機能形態学Ⅰ	3.00					3.00	0.00			
								基礎演習Ⅰ			0.21			0.00	0.21			
								総合薬学演習Ⅱ			0.21			0.00	0.21			
								計	5.50	0.00	0.00	0.42	2.92	0.00	8.42			0.42
創薬科学科 (兼 薬学科)	薬化学教室	教授	ほそえ ともお 細江 智夫	男	50	H8.4.1	H24.10.1	リード化合物の創製と最適化		1.25				0.00	1.25	8.34	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 薬(博)	
								化学系実習Ⅰ				8.75		8.75	0.00			
								有機化学ⅡA		3.00				0.00	3.00			
								化学系実習Ⅰ					3.57	0.00	3.57			
								総合薬学演習Ⅰ			0.10			0.00	0.10			
								計	0.00	4.25	0.00	0.10	8.75	3.57	8.75			7.92
創薬科学科 (兼 薬学科)	薬品製造化学 教室	教授	すぎた かずゆき 杉田 和幸	男	50	H24.10.1	H24.10.1	生体分子のコアとパーツ		2.50				0.00	2.50	8.46	東京大学 学士課程 修了 博(薬)	
								医薬品のコアとパーツ	2.50					2.50	0.00			
								化学系実習Ⅱ					8.75	0.00	8.75			
								有機化学Ⅰ	0.21					0.21	0.00			
								化学系実習Ⅰ					2.86	0.00	2.86			
								総合薬学演習Ⅱ			0.10			0.00	0.10			
計	2.71	2.50	0.00	0.10	0.00	11.61	2.71	14.21										
創薬科学科 (兼 薬学科)	薬品物理化学 教室	教授	よねもち えつお 米持 悦生	男	53	H25.4.1	H25.4.1	物質の変化	2.50					2.50	0.00	6.38	千葉大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)	
								物理系実習Ⅰ				8.75		8.75	0.00			
								物理化学Ⅰ		1.29				0.00	1.29			
								総合薬学演習Ⅱ			0.21			0.00	0.21			
								計	2.50	1.29	0.00	0.21	8.75	0.00	11.25			1.50
								化学系実習Ⅰ(2年)				8.75		8.75	0.00			
化学系実習Ⅰ(1年)					3.57	0.00	3.57											
研究入門			0.25		1.43	1.68	0.00											
計	0.00	0.00	0.25	0.00	10.18	3.57	10.43	3.57										
創薬科学科 (兼 薬学科)	微生物学教室	助教	おく てるあき 奥 輝明	男	38	H17.4.1	H19.4.1	生物系実習Ⅲ					5.83	0.00	5.83	5.19	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修士課程 修了 博(薬)	
								物理系実習Ⅰ					2.86	0.00	2.86			
								研究入門			0.25		1.43	1.68	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	1.43	8.69	1.68			8.69
創薬科学科 (兼 薬学科)	生薬学教室	助教	ひらさわ ゆうすけ 平澤 祐介	男	37	H18.4.1	H18.4.1	化学系実習Ⅲ					8.75	0.00	7.29	北海道大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)		
								化学系実習Ⅰ					3.93	0.00			3.93	
								研究入門			0.25		1.43	1.68			0.00	
								総合薬学演習Ⅰ			0.21			0.00			0.21	
計	0.00	0.00	0.25	0.21	10.18	3.93	10.43	4.14										
創薬科学科 (兼 薬学科)	薬品物理化学 教室	助教	ふるいし たかゆき 古石 誉之	男	40	H23.4.1	H23.4.1	物理系実習Ⅰ					8.75	0.00	4.38	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)		
													0.00	0.00				
													0.00	0.00				
								計	0.00	0.00	0.00	0.00	8.75	0.00			8.75	0.00

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及び学位 称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
創薬科学科 (兼 薬学科)	薬化学教室	助教	わかな だいご 若菜 大悟	男	35	H25. 1. 1	H25. 1. 1	化学系実習Ⅰ(2年)					8.75		8.75	0.00	8.43	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修士課程 修了 薬(博)
								化学系実習Ⅰ(1年)					6.43	0.00	6.43			
								研究入門		0.25		1.43		1.68	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	10.18	6.43	10.43	6.43		
創薬科学科 (兼 薬学科)	機能形態学 研究室	助教	たぐち くみこ 田口 久美子	女	38	H25. 6. 1	H25. 6. 1	生物系実習Ⅰ(2年)				5.83		5.83	0.00	6.82	星薬科大学 薬学研究科 修士課程 修了 博(薬)	
								生物系実習Ⅱ					3.21	2.92	0.00			
								生物系実習Ⅰ(1年)		0.25		1.43		1.68	0.00			
								研究入門		0.25	0.00	10.18	3.21	10.43	3.21			
創薬科学科 (兼 薬学科)	有機合成化 学研究室	助教	ささき しげる 佐々木 秀	男	37	H19. 4. 1	H26. 4. 1	化学系実習Ⅱ(2年)				8.75		8.75	0.00	7.18	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 中退 博(薬)	
								化学系実習Ⅰ(1年)					3.93	0.00	3.93			
								研究入門		0.25		1.43		1.68	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	10.18	3.93	10.43			3.93
創薬科学科 (兼 薬学科)	薬品製造化 学教室	助教	まつざわ あきのぶ 松澤 彰信	男	27	H27. 4. 1	H27. 4. 1	化学系実習Ⅱ				8.75		8.75	0.00	7.18	東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 博(薬)	
								化学系実習Ⅰ					3.93	0.00	3.93			
								研究入門		0.25		1.43		1.68	0.00			
								計	0.00	0.00	0.25	0.00	1.43	12.68	1.68			12.68
薬学科 (兼 創薬科学科)	薬物依存研 究室	特任教授	すずき つとむ 鈴木 勉	男	65	S54. 4. 1	H27. 4. 1	医薬品毒性学Ⅰ		1.25				0.00	1.25	1.06	星薬科大学 薬学研究科 博士課程 修了 薬博	
								疾患と薬物治療Ⅲ	0.38				0.38	0.00				
								緩和医療薬学	0.48				0.48	0.00				
								計	0.86	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.86			1.25

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、 Semester制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
- 7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

4年生の在籍学生数 297 名
 5年生の在籍学生数 266 名
 6年生の在籍学生数 267 名 (卒業延期者は含まず)

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	面積
1	医療薬理学(新星館)	4	23	19	24	66	485.64㎡
2	衛生化学(新星館)	5	26	25	26	77	478.16㎡
3	機器センター	3	4	0	0	4	658.98㎡
4	機能形態学	3	16	14	11	41	217.88㎡
5	教育実習センター	5	13	15	13	41	307.56㎡
6	実務教育研究部門	7	9	10	10	29	153.64㎡
7	生薬学	4	7	10	20	37	379.2㎡
8	心理学	1	2	0	0	2	118.63㎡
9	生化学	2	12	7	11	30	258.9㎡
10	生体分子有機化学	4	14	14	12	40	224.38㎡
11	総合基礎薬学研究部門	4	6	7	9	22	245.3㎡
12	微生物学	3	5	10	2	17	319.35㎡
13	病態生理学	3	15	16	14	45	265.05㎡
14	薬剤学	3	10	16	14	40	254.39㎡
15	薬剤師職能開発研究部門	3	6	0	0	6	186.6㎡
16	薬動学	3	14	15	15	44	270.52㎡
17	薬品製造化学	2	11	6	2	19	272.25㎡
18	薬品物理化学	4	17	14	15	46	288.96㎡
19	薬品分析化学	2	8	2	8	18	286.75㎡
20	薬物治療学	2	17	13	14	44	268.66㎡
21	薬理学	5	29	25	25	79	460.16㎡
22	薬化学	3	16	15	10	41	231.07㎡
23	有機合成化学	3	17	13	12	42	217.12㎡
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
	合計	78	297	266	267	830	6849.15㎡

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員(助手を含む)の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
荏原キャンパス (全学共通)	講義室	20	2,631	共用	2,705	1,800	1.46	創薬科学科(学生数114)
	演習室	22	986	共用	1,008	1,800	0.55	創薬科学科(学生数114)
	学生自習室	3	161	共用	96	874	0.18	創薬科学科(学生数49)
	コンピュータ室	2	332	共用	170	1,800	0.18	創薬科学科(学生数114)
	模擬薬局	3	290	共用		582	0.50	創薬科学科(学生数23)
	臨床系実習室	3	303	専用		297	1.02	
	医療薬学実習室	2	366	共用		582	0.63	創薬科学科(学生数23)
	R I 実習室	1	129	共用		316	0.41	創薬科学科(学生数32)
	一般実習室	6	1,779	共用		1,249	1.42	創薬科学科(学生数88)

- [注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
本学図書館	191	1,707	11.2%	ラーニングコモンズ	140	情報端末 21	学部：1,640 大学院：67
本館保存書庫	10	—	—	—	—	情報端末設置なし	
計	201	1,707	11.8%		140	21	

- [注] 1 「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成24年度	平成25年度	平成26年度	
図書館	124,614	72,742	697	633	336	3,741	2,540	3,026	3,433	
計										

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名	職名 学長	氏名 田中 隆治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月～	講義だけでなくSGDを取り入れて学生同士が考えを述べ合うようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Photoactive ligands probing the sweet taste receptor. Design and synthesis of highly potent diazirinyl D-phenylalanine derivatives.	共著	2010年	Bioorg Med Chem Lett. 20
(論文) Characterization of the modes of binding between human sweet taste receptor and low-molecular-weight sweet compounds.	共著	2012年	PLoS One. 7
(論文) Chimeric yeast G-protein α subunit harboring a 37-residue C-terminal gustducin-specific sequence is functional in <i>Saccharomyces cerevisiae</i> .	共著	2012年	Biosci Biotechnol Biochem. 76
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2003年～2015年	生き物文化誌学会 副会長		
2006年～2015年	文部科学省グローバルCOE委員会 委員		
2006年～2015年	金沢大学フロンティアサイエンス機構(FSO)アドバイザリーボード評価委員会		
2009年～2015年	JST A-Step評価委員会 アグロバイオ部門・委員長		
2010年～2015年	JST「科学技術コモンズ」委員会委員		
2011年～2015年	JST 知財活用促進ハイウェイ評価委員		
2012年～2015年	ケミカルバイオロジー研究新展開 研究開発専門委員会委員		
2013年～2015年	私立大学等改革総合支援事業委員会・委員		
2013年～2015年	東京医科歯科大学運営諮問委員会 委員		
2015年	奈良先端科学技術大学院大学経営協議会委員		
2015年	バイオインダストリー協会・評議員		
2015年	大学設置・学校法人審議会専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤学	職名 教授	氏名 高山 幸三
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月～7月	学生の理解度を深めるため、授業中に5分間の演習問題を5回程度実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年3月23日	製剤化のサイエンス (改訂7版)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 薬剤学概史-私はこう見る120人による俯瞰図-製剤開発への計量化学的手法の導入	共著	2015年5月	じほう
(著書) 医療・医学・薬学におけるSOMの応用-第18章固形製剤の開発	共著	2015年5月	海文堂
(論文) Practical syntheses of D-erythro- and L-threo-ceramide [NDS] and difference in contribution of each isomer in microstructure	共著	2015年6月	J. Drug Del. Sci. Tech., 24, 689-693, 2015
(論文) Latent structure analysis in the pharmaceutical process of tablets prepared by wet granulation	共著	2015年5月	Drug Dev. Ind. Pharm., 1-7, 22 May 2015
(論文) Supersaturated state of diazepam injection following dilution with infusion fluid	共著	2015年3月	J. Pharm. Health Care Sci., 1-9, 9 March 2015
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Visualization of tableting process based on the self-organizing map and the finite element analysis		2015年5月	FOMRW2015, University of Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia
(演題名) CAEシミュレーションによるスティッキング現象の解析		2015年3月	日本薬学会第135年会, 神戸
III 学会および社会における主な活動			
2007年6月～現在	日本香粧品学会評議員		
2007年9月～現在	CACフォーラム学識会員		
2009年7月～現在	日本DDS学会評議員		
2011年6月～2013年5月	日本薬学会学術誌編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬物治療学	職名 教授	氏名 亀井 淳三
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			講義では、実際の症例をもとに、各種疾病の病態と治療を教科書では理解できない臨床現場の状況を踏まえながら解説している。また、講義時に使用するスライドはなるべく詳細に作製し、大学HPよりアクセスできる教室HP内に掲載し、学生がいつでも閲覧プリントアウトできるようにしている。薬物治療学演習においてはロールプレイング演習を企画し、より臨床現場に近い内容の演習を行わせている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年1月 2012年4月 2015年6月	最新薬理学（共著）廣川書店 治験薬学（編集）南江堂 Principle Pharmacotherapy（編集）ネオメディカル
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2010年4月～現在	薬剤師生涯教育支援室長として、認定薬剤師認証機構の制度に基づく認定薬剤師養成のための生涯教育講座の運営の責任者として活動 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) Annual Review 呼吸器	共著	2014年1月	中外医学社
(論文) Olanzapine-induced hyperglycemia: Possible involvement of histaminergic, dopaminergic and adrenergic functions in the central nervous system	共著	2013年3月	Neuroendocrinology vol. 98, No. 3
(論文) Activation of spinal cannabinoid CB2 receptors inhibits neuropathic pain in streptozotocin-induced diabetic mice.	共著	2013年10月	Neuroscience vol. 250, No. 10
(論文) Olanzapine increases hepatic glucose production through the activation of hypothalamic adenosine 5'-monophosphate-activated protein	共著	2013年12月	Diabetes, Obesity and Metabolism vol. 15, No. 12
(論文) Cannabinoid functions in the amygdala contribute to conditioned fear memory in streptozotocin-induced diabetic mice: Interaction	共著	2015年6月	Experimental Neurology vol. 269, No. 7
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 糖尿病性神経障害で認められる侵害受容閾値の変化に対するカルノシンの効果		2015年2月	日本糖尿病肥満動物学会
(演題名) Hypothalamic opioid systems regulate feeding behavior through orexin and GABA neurons		2015年10月	日本肥満学会
III 学会および社会における主な活動			
1984年4月～	日本薬理学会学術評議委員		
1986年10月～	日本神経精神薬理学会評議委員		
2005年7月～	鎮痛薬・オピオイドペプチド研究会世話人（事務局長）		
2008年4月～2014年3月 2015年4月～	厚生労働省薬剤師試験委員会委員		
2015年4月～	厚生労働省医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験K・V部会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬動学
職名	教授	氏名	杉山 清
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年度にベストレクチャー賞を受賞し、2015年度も同様に分かりやすい講義に努めている。
2	作成した教科書、教材、参考書		薬物動態演習 薬物動態の演習教材の作成を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		FD委員長 学内FD講演会を開催・参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Menthol reduces the anticoagulant effect of warfarin by inducing cytochrome P450 2C expression.	共著	2014年6月	Eur J Pharm Sci:56:92-101
Effects of menthol on the pharmacokinetics of triazolam and phenytoin.	共著	2015年1月	Biol Pharm Bull 138(3):454-60
Morphine-Induced Constipation Develops With Increased Aquaporin-3 Expression in the Colon via Increased Serotonin Secretion.	共著	2015年6月	Toxicol Sci. 45(2)337-47.
Expression of hepatic cytochrome P450 in a mouse model of ulcerative colitis changes with pathological conditions.	共著	2015年11月	J Gastroenterol Hepatol. (11):1618-26.
Altered expression of transporter and analgesic of morphine in neuropathic pain mice	共著	2015年5月	Yakugaku Zasshi 135(5):703-8
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 大黃甘草湯の瀉下作用における甘草の配合理由の解析		2015年8月	和漢医薬学会
(演題名) 培養肝細胞におけるPXR1とPXR2による薬物代謝酵素の発現制御と細胞増殖の関係性		2015年11月	日本薬物動態学会
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月～2014年3月	天然薬物研究方法論アカデミー会長		
2015年4月～	天然薬物研究方法論アカデミー理事		
2014年4月～	日本和漢医薬学会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 衛生化学	職名 教授	氏名 高橋 典子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		1995年度～現在	3講義:教科書とポイントをまとめたテキストを用いて授業を進め、最後にまとめの講義を行い、また、薬剤師国家試験の過去問題のテストを実施して、理解の向上に努めている。 実習:実習前後に要点の講義を行い理解を深めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年3月23日 2012年1月10日 2013年3月21日 2015年1月15日 2015年3月30日	日本薬学会編、スタンダード薬学シリーズ 5. 健康と環境、東京化学同人 日本薬学会編、「薬学用語」、「知っておきたい薬学用語」、東京化学同人 グローバル医薬品開発論、京都廣川書店 コンパス生化学、南江堂 日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズII、4 生物系薬学I、生命現象の基礎、東京化学同人
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2014年7月12日	Yumenabi LIVE 2014 in TOKYO (ビックサイト)において、高校生を対象にした教育講演を「ビタミンAはミラクルな薬～がん治療薬から美肌・ダイエットまで～」と題して行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		1995年度～現在	FD委員会委員として、FD活動の状況の情報交換に務め、全学FD活動支援と部FDの改善に努めている。FD講演会にも参加。 教務部委員会委員として、教育向上に努めている。 学生による授業アンケートで評価から、ベストレクチャー賞を受けた。
II 研究活動		他の教員に対して授業を公開した。	
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)Effects of the aminophenol analogue p-Dodecylaminophenol on mouse skin.	共著	2010年1月	J. Invest. Dermatol., 130, 1258-67
(論文)A close relationship between type 1 diabetes and vitamin A-deficiency and MMP and HAase activities in skin	共著	2011年10月	Exp. Dermatol., 20, 899-904
(論文)Inhibitory effects of p-dodecylaminophenol on the invasiveness of human fibrosarcoma cell line HT1080.	共著	2013年7月	Bioorg. Med. Chem., 21, 6015-6021
(論文)Inhibitory effects of p-alkylaminophenol on melanogenesis.	共著	2014年7月	Bioorg. Med. Chem., 22, 4677-4683
(論文)Inhibitory effects of hydroxylated cinnamoyl esters on lipid absorption and accumulation.	共著	2015年4月	Bioorg. Med. Chem., 23, 3788-3795
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Inhibitory effects of cinnamic acid derivatives on lipid absorption and accumulation.		2015年9月	第43回構造活性相関シンポジウム 第10回薬物の分子設計と開発に関する日中シンポジウム
(演題名) Inhibition of human fibrosarcoma HT1080 cell growth and invasion by p-dodecylaminophenol.		2015年10月	The 3rd International Conference on Retinoids
III 学会および社会における主な活動			
2012年10月～2014年3月	日本レチノイド研究会第24回学術集会(2013年8月30-31日)会頭 運営事務		
2002年8月～現在	日本薬学会構造活性相関部会 幹事		
2007年10月～現在	日本レチノイド研究会 幹事		
2001年12月～2007年12月	日本生化学会「生化学」誌企画委員会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 教授	氏名 櫻井 正太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年4月～ 現在	医薬品情報では添付文書、製品情報概要、英語文献など実際の資料を提示し、読み方、利用方法などを講義。事前学習ではPBLを中心としたSGDと発表形式を取り入れ、実務実習に先立って薬剤師職務に必要な基本的知識・技能・態度修得のための実習を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		医薬品情報教材 深考 臨床薬学 (京都廣川書店) 実務実習事前学習 資料集	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2014年4月～ 現在	実務実習の成果を評価するため、精神科の病院薬剤部、臨床心理士に協力を得て、実習生用アンケートを作成し、結果を集計中。 学内FD講演会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 深考 臨床薬学	共著	2014年3月	京都廣川書店
(著書) 在宅輸液療法への取り組み「自宅で過ごしたい」その思いに薬剤師ができること	共著	2014年9月	日経BP社
(論文) 実務実習における学生の「学びの姿勢」に着目した新規態度養成プログラムの構築と評価	共著	2010年2月	日本ファーマシューティカル コミュニケーション学会誌, 12 (2), 11-20 (2014)
(論文) Magnetic Resonance Imaging Study on the Physical Stability of Menthol and Diphen-hydramine Cream for the Treatment of Chronic Kidney Disease-Associated Pruritus	共著	2015年6月	Chem. Pharm. Bull. 63, 457-462 (2015)
(論文) Measurement of Antioxidant Power of Mouthwashes Indicated in Stomatitis	共著	2015年8月	Asian J Pharm Clin Res, Vol 8, Issue 4, 2015, 1-4
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 医薬品の客観的評価の試みXXIV		2015年8月	日本病院薬剤師会関東ブ ロック第45学術大会2015
(演題名) 経口抗がん薬の調製時曝露を防止する：錠剤懸濁投与器具及び錠剤懸濁投与方法の開発		2015年3月	日本臨床腫瘍薬学会学術大 会2015
III 学会および社会における主な活動			
2000年～現在	日本医療・環境オゾン学会理事		
2005年～現在	日本病院薬剤師会精神科専門薬剤師部門研修委員		
2008年～25年	日本薬学会関東支部幹事		
2009年～現在	Home Infusion Pharmacy (HIP) 研究会監事		
2010年～現在	日本病院薬剤師会精神科専門薬剤師部門認定審査委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生体分子有機化学	職名 教授	氏名 津吹 政可
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2007年4月～ 現在	講義内容に沿った演習問題を出し、学生に回答させることで、真剣に講義に取り組み、内容を理解できるように工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書 化学系薬学I化学物質の性質と反応(東京化学同人)共著		2015年2月	新コアカリキュラムに対応した教科書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2003年4月～ 2012年3月	カリキュラム検討委員長 全学FDに定期的に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2,4,6-Collidine Leading to α,β -Unsaturated Lactones: Concise Stereoselective Synthesis of (+)-Isomint lactone	共著	2009年2月	J. Org. Chem. 74, 1422-1425
(9Z) Enantioselective Synthesis of the C(2)- C(11) Cyclopropylfuran Segment of Pinnatin J	共著	2010年1月	Heterocycles 82, 319-323
Inhibition of Hepatitis C Virus NS3 Helicase by Manoalide	共著	2012年4月	J. Nat. Prod. 75, 650-654
Inhibitory Effects of Caffeic Acid Phenethyl Ester Derivatives on Replication of Hepatitis C Virus	共著	2013年12月	PLoS ONE 8, e82299
PBDE: Structure-Activity Studies for the Inhibition of Hepatitis C Virus NS3 Helicase	共著	2014年4月	Molecules 19, 4006-4020
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Studies on the Synthesis of Prenylated Quinoline-2-one Alkaloids, Aspoquinolones		2015年7月	OMCOS18
III 学会および社会における主な活動			
2006年4月～現在	CBT問題管理委員		
2007年10月	第51回日本薬学会関東支部大会 シンポジウム・オーガナイザー		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 医療薬剤学	職名 教授	氏名 大西 啓
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月-7月 2015年9月-1月	授業評価で番所が見づらいと指摘を受けたので、3年生、4年生の講義とも、スライドによる形式に変更した。テキストの内容追加はプリント配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年4月-7月 2015年9月-1月	グローバル医薬品開発論(大西 啓編著)を平成25年4月より使用
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 医薬品開発論	共著	2010年2月	廣川書店
(著書) The Drug Delivery System	共著	2012年4月	京都廣川書店
(著書) グローバル医薬品開発論	共著	2013年3月	京都廣川書店
(著書) 非経口投与製剤の開発と応用	共著	2013年6月	シーエムシー出版
(論文) Enhancement Potential of Sucrose Laurate (L-1695) on Intestinal Absorption of Water-soluble High Molecular Weight Compounds	共著	2012年5月	Curr. Drug Deliv., vol. 9, No. 5
(論文) In vivo absorption study of ritodrine hydrochloride in the buccal administration to rats	共著	2013年9月	Drug Dev. Ind. Pharm. Vol. 39, No. 9
(論文) In vivo evaluation of chondroitin sulfate-glycyl-prednisolone for anti-arthritis effectiveness and pharmacokinetic characteristics	共著	2014年1月	Int. J. Pharm. Vol. 456, No. 1
(論文) Preparation and evaluation of ritodrine buccal tablets for rational therapeutic use	共著	2014年9月	Int J Pharm. Vol. 468, No. (1-2)
(論文) Chondroitin sulfate-glycyl-prednisolone conjugate as arthritis targeting system: localization and drug release in inflammatory joints	共著	2014年10月	Biol. Pharm. Bull. vol. 37, No. 10
(論文) In Vitro and In Vivo Evaluations of Buccal Tablet Formulations of Ritodrine Hydrochloride	共著	2015年6月	Biol. Pharm. Bull. vol. 38, No. 6
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 難水溶性薬物を含有する固体脂質微粒子の開発		2015年3月	日本薬学会第135年会
(演題名) エチネフリン塩酸塩の口腔粘膜適用時における吸収性の検討		2015年3月	日本薬学会第135年会
(演題名) ロペラミド含有口内炎治療用フィルムにおける薬物含有率の物性への影響		2015年3月	日本薬学会第135年会

(演題名) 糖尿病モデルマウスにおけるポリフェノール類の酸化抑制作用の比較	2015年3月	日本薬学会第135年会
(演題名) コンドロイチン硫酸のDDS担体としての評価：血漿タンパクとの相互作用、静脈内投与後の血中動態と尿中排泄	2015年7月	第31回日本DDS学会学術集会
(演題名) ラクトフェリン含有キトサン微粒子製剤の処方検討	2015年8月	第29回日本キチン・キトサン学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2005年4月～現在	Regional editor of Current Nanoscience	
2007年4月～現在	Editorial board member of The open Drug Delivery Journal	
2007年4月～現在	Editorial board member of Current Drug Discovery Technologies	
2009年9月～現在	Co-editor of current Drug Delivery	
2010年1月～2012年1月	日本キチンキトサン学会理事	
2013年1月～2014年1月	日本キチンキトサン学会評議員	
2014年1月～現在	Editorial board member of Austin Journal of Nanomedicine & Nanotechnology	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬理学	職名 教授	氏名 成田 年
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2000年～現在	講義時に代替講師としてではなく、ゲストコメンテーターとして様々な医療施設の医師、薬剤師、歯科医師並びに研究機関の研究者等を迎え、工夫されたスライドを使用したゲストとの討論型講義の中で臨床現場の現状や最前線研究を紹介して頂き、幅のある講義にするよう努めている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2014年 2014年 2015年	分子病体薬理学Ⅰ(京都廣川書店) 分子病体薬理学Ⅱ(京都廣川書店) 詳解薬理学(廣川書店)、図解薬理学(南山堂)、疾患薬理学(ネオメディカル)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2013年3月1日	第133回日本薬学会年会シンポジウム”基礎・臨床の融合ー理想とされる薬学教育の創生を目指してー”にて講演	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013～現在	星薬科大学のベストレクチャー賞を4期連続で受賞。 約150名の国内最大規模の卒論研究室(星薬科大学薬理学教室)における研究遂行指導を遂行。 多医療施設・医局における独創的な学生研修を企画・実行・運営。一方、星薬科大学内先端生命科学センターのセンター長を兼任、順天堂大学医学部麻酔科客員教授、長崎大学医学部精神科非常勤講師、富山大学麻酔科非常勤講師、慶應義塾大学医学部麻酔学教室非常勤講師等を兼任し、薬学部学生のみならず多くの医学部学生の教育・研究指導に携わる。 学内FD講演会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Epigenetic mechanisms of chronic pain.	共著	2015年4月	Trends in Neuroscience. 38(4), 237-246
(論文) Epigenetic transcriptional activation of monocyte chemotactic protein 3 contributes to long-lasting neuropathic pain.	共著	2013年3月	Brain 136, 828-843
(論文) Change in microRNAs associated with neuronal adaptive responses in the nucleus accumbens under neuropathic pain.	共著	2011年10月	The Journal of Neuroscience. 31(43), 15294-15399
(論文) The κ opioid system regulates endothelial cell differentiation and pathfinding in vascular development.	共著	2011年7月	Blood, 118(3), 775-785
(論文) Neuropathic and chronic pain stimuli downregulate central mu-opioid and dopaminergic transmission.	共著	2010年7月	Trends in Pharmacological Science. 31(7), 299-305
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
2009年～現在	日本精神神経薬理学会評議員
2009年～現在	日本アルコール・薬物医学会評議員
2010年～現在	日本薬理学会評議員
2012年～現在	日本ペインクリニック学会評議員
2015年～現在	日本疼痛学会理事
2015年～現在	日本緩和医療薬学会副代表理事・編集委員会委員長
2016年～現在	日本学術振興会学術システム研究センター研究員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤師教育研究部門	職名 教授	氏名 浅井 和範
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
		2015年4月	「能動的チーム基盤型演習の導入」 6年生薬学特別演習Ⅱにおいて、TBL を週3コマ10週間実施し、学生の積極性が増した。
		2015年4月	「薬学教育支援システムモバイル版の導入」 5年生の薬学専門教育の復習用学習ツールとして薬学教育支援システムモバイル版による演習を導入し、自習時間が増加した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			
(FDを含む)		平成2011年3月 ～現在に至る	学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Construction and assessment of a novel attitude cultivation program focusing on student's "learning posture" in clinical practice	共著	2014年	Journal of Pharmaceutical Communication Vol.12 No2
(論文) 改訂コアカリキュラムにおける実務実習の実施に向けた問題点の抽出	共著	2015年	日本地域薬局薬学会誌 第3巻 第1号
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ヒト HSD11B1L の脳内および組織特異的発現とその他のHSD11B アイソザイム発現との比較		2015年3月	第135回日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
2007年～現在	東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員		
2007年～現在	関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ タスクフォース		
2014年, 2015年	薬学教育評価機構 評価実施委員		
2015年	大学基準協会 評価委員		
2015年5月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会第9回大会 実行委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 病態生理学	職名 教授	氏名 武藤 章弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2003年4月～ 現在	疾病の理解を深めるため、毎回教科書に加えて重要な検査、症候を写真などをスライド、配布資料として用い画像として記憶に残るように工夫し、臨床の経験を交えて解説している。また次の講義でサマリーを解説している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年3月～	「Pharmacotherapy」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)「図解 薬害・副作用学」	共著	2013年8月	南山堂
(著書)「やさしい臨床医学テキスト」	共著	2014年3月	薬事日報社
(著書)「Principal Pharmacotherapy」	共著	2015年6月	ネオメディカル
(論文) The gold compound auranofin induces apoptosis of human multiple myeloma cells through both down-regulation of STAT3 and inhibition of NF-kappaB activity	共著	2011年2月	Leukemia Research 35, 243-249
(論文) IGF2 preserves osteosarcoma cell survival by creating an autophagic state of dormancy that protects cells against chemotherapeutic stress	共著	2014年11月	Cancer Research 74, 6531-6541
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 物理学	職名 教授	氏名 中川 弘一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		1993年4月～ 2005年4月～	講義中に課題, 小テストの実施, 講義に関するHPの開設. 課題, 小テスト, 定期 試験の解答・解説をHPにて公開. PCによるプレ ゼンテーションの導入.
2 作成した教科書、教材、参考書		2005年3月 2011年11月 1993年4月～ 1993年4月～	薬学系学生のための 微分積分 (共立出版) 薬学生のための基礎シリーズ3 基礎物理学 (培風館) 数学 プリント集 物理学 プリント集
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年 2014年～	FD 実施検討委員 (学内委員) カリキュラム検討委員 (学内委員) 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 多重ゼータ値と弦の散乱振幅	単著	2009年	星薬科大学一般教育論集, 27, p. 57-67
(論文) 回転ブラックホール・エントロピーの研究 における最近の発展	単著	2011年	星薬科大学一般教育論集, 29, p. 36-63
(論文) 熱的ボソン弦理論における1-ループ宇宙項 について	単著	2012年	星薬科大学一般教育論集, 30, p. 75-95
(論文) A New Approach to Quantum Entanglement by Thermo eld Dynamics	単著	2014年	Hoshi Journal of General Education, No. 32, 2014, p. 1-11
(論文) Entanglement entropies of non- equilibrium finite-spin systems	単著	2014年	Prog. Theor. Exp. Phys. Vol. 2015, Issue 2, February 2015, 021A01(p. 1-6)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 英語	職名 教授	氏名 金澤 洋子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業評価は平均4.2で、比較的安定した評価を得ている。 できるだけ英語で授業を行うが、英語を聴くことに慣れていない学生には丁寧にゆっくり話し、反応をみて日本語でも説明を加える。
2 作成した教科書、教材、参考書			「実用薬学英语」(東京化学同人社) 薬学部が将来医療に貢献する薬剤師として職責を果たすための英語力を身につけるよう専門的英文を医学や焼く麦の専門誌やウェブサイトから原文のまま引用し、Comprehension questionsに医療に関する語彙、Writing Exerciseとして薬学情報を読みプレゼンテーションやディスカッションをする表現を学ぶ問題が用意されている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Paraphrasing in L1 and L2: Proficiency and the effects of learner noticing	単著	2008年1月	成美堂 『外国語教育のフロンティア-四技能から異文化理解まで』
Overview of the Second Seminar on Second language Writing	共著	2011年2月	東京国際大学言語コミュニケーション教育 第5号
学生ライティングチューターによる支援効果	共著	2011年3月	東京国際大学論叢言語コミュニケーション学部編 第8号
紀要の現在、過去未来	共著	2011年12月	JACET 50th Proceeing
Strategies for Inferencing Word Meanings	共著	2011年2月	東京国際大学大学院紀要第26号
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2003年4月～2010年12月	大学英語教育学会(JACET)研究企画委員、紀要副委員長		
	長野県英語教員研修夏期集中講座講師		
	東京国際大学英語教員免許講習講師		
	教科用図書検定調査審議会専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬品分析化学	職名 教授	氏名 齊藤 貢一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年5月1日	パワーポイントとサブノートをリンクさせる
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年5月1日	サブノート作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Solid-phase dispersive extraction method for analysis of benzodiazepine drugs in serum and urine samples	単著	2014年	J. Pharm. Biomed. Anal., 100
(論文) Development of quality assessment method for optically active food flavor chemicals	単著	2011年	J. AOAC Int., 94(3)
(論文) Determination of proline enantiomers in honey and royal jelly by LC-UV	単著	2011年	J. AOAC Int., 94(2)
(論文) Sample cleanup by solid-phase dispersive extraction for determination of vancomycin in serum	共著	2014年	Anal. Sci., 30(2)
(論文) Determination of gentamicins in meat by LC/FL accompanied with online immunoaffinity chromatography cleanup system	共著	2013年	Jpn. J. Food Chem., 20
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ベンゾジアゼピン系薬物の人工胃液中における安定性および液性変化に伴う分解中間体の可逆的な回復挙動の検証		2015年11月	日本法科学技術学会第21回学術集会
(演題名) 固相分散抽出法および固相蛍光誘導体化法を用いたHPLCによる血清中のエフェドリンとプソイドエフェドリンの微量分析		2015年6月	日本法中毒学会34年会
(演題名) イムノアフィニティーゲルを用いた固相分散抽出法および固相蛍光誘導体化HPLCによるチーズ中アフラトキシンM1の残留分析		2015年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
2015年4月～現在	日本法科学技術学会学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 哲学	職名 教授	氏名 重野 豊隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009年4月～ 2010年4月～ 2015年6月～	論述式レポートを多用した論理的思考力の育成 講義とSGDを組み合わせた授業の実施 SGDにおける各学生評価の実施
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年後期 2014年前期	1年「医療の歴史」ベストレクチャー賞の受賞 1年「哲学ゼミナール」ベストレクチャー賞の受賞 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)「プラセボ反応」についてのひとつの現象学的考察	単著	2012年9月	メルロ=ポンティ研究、16号
(論文)「表象なきプラセボ効果」についての哲学的諸理論	単著	2012年12月	星薬科大学一般教育論集、30輯
(論文)プラセボ反応の無意識過程についての認識論的考察	単著	2013年12月	星薬科大学一般教育論集、31輯
(論文)「省察的实践者」に関する方法論的考察	単著	2014年12月	星薬科大学一般教育論集、32輯
(論文)「患者の物語」に関する哲学的考察	単著	2015年12月	星薬科大学一般教育論集、33輯
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2013年6月～現在	昭和大学ヒトゲノム・遺伝子解析倫理審査委員会外部委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生化学	職名 教授	氏名 川島 博人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年5月～ 2015年7月	授業中に適宜演習問題を課して学生の理解度を 確認しながら授業を進める。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Novel anti-carbohydrate antibodies reveal the cooperative function of sulfated N- and O-glycans in lymphocyte homing.	共著	2010年12月	J. Biol. Chem. 285:40864-40878
(論文) Essential role of peripheral node addressin in lymphocyte homing to nasal- associated lymphoid tissues and allergic	共著	2011年5月	J. Exp. Med. 208:1015- 1025
(論文) Role of high endothelial venule- expressed heparan sulfate in chemokine presentation and lymphocyte homing.	共著	2013年7月	J. Immunol. 191:448-455
(論文) Novel antibodies reactive with sialyl Lewis X in both humans and mice define its critical role in leukocyte trafficking and contact hypersensitivity responses.	共著	2015年6月	J. Biol. Chem. 290:15313-15326
(論文) Autophagy protects against colitis by the maintenance of normal gut microflora and secretion of mucus.	共著	2015年8月	J. Biol. Chem. 290:20511-20526
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) マウスシアリルルイスX糖鎖と結合性を持つ新規モノク ローナル抗体の開発とその応用		2015年7月	日本糖質学会
(演題名) 抗糖鎖抗体S2は鼻咽頭関連リンパ組織へのリンパ球ホー ミングを阻害しアレルギー性鼻炎を抑制する		2015年7月	日本糖質学会
III 学会および社会における主な活動			
2014年4月～現在	日本薬学会学術誌編集委員会委員		
2014年8月～現在	日本糖質学会評議員		
2015年2月～現在	日本薬学会代議員		
2015年4月～現在	日本薬学会関東支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 教育実習センター	職名 教授	氏名 輪千 浩史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			学生の理解を高めるため、言い方を変えて同じ内容を繰り返し解説した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年5月 2014年4月1日	疾患から考える臨床検査値 (京都廣川書店) 薬学のための分子生物学 (廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2015年7月15日 2015年7月18日	千葉女子高校への模擬講義 大学進学博2015内の模擬講義 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Galectin-7 and actin are components of amyloid deposit of localized cutaneous amyloidosis.	共著	2013年	Exp. Dermatol. Vol. 22
(論文) Trichostatin A, an HDAC class I/II inhibitor; promotes Pi-induced vascular calcification via up-regulation of the expression of alkaline phosphatase.	共著	2013年	J. Atheroscler. Thromb. Vol 20
(論文) 5-aza-2'-Deoxycytidine, a DNA methyltransferase inhibitor, facilitates the inorganic phosphorus-induced mineralization of vascular smooth muscle cells.	共著	2014年	J. Atheroscler. Thromb. Vol 21
(論文) Domain 36 of tropoelastin in elastic fiber formation.	共著	2014年	Biol Pharm. Bull. vol.37
(論文) 7-Ketocholesterol-induced lysosomal dysfunction exacerbates vascular smooth muscle cell calcification via oxidative stress.	共著	2015年9月	Genes Cells
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Latent TGF- β binding protein 1がfibrillin-1線維形成に与える影響		2015年7月	日本結合組織学会
III 学会および社会における主な活動			
2009年4月～2015年3月	日本マトリックス研究会運営委員		
2005年4月～現在	日本エラスチン研究会理事		
2005年4月～現在	日本結合組織学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 心理学	職名 准教授	氏名 川崎 勝義
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2014年10月 2014年12月	1年生選択必修科目「人間の発達」の中で橋本メソッドを導入 1年生選択必修科目「人間の発達」の中で討論形式授業を実施
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年4月 2011年1月	「ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション」自己分析、コミュニケーションなどについて執筆 「教育心理学をきわめる10のちから」教育評価の分野について執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2014年7月	「クリティカルシンキング教育ミーティング」アクティブラーニングを導入した「人間の発達」の教案について発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Function of the centromedial amygdala in reward devaluation and open field activity	共著	2015年9月	Neuroscience Vol. 303
(論文) Altered social interactions in male juvenile cynomolgus monkeys prenatally exposed to bisphenol A.	共著	2014年7月	Neurotoxicol Teratol. Vol. 44
(論文) 薬学生の論理力調査(2)-2年間における変化-	単著	2012年12月	星薬科大学一般教育論集第30輯
(論文) Maternal plasma polychlorinated biphenyl levels in cynomolgus monkeys (Macaca fascicularis) affect infant social skills in mother-infant interaction.	共著	2011年1月	Dev Psychobiol. Vol. 51 No. 1
(論文) 薬学生の論理力調査	単著	2010年12月	星薬科大学一般教育論集第28輯
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 共感性が文の偶発記憶に与える影響		2015年9月	日本心理学会第79回大会
(演題名) Effects of emotional conditioning and propranolol on nose-poking operant learning of rats		2015年9月	日本動物心理学会第75回大会
III 学会および社会における主な活動			
2014年10月～2015年9月	日本動物心理学会第75回大会準備委員会事務局長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 准教授	氏名 町田 昌明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		実務実習事前学習において臨床実習で生かせる実践的な内容を多く取り入れている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2014年3月22日	深考 臨床薬学	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2015年4月1日～ 2015年9月1日～	日本医科大学付属病院にて研修(5ヶ月・FD) たくみ外苑薬局にて研修(1ヶ月・FD) 学内FD講演会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
深考 臨床薬学	共著	2014年3月22日	京都廣川書店
テキストマイニングを用いた薬局実務実習の問題点の抽	共著	2014年	日本地域薬局薬学会誌(第2巻第1号)
Gastrectomy increases the expression of hepatic cytochrome P450 3A by increasing lithocholic acid-producing enteric bacteria in mice.	共著	2014年	Biol. Pharm. Bull.vol 37
Hepatic early inflammation induces downregulation of hepatic cytochrome P450 expression and metabolic activity in the dextran sulfate sodium-induced murine colitis.	共著	2014年	Eur. J. Pharm. Sci.vol 54
Magnetic Rsonance Imaging Study on the Physical Stability of Menthol and Diphenhydramine Cream for the Treatment of Chronic Kidney Disease-Associated Pruritus.	共著	2015年	Chem. Pharm. Bull. vol 63
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
MRIを用いたメントール・ジフェンヒドラミン含有クリーム剤の製剤安定性評価		2015年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
2011年4月～	「医学と薬学」編集顧問		
2015年4月～	日本薬学会関東支部幹事		
2015年4月～	日本地域薬局薬学会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬品物理化学
職名	准教授	氏名	遠藤 朋宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2004年4月～現在	低学年での講義のため、虫食い状態のプリントを配布しそれを埋めていくことにより、講義のまとめができあがるようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書	2011年2月	放射化学・放射薬品学 第2版 (第11章)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2011～2014年	FD学内シンポジウム (第1～4回) 参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Evaluation of the interaction between β -cyclodextrin and psychotropic drugs by surface plasmon resonance assay with a Biacore [®] system	共著	2011年1月	J. Pharm. Biomed. Anal., 54(1), 258-263
(論文) Evaluation of the abilities of γ -cyclodextrin to form complexes by surface plasmon resonance with a Biacore [®] system	共著	2011年8月	J. Inclusion Phenom. Macrocyclic Chem., 70 (3-4), 385-388
(論文) Quetiapine free base complexed with cyclodextrins to improve solubility for parenteral use	共著	2013年8月	Chem. Pharm. Bull., 61(8), 809-815
(論文) Solid-state characterization of sertraline base- β -cyclodextrin inclusion complex	共著	2015年3月	J. Pharm. Biomed. Anal., 107, 265-272
(論文) Effect of γ -cyclodextrin as a lyoprotectant for freeze-dried actinidin	共著	2015年5月	Pharmazie, 70(5), 296-299
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) フルルビプロフェン/リドカイン非晶質分子複合体における物理化学的特性と皮膚透過性の検討		2015年5月	日本薬学会第30年会
(演題名) Influence of γ -cyclodextrin as a lyoprotectant for freeze-dried actinidin		2015年5月	Joint conference of 8th Asian cyclodextrin conference and 32nd Cyclodextrin symposium
(演題名) レボフロキサシン結晶多形の構造解析と相転移現象の解明		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
(演題名) エパルレスタット結晶多形の構造解析		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
(演題名) イオン液体を利用した経皮吸収促進法とその製剤設計		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
(演題名) エパルレスタットの共結晶化と物理化学的特性の評価		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
(演題名) 計算化学を用いたCyclomaltononase (δ -CD) とコール酸類縁化合物との相互作用の解析		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
III 学会および社会における主な活動			
2012年9月～現在	シクロデキストリン学会評議員		
2014年3月～現在	日本アイソトープ協会ライフサイエンス部会薬学・薬理学研究専門委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 総合基礎薬学教育研究部門	職名: 准教授	氏名 千葉 義彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2006年4月～ 現在	まず人体生理機能を十分に理解させ、薬の作用機序を正確に修得できるよう解説に努めた。パワーポイントを用いた視覚的講義に努め、各項目終了後に国試過去問を用いて理解度を確認した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2006年, 2007年 2008年～現在 2012年～2014年	「疾患薬理学II」講義資料 「薬の効き方IIA」講義資料 「基礎の生物(動物)」講義資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Interleukin-13 augments bronchial smooth muscle contractility with an up-regulation of RhoA protein.	共著	2009年2月	Am J Respir Cell Mol Biol. 2009;40(2):159-67.
(論文) Down-regulation of miR-133a contributes to up-regulation of RhoA in bronchial smooth muscle cells.	共著	2009年10月	Am J Respir Crit Care Med. 2009;180(8):713-9.
(論文) A novel STAT6 inhibitor AS1517499 ameliorates antigen-induced bronchial hypercontractility in mice.	共著	2009年11月	Am J Respir Cell Mol Biol. 2009;41(5):516-24.
(論文) Inhibition of geranylgeranyltransferase inhibits bronchial smooth muscle hyperresponsiveness in mice.	共著	2009年11月	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2009;297(5):L984-91.
(論文) Interleukin-4 upregulates RhoA protein via an activation of STAT6 in cultured human bronchial smooth muscle cells.	共著	2010年2月	Pharmacol Res. 2010;61(2):188-92.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Interleukin-17A経鼻的気管内投与による気管支平滑筋収縮反応性の増強とそのメカニズム		2015年8月	第57回日本平滑筋学会総会
抗原誘発気管支平滑筋過敏性に対するprogranulinの抑制効果		2015年8月	第57回日本平滑筋学会総会
III 学会および社会における主な活動			
1996年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
2000年2月～2012年9月	日本薬理学会代議員		
2012年1月～現在	American Physiological Society, Editorial Board of Am. J. Physiol. Lung Cell. Mol. Physiol.		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 衛生化学	職名 准教授	氏名 高橋 勝彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年前期 2015年後期	3年生「生活環境と健康」；本講義の昨年までのアンケートの意見で講義内容的が絞りにくいとの意見が目立った。暗記科目であることから、講義の最初に予習を意図した正誤問題を取り組む時間を5分強設けることで自己学習の推進を図り、直後に解説しながら答え合わせをすることで単なる知識の押し付けに留まらない講義を行った。 4年生「薬学英语ⅡB」；実践性の訓練を重視するためEBMを取り入れ、英文の和訳に留まらず薬学の知識を交えた臨床試験データの解釈の実際をグループ間の比較検討を通して行った。 1年生「生化学Ⅱ」；医学部の生化学講義との差異を明らかとするため、重要な生体内物質の化学構造式を知る事に重きを置いた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年	「物理系実習ⅠⅠⅠ 実習書」 臨床検査の入門的実習内容の原理と手技のまとめ
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Glucagon regulates intracellular distribution of adipose differentiation-related protein during triacylglycerol accumulation in the liver.	共著	2010年10月	J Lipid Res. (2010) Vol. 51, p2571-2580.
p53 retards cell-growth and suppresses etoposide-induced apoptosis in Pin1-deficient mouse embryonic fibroblasts.	共著	2012年6月	Biochem. Biophys. Res. Commun. (2012) Vol. 422, 133-138.
Molecular mechanism of 9-cis-retinoic acid inhibition of adipogenesis in 3T3-L1 cells.	共著	2013年7月	Biochem Biophys Res Commun. (2013) Vol. 433, 102-107.
Remedy for the diseases associated with prolyl isomerase Pin1; Discovery challenge of Pin1 inhibitors from natural products.	共著	2014年9月	Curr Drug Targets. (2014) Vol. 15, 973 - 981.
Inhibition of ASCT2 is essential in all-trans retinoic acid-induced reduction of adipogenesis in 3T3-L1 cells	共著	2015年7月	FEBS Open Bio. (2015), Vol 5, 571-578.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
脂肪細胞分化におけるグルタミンの影響		2015年12月	日本生化学会学術集会
III 学会および社会における主な活動			
2015年3月～		ヒアルロン酸機能性研究会 評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 衛生化学	職名 准教授	氏名 山崎 正博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年3月 2015年前期	授業内容に関する実際の国家試験問題を配布 前年度授業アンケートに則し配布プリントの改善 (レイアウト再構成・重要事項の強調など)
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年9月 2015年8月	実習帳 (生物学実習V) 実習帳 (生物学実習V)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) グローバル医薬品開発論	共著	2013年3月	京都廣川書店
(論文) Placental extracts induce the expression of antioxidant enzyme genes and suppress melanogenesis in B16 melanoma cells.	共著	2015年11月	Nat. Prod. Res. Vol. 29 No. 22
(論文) Acetoacetyl-CoA synthetase, a ketone body-utilizing enzyme, is controlled by SREBP-2 and affects serum cholesterol levels	共著	2012年8月	Molecular Genetics and Metabolism Vol. 107 No. 3
(論文) Leptin controls ketone body utilization in hypothalamic neuron.	共著	2011年12月	Neurosci. Lett. vol. 490 No. 3
(論文) Ketone Body Utilization is Regulated by Male-specific Factors in Rat Subcutaneous Adipocytes.	共著	2009年10月	Exp. Clin. Endocrinol Diabetes Vol. 117 No. 4
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) プラセンタエキスがメラニン産生細胞の抗酸化能に与える影響		2015年9月18日	環境衛生トキシコロジー 2015
III 学会および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 有機合成化学	職名 准教授	氏名 山内 貴靖
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年～2015年 2010年～2011年、2013年～2015年 2012年～2015年	「生体分子のコアとパーツ」 授業内容の理解度確認のため、毎回テストを実施 「創薬化学Ⅱ」 分子模型を使用して医薬品の立体構造からその機能を学ぶ 「官能基の性質と反応」 各章ごとに小テストを行い要点の整理・理解を深め、中間試験も実施してそれまでの到達度を把握する
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年12月6日 2015年6月20日 2015年7月16日	学内FD講演会に参加 明治薬科大学OSCE 外部評価者 薬学への招待 柏陽高校 国府台女子高校 出張講義
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Bronsted acid catalyzed Friedel-Crafts alkylation reactions of trifluoromethyl- α , β -ynones with indoles	共著	2012年	Synlett, (23), 2699-2703
Asymmetric syntheses of pyrrolidine and piperidine derivatives via region- and stereo-selective ring-opening reactions of chiral aziridine	共著	2012年	Heterocycles, 86(1), 371-380
Total synthesis of the proposed structures of eushearilide	共著	2014年	Heterocycles, 88(2), 1175-1189
Effect of p-aminophenols on tyrosinase activity	共著	2014年	Bioorganic & Medicinal Chemistry, 22, 3994-4000
Bisoxazoline-Catalyzed Asymmetric Nucleophilic Addition of Diethyl Zinc to Fluorinated Alkyl Ketones: Enantiofacial Control by Changing the Bisoxazoline Substituent	共著	2015年	Bull. Chem. Soc. Japan, 88, 200-208
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Total synthesis of (3R, 16E, 20E, 23R)-eushearilide		2015年8月	25th International Society of Heterocyclic Chemistry
Structure-Activity Relationship of Matrine Type Alkaloids Part 24: Synthesis and Antinociception of 3-Arylpiperidine Derivatives		2015年8月	25th International Society of Heterocyclic Chemistry
Enantioselective Synthesis of (+)- and (-)-4-Methyl-6-propylpiperidin-2-one from R-Phenylglycinol through Imine and Oxazolidine Intermediate: Stereoselective Synthesis of Cermizine C		2015年11月	The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic
トリエチルアミン三フッ化水素を用いた光学活性なアジリジン誘導体の位置・立体選択的開環反応		2016年3月	日本薬学会第136年会

ジフルオロエノール0-Bocエステルを用いた光学活性なイミンに対するジアステレオ選択的付加反応の検討	2016年3月	日本薬学会第136年会
マトリン型アルカロイドの構造活性相関 Part 25 : Benzene環を有するPiperidine誘導体の合成と抗侵害作用	2016年3月	日本薬学会第136年会
(+)-Cermizine C の全合成	2016年3月	日本薬学会第136年会
マトリン型アルカロイドの構造活性相関 Part 26: 光学活性な3-Phenylpiperidine誘導体の合成と抗侵害作用	2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
	なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 医療薬剤学	職名 准教授	氏名 服部 喜之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			PowerPointを用いて、最新の情報を適宜取り入れ、説明している。また、学生による授業アンケートの結果を参考にして、教育方法を常に見直している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年4月1日	The Drug Delivery System (分担) 京都廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Angiotensin II-induced hypertension enhanced therapeutic efficacy of liposomal doxorubicin in tumor-bearing mice	共著	2011年1月	Int. J. Pharm., 403:178-184.
(論文) Collagenase-1 injection improved tumor distribution and gene expression of cationic lipoplex	共著	2012年2月	Int. J. Pharm., 423:428-434.
(論文) siRNA delivery for tumor by lipid-based nanoparticle composed with hydroxyethylated cholesteryl triamine	共著	2013年2月	Int. J. Pharm., 443:221-229.
(論文) Anionic polymer-coated lipoplex for safe gene delivery into tumor by systemic injection	共著	2013年8月	J. Drug Target., 21: 639-647.
(論文) Sequential intravenous injection of anionic polymer and cationic lipoplex of siRNA could effectively deliver siRNA to the liver	共著	2014年12月	Int. J. Pharm., 476: 289-298.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
負電荷ポリマーとsiRNAリポプレックスの連続投与による肝転移がんに対する抗腫瘍効果と安全性評価		2015年5月1日	遺伝子・デリバリー研究会第15回シンポジウム
ゾレドロン酸の新生血管阻害作用を介したドキソルビシン封入りリポソームの抗腫瘍効果の増強		2015年7月2-3日	第31回日本DDS学会学術集会
ポリグルタミン酸と正電荷リポプレックスの連続投与による肝臓へのsiRNA送達		2015年7月2-3日	第31回日本DDS学会学術集会
III 学会および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 微生物学	職名 准教授	氏名 築地 信
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年～現在	学生による授業評価アンケートの結果を参考にし、常に改善している。学生自身の復習のために、講義内容のプリントを配布している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2014年2月 2015年5月	薬学生のための基礎シリーズ6「基礎生命科学」培風館 薬学領域の微生物学・免疫学 廣川書店	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2011年～2013年 2012年～2013年 2013年～現在	FD委員会委員 実習委員会委員長 カリキュラム検討委員会委員 学内FD講演会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Autoreactive IgG memory antibodies in patients with systemic lupus erythematosus arise from nonreactive and polyreactive precursors.	共著	2008年7月	Proc Natl Acad Sci USA 105 (28), 9727 - 9732
(論文) Distribution and function of macrophage galactose-type C-type lectin 2 (MGL2/CD301b): efficient uptake and presentation of glycosylated antigens by dendritic cells.	共著	2010年6月	J Biol Chem 285 (25), 19193 - 19204
(論文) Role of central leptin signaling in the starvation-induced alteration of B-cell development.	共著	2011年6月	J Neurosci 31 (23), 8373 - 8380
(論文) Constitutive turnover of phosphorylation at Thr-412 of human p57/coronin-1 regulates the interaction with actin.	共著	2012年12月	J Biol Chem 287 (51), 42910 - 42920
(論文) Distinct germinal center selection at local sites shapes memory B cell response to viral escape.	共著	2015年9月	J Exp Med 212 (10), 1709 - 1723
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 肺炎球菌莢膜糖鎖により誘導される抗体の解析と抗体遺伝子レパトーム解析の可能性		2015年7月	日本糖質学会
III 学会および社会における主な活動			
2013年4月～現在	マクロファージ分子細胞生物学研究会プログラム委員		
2015年4月～現在	日本糖質学会プログラム委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 総合基礎薬学教育研究部門	職名 准教授	氏名 坂田 健
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月	1年生科目「化学」に関して、独自の講義用プリントを用意し、講義に臨んでいる。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年4月	1年生科目「化学」講義用プリント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2015年7月	2014年度前期ベストレクチャー賞(薬学英语IIA)学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis of Phosphabenzenes by Iron-Catalyzed [2+2] Cycloaddition Reaction of Dienes with Phosphaalkynes	共著	2015年6月	Angew. Chem., Int. Ed. vol. 54, No. 26
(論文) Thiolate-Bridged Dinuclear Ruthenium- and Iron-Complexes as Robust and Efficient Catalysts toward Oxidation of Molecular Dihydrogen in Protic Solvents	共著	2015年4月	J. Am. Chem. Soc. vol. 137, No. 12
(論文) Quantum Chemical Study of the Reaction of 3-(Trimethylsilyl)cyclohexa-1,4-dienes with B(C6F5)3	共著	2015年1月	Organometallics vol. 34, No. 1
(論文) Pyrroloindolone Synthesis via a Cp*CoIII-Catalyzed Redox-Neutral Directed C-H Alkenylation/Annulation Sequence	共著	2014年4月	J. Am. Chem. Soc. vol. 136, No. 14
(論文) Quantum Chemical Study of B(C6F5)3-Catalyzed Hydrosilylation of Carbonyl Group	共著	2013年12月	J. Org. Chem. vol. 78, No. 24
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) コバルト触媒を用いた C-H アリル化反応に関する DFT 計算		2015年9月	分子科学討論会
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生薬学	職名 准教授	氏名 須藤 浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月1日	生物を観察する眼を涵養し、天然物化学への興味を引き出すために、座学と並行して植物園での薬用植物観察とスケッチ課題、ならびに原形生薬の観察を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年4月1日 2015年4月1日	国家試験出題頻度に基づく必修生薬リスト 薬用植物観察チェックスタンプ
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2015年5月23日	区民公開講座企画 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Rapid identification of a narcotic plant <i>Papaver bracteatum</i> using flow cytometry	共著	2014年	Journal of Natural Medicines, vol.68, 677-685
(論文) Suppression of camptothecin biosynthetic genes results in metabolic	共著	2013年	Phytochemistry, vol. 91, 128-139
(論文) Triterpene functional genomics in licorice for identification of CYP72A154	共著	2011年	The Plant cell, vol. 23, 4112-4123
(論文) Camptothecin production by in vitro cultures and plant regeneration in <i>Ophiorrhiza</i>	共著	2009年	Methods in molecular biology, vol. 547, 337-345
(論文) Expressed sequence tags from rhizomes of <i>Glycyrrhiza uralensis</i>	共著	2009年	Plant Biotechnology, vol. 26, 105-107
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2011年4月～	理化学研究所環境科学資源センター・客員研究員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤師教育研究部門	職名 准教授	氏名 久保 元
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			有機化学で重要な化合物について、化合物名(英語)から構造式、構造式から化合物名(英語)を暗記するように重点を置いて指導し、試験で出題した。反応式を矢印を用いて示す場合、色を変えて表した。新たに生成した結合にも色を変えて表現した。化合物の立体化学を理解できるように大きな分子模型を利用して説明した。付加反応、置換反応は、違いがわかるように表で整理して、理解をさせた。基礎薬学演習では、有機化学で覚えるべきことを講義の初めに示し、演習で応用し正答に導ける様にした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年～2014年	2年次基礎薬学演習でプリントを教材とした
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬理学	職名 准教授	氏名 森 友久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011年9月 ～現在	製薬会社における創薬・開発研究、医学部法医学における法中毒および解剖の経験、5年以上に渡る海外留学など多様な経験を授業に反映させている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年7月 2015年1月 2015年8月	薬学必修講座薬理学 図解 薬害・副作用学 詳細 薬理学
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Involvement of μ - and δ -opioid receptor function in the rewarding effect of (\pm)-pentazocine.	共著	2015年	Addict. Biol. 20, 724-732
(論文) Inhibitory effects of SA4503 on the rewarding effects of abused drugs.	共著	2014年	Addict. Biol. 19, 362-369
(論文) Differential substitution for the discriminative stimulus effects of 3,4-methylenedioxymethamphetamine and methylphenidate in rats.	共著	2014年	J. Pharmacol Exp. Ther. 350: 403-411
(論文) Sigma-1 receptor function is critical for both the discriminative stimulus and aversive effects of the kappa-opioid receptor agonist U-50488H.	共著	2013年	Addict. Biol. 17, 717-724
(論文) Mechanisms that underlie μ -opioid receptor agonist-induced constipation.	共著	2013年	J. Pharmacol Exp. Ther. 347: 91-99
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2015年4月～	Pmda専門委員		
2015年1月～	日本神経精神薬理学会・評議員 (2011年～)・国際学術委員		
2012年10月～	日本緩和医療薬学会・評議員・認定委員		
2012年10月～	日本依存精神神経科学会・評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤師職能開発研究部門	職名 准教授	氏名 湯本 哲郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		アクティブラーニングの採用	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		学内FD講演会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 病院部門別管理・運営の実践	共著	2014年4月	日本医療企画(株)
(著書) 深考 臨床薬学	共著	2014年3月	京都廣川書店
(著書) 病気と薬パーフェクトBOOK 2012	共著	2012年3月	南山堂
(著書) 漢方の医薬品情報と服薬指導	共著	2011年3月	薬事新報社
(著書) 病気と薬パーフェクトBOOK 2011	共著	2011年3月	南山堂
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2015年4月～	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会 理事		
	神奈川県病院薬剤師会 特別委員		
	日本ファーマシーマネジメント研究所 研究員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 総合基礎薬学教育研究部門	職名 准教授	氏名 竹ノ谷 文子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫		「スポーツ科学」では、最新の情報を取り入れ、新規運動療法を提案する。 「スポーツセラピー」では、運動を統合医療の一つとして考え討論なども行う。 「スポーツと健康」では、スポーツ医学、スポーツファーマシストの情報を取り入れる。 「スポーツ実技」では、ニュースポーツを積極的に取り入れる。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2014年5月 2015年5月 2015年6月	スポーツアトミー ～人体解剖生理学～ アンチエイジング医学の基礎と臨床 Handbook of Hormones:Comparative Endocrinology for Basic and Clinical Research	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		学内FD講演会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Neuropeptide GPCRs in neuroendocrinology	共著	2012年11月	Front. Endocrinol (Lausanne)
(著書) Handbook of Biologically Active Peptides	共著	2013年6月	Academic Press, P1025-1032
(論文) Interactive effect of galanin-like peptide (GALP) and spontaneous exercise on energy metabolism.	共著	2014年9月	Peptides. Vol. 49.P109-116
(論文) Galanin-like peptide (GALP) facilitates thermogenesis via synthesis of prostaglandin E2 by astrocytes in the periventricular zone of the third ventricle.	共著	2013年12月	J Mol Neurosci. 50.P443-452
(論文) Neuropeptide W-Induced Hypophagia is Mediated Through Corticotropin-Releasing Hormone-Containing Neurons.	共著	2015年2月	J Mol Neurosci. 57.P789-798
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2015年2月～現在	日本糖尿病・肥満動物学会理事		
2015年4月～現在	日本アロマセラピー学会評議委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 機器センター	職名 准教授	氏名 長瀬 弘昌
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年～ 2014年	特に基礎概念の理解に重点を置き、 化学ポテンシャル用いてすべての 現象を理解できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effects of cogrinding with β - cyclodextrin on the solid state fentanyl	共著	2008年3月	Journal of Pharmaceutical Sciences
(論文) Crystal Structure of Epalrestat Non-Solvate	共著	2013年8月	X-ray Structure Analysis Online vol.29
(論文) Quetiapine Free Base Complexed with Cyclodextrins to Improve Solubility for Parenteral Use	共著	2013年8月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin Vol. 61 No. 8
(論文) Crystal Structure of an Epalrestat Methanol Solvate	共著	2015年1月	X-ray Structure Analysis Online vol.31
(論文) Solid-state characterization of sertraline base- β -cyclodextrin inclusion complex	共著	2015年3月	Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis vol.107 No.25
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) レボフロキサシンとシュウ酸の複合体の結晶構造		2015年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤師教育研究部門	職名 准教授	氏名 大野 修司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月17日	生理活性分子とシグナル伝達 (2年生前期1単位) において、予習小テストを導入し、講義範囲を予習することで理解度向上を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年11月22日～24日	第4回薬学教育者のためのアドバンスワークショップに参加 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Evidence for expression of 11b-hydroxysteroid dehydrogenase type3 (HSD11B1L) in neonatal pig testis.	共著	2013年	Molecular and Cellular Biochemistry vol.381
(論文) Effects of Bisphenol A on the expression of cytochrome P450 aromatase (CYP19) in human fetal osteoblastic and granulose cell-like cell lines.	共著	2012年1月	Toxicological Letters vol.210 No.1
(論文) Quantitative analysis of UGT2B28 mRNA expression by real-time RT-PCR and application to human tissue distribution study.	共著	2011年	Drug Metabolism Letters vol.5
(論文) Quantitative determination and tissue distribution of human 11b-hydroxysteroid dehydrogenase, hexose-6-phosphate dehydrogenase, glucose-6-phosphate transporter, glucocorticoid receptor and mineralocorticoid receptor mRNAs.	共著	2010年5月	Hormone Molecular Biology and Clinical Investigation vol.2 No.1
(論文) Sequence and expression of 11b-hydroxysteroid dehydrogenase type 1 cDNA cloned from pig testis.	共著	2010年2月	Molecular and Cellular Biochemistry vol.338
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 病態生理学	職名 准教授	氏名 清水 孝恒
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 実験医学増刊号がん微小環境と標的治療	単著	2015年3月	羊土社, p18-24
(著書) seriesモデル動物利用マニュアル 疾患モデルの作製と利用 がん	単著	2012年10月	Life-Science Information Center出版, p127-135
(論文) IGF2 preserves osteosarcoma cell survival by creating an autophagic state of dormancy that protects cells against chemotherapeutic stress	共著	2014年	Cancer Research, 74:6531-41
(論文) Fibroblast growth factor-2 is an important factor that maintains cellular immaturity and contributes to aggressiveness of osteosarcoma	共著	2012年	Molecular Cancer Research, 10, 454-468
(論文) c-MYC overexpression with loss of Ink4a/Arf transforms bone marrow stromal cells into osteosarcoma accompanied by loss of adipogenesis	共著	2010年	Oncogene, 29, 5687-5699
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2003年4月～	日本内科学会認定内科医		
2015年1月～	日本癌学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 教育学	職名 准教授	氏名 吉澤(渡邊) 小百合
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年4月～現在	担当授業においては、適宜プリント等で演習問題を与えて解説し、講義内容について理解をより深めるように努めている 授業評価結果では例年3位以内に名が挙げられている
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年2月 2012年1月 2010年9月	改訂版 薬学英语II (成美堂) Cross Over the TOEIC Bridge Test (金星堂) 英語語彙指導の実践アイデア集 (大修館書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2009年4月～現在	英作文教育におけるピアレビュー活動の実践について、国際会議及び国内の学会において発表を行っている
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2008年4月～現在	学習支援については、随時研究室で授業に関することだけでなく、就職のためのTOEIC試験対策、大学院受験や留学など、様々な質問や相談に応じている 学内FD講演会に参加している
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Pict-net Abstraction for EFL Writings and Classification Using the Normalized Compression Distance	単著	2014年12月	Hoshi J. Gen. Ed. 32
(論文) Supporting Peer Review Processes in EFL Composition through Pictograms	共著	2013年3月	Proc. Int. Tech. Ed. Dev. Conf.
(論文) Pictogram Network: Evaluating English Composition Skills	共著	2012年10月	Proc. IEEE Int. Prof. Comm.
(論文) Assessing the Impact of Student Peer Review in Writing Instruction by Using the Normalized Compression Distance	共著	2011年12月	IEEE Trans. on Prof. Comm. 55-1
(論文) English-Language Education and Textbooks for Pharmacy Students	単著	2010年12月	教材学研究 21
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2012年6月～11月	6th International Conference on Education, Research and Innovation (ICERI 2013)のInternational Advisory Board Member 及び査読委員		
2011年5月～9月	General Conference on Emerging Arts of Research on Management and Administration のプログラム委員, 査読委員, 予稿集編集委員, 応用ワークショップオーガナイザ		
2010年1月～現在	人口知能学会・日本認知科学会 正会員		
2009年1月～現在	IEEE International Professional Communication Society Member		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬物治療学	職名 准教授	氏名 池田 弘子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			講義資料を研究室のHPで閲覧できるようにした。また、講義内容に関する薬剤師国家試験の問題を毎回1-2題講義中に出題し、解説した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年3月 2015年6月	「Pharmacotherapy改訂2版」ネオメディカル 「Principal Pharmacotherapy」ネオメディカル
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年前期 2013年後期	『疾患と薬物治療ⅡB』優秀講義 『テーラーメイド薬物治療』優秀講義 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Spiraling dopaminergic circuitry from the ventral striatum to dorsal striatum is an effective feed-forward loop.	共著	2013年6月	Neuroscience 241, 126-134
(論文) Olanzapine increases hepatic glucose production through the activation of hypothalamic AMPK.	共著	2013年12月	Diabetes, Obesity and Metabolism 15, 1128-1135
(総説) Investigating complex basal ganglia circuitry in the regulation of motor behaviour, with particular focus on orofacial movement.	共著	2015年1月	Behavioral Pharmacology 26, 18-32
(論文) Cannabinoid functions in the amygdala contribute to conditioned fear memory in streptozotocin-induced diabetic mice: interaction with glutamatergic functions.	共著	2015年7月	Experimental Neurology 269, 233-241
(論文) Inhibition of opioid systems in the hypothalamus as well as the mesolimbic area suppresses feeding behavior of mice.	共著	2015年10月	Neuroscience 311, 9-21
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 気管収縮増強に伴う咳反射亢進に対する苦味受容体刺激薬の鎮咳作用		2015年7月	第132回日本薬理学会関東部会
(演題名) Opioid receptors in the lateral hypothalamus play a critical role in the regulation of feeding behavior		2015年7月	第38回日本神経科学大会
(演題名) 有痛性糖尿病性神経障害に対するNav1.7およびNav1.8の関与		2015年9月	第45回日本神経精神薬理学会
(演題名) Streptozotocin誘発糖尿病マウスの不快情動反応亢進に対する扁桃体カンナビノイド機能の関与		2015年9月	第45回日本神経精神薬理学会
(演題名) Hypothalamic opioid systems regulate feeding behavior through orexin and GABA neurons		2015年10月	第36回日本肥満学会
(演題名) 中枢ドパミン神経による血糖調節機構		2016年3月	第89回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2005年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
2014年4月～現在	日本薬理学会 代議員		

2014年4月～2015年3月	厚生労働省 薬剤師試験委員
2015年9月～現在	日本神経精神薬理学会 学術評議員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬動学	職名 准教授	氏名 落合 和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			高度な知識を必要とする内容を減らし、基礎的な講義の内容を重点的に行った。また、国家試験問題を活用した演習を増やし、理解度を高めさせた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年3月	「薬物動態演習」 薬物動態の演習で使用する教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Hepatic early inflammation induces downregulation of hepatic cytochrome P450 expression and metabolic activity in the dextran sulfate sodium-induced murine colitis.	共著	2014年4月	Eur J Pharm Sci;54:17-27.
Menthol reduces the anticoagulant effect of warfarin by inducing cytochrome P450 2C expression.	共著	2014年6月	Eur J Pharm Sci. 2:56:92-101
Effects of menthol on the pharmacokinetics of triazolam and phenytoin.	共著	2015年1月	Biol Pharm Bull. 2015;38(3):454-60
Expression of hepatic cytochrome P450 in a mouse model of ulcerative colitis changes with pathological conditions.	共著	2015年11月	J Gastroenterol Hepatol. 30(11):1618-26
Altered expression of transporter and analgesic of morphine in neuropathic pain mice	共著	2015年5月	Yakugaku Zasshi135(5):703-8.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 培養肝細胞におけるPXR1とPXR2による薬物代謝酵素の発現制御と細胞増殖の関係性		2015年11月	日本薬物動態学会年会
III 学会および社会における主な活動			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生薬学	職名 准教授	氏名 金田 利夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			「薬になる天然資源II、III」では、主要なスライドをプリントして配布しており、横断的な知識融合を意識し、漢方や天然物化学を薬理学や免疫学といった他分野と絡めて講義している。 「薬学英語IIB」では、専門的な論文を短時間で理解することを目指しており、論文理解に必要な実験的知識を予め解説し、SGDを使って短時間に内容を把握させる。普通では無理と思われるハイレベルの論文を読破させ自信を持たせることを意図している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年1月	パートナー天然物化学 改訂第2版第6章(南江堂)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(総説) Plant natural products as an anti-lipid droplets accumulation agent.	共著	2014年	J Nat Med. 68: 253-266
(論文) Lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor-1 abrogation causes resistance to inflammatory bone destruction in mice, despite promoting osteoclastogenesis in the steady state.	共著	2015年	Bone. 75: 170-182
(論文) Bisluconothine A Induces Autophagosome Formation by Interfering with AKT-mTOR Signaling Pathway.	共著	2015年	J Nat Prod. 78:1656-1662
(論文) Oxomollugin, a potential inhibitor of lipopolysaccharide-induced nitric oxide production including nuclear factor kappa B signals.	共著	2015年	J Nat Med. 69: 608-611
(論文) Ceramicine B, a limonoid with anti-lipid droplets accumulation activity from Chisocheton ceramicus.	共著	2014年	J Nat Med. 68: 22-30
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2015年4月～現在	日本生薬学会編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 情報科学	職名 講師	氏名 香川 博隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			学生からの質問に十分に対応するため、平日午後をオフィスアワーに充てている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			2013年前期担当科目 ベストレクチャー賞 2014年前期担当科目の優秀講義への選出 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 講師	氏名 白水 俊介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			病院にて薬剤師業務を行い、学んだことを事前 実習に取り込んでいる。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
薬学の客観的臨床能力試験(OSCE)における独自課題「処方鑑査」の有用性	共著	2009年8月	医療薬学
テキストマイニングを用いた薬局実務実習の問題点の抽出	共著	2014年1月	日本地域薬局薬学会誌
実務実習における学生の「学びの姿勢」に着目した新規態度養成プログラムの構築と評価	共著	2014年12月	Journal of Pharmaceutical
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生体分子有機化学	職名 講師	氏名 高橋 万紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月-7月	練習問題の配布、過去の試験問題と解答の配布 分子模型の活用、試験結果の開示と解答の配布 追再試験の結果開示と解答の配布、補講の実施
2 作成した教科書、教材、参考書			有機化学I (本学教員で作成)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年	講義後の質問の随時受付 担当科目以外の質問も積極的に受付 ベストレクチャー賞次点 (三年)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 天然物合成で活躍した反応	共著	2011年	化学同人、p84-84
(論文) Formal synthesis of (-)-oleocanthal by means of a SmI ₂ -promoted intramolecular coupling of bromoalkyne with α, β -unsaturated ester	共著	2012年	Tetrahedron Lett. 53, 3342-3345
(論文) Integral Stereocontrolled Synthesis of a Spiro-norlignan, Sequoempervirin A: Revision of Absolute Configuration	単著	2012年	Org. Lett. 2011, 13, 4640-4643
(論文) Diastereoselective Syntheses of Functionalized Five-Membered Carbocycles and Heterocycles by a SmI ₂ -Promoted Intramolecular Coupling of Bromoalkynes and α, β -Unsaturated	単著	2010年	Org. Lett., 2010, 12, 3026-3029.
(論文) Efficient formal synthesis of (±)-axamide-1 and (±)-axisonitrile-1 via an intramolecular Hosomi-Sakurai reaction	共著	2010年	Tetrahedron Lett., 2010, 51, 3542-3544.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2009年4月~2011年3月	日本薬学会ファルマシアトピックス小委員会		
2011年4月~2014年3月	日本薬学会関東支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	法学
職名	講師	氏名	山本 弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2011年4月～現在	講義にてコメントペーパーを用いて学生からの意見や質問を聴取し、双方向的な講義を心がけた。 また、学生どうしの議論を講義に取り入れ問題発見能力向上と興味喚起を促した。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年度前期ベストレクチャー賞 2014年度後期ベストレクチャー賞 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 鎌倉幕府における『濫訴』に関する一試論	単著	2010年3月	『史学論叢(別府大学)』40号
(著書) 九州大学百年の宝物	共著	2011年2月	丸善プラネット
(書評) 西村安博「鎌倉幕府の裁判における問状・召文に関する覚え書き—その理解の現状と今後の課題—」	単著	2011年3月	『法制史研究』60号
(学界回顧) 日本法制史・中世	単著	2013年12月	『法律時報』85巻13号(通巻1067号), 日本評論社
(論文) 鎌倉期の堺相論実検使に関する予備的考察	単著	2014年12月	『法政研究(九州大学)』第81巻第3号
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月～2014年3月	法制史学会東京部会幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 医療薬剤学	職名 講師	氏名 池内 由里
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年9月～	講義内容に沿った演習問題を与え、その後解説を行うことで、理解を深める講義としている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年3月	グローバル医薬品開発論「京都廣川書店」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年度～ 2014年7月	FD委員会委員として活動している。 学内FD研修会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Comparison of physical properties and drug-releasing characteristics of white petrolatums.	共著	2010年5月	Pharmazie, 65, 801-804
(論文) Preparation properties and antioxidative potency of preparations containing ascorbic acid.	共著	2012年4月	Jpn J Pharm Health Care Sci, 38, 220-227
(論文) Evaluation of matrix type mucoadhesive tablets containing indomethacin for buccal application.	共著	2013年6月	Int J Pharm, 453, 454-461
(論文) Formulation and evaluation of matrix type mucoadhesive tablets aimed at treating oral aphtha.	共著	2013年8月	Drug Dev Ind Pharm, 39, 1254-1261
(論文) Effect of short-term polyphenol treatment on endothelial dysfunction and thromboxane A2 levels in streptozotocin-induced diabetic mice.	共著	2014年6月	Biol Pharm Bull, 37, 1056-1061
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
難水溶性薬物を含有する固体脂質微粒子製剤の開発		2015年3月	日本薬学会第135年会
ポリフェノール添加キシログルカンハイドロゲルの調製と評価		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
シス型およびトランス型脂肪酸における脂質過酸化とポリフェノールによる脂質過酸化抑制効果		2015年10月	第8回日本健康医療学会
ポリビニルアルコール添加口腔粘膜付着錠の製剤特性に関する検討		2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2012年10月	第5回日本健康医療学会学術大会 事務局長		
2013年4月～現在	一般社団法人日本健康医療学会 理事		
2013年4月～現在	一般社団法人日本健康医療学会 学会誌編集委員		
2015年4月～現在	関東労災病院 治験審査委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤学	職名 講師	氏名 小幡 誉子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業内容に関して学生の理解度を確認しながら、広い知識を得られるように工夫している。また、補助教材に関してもプリント配布に留まらず、学生が興味を持てるようなメディアの活用も積極的に行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年4月8日	The DDS (分担執筆、京都廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
経皮吸収性の促進技術	単著	2014年4月8日	情報機構
注射剤・経口剤に代わる新しい薬物投与デバイスの開発	共著	2014年6月3日	技術情報協会
OBATA, Y., WAKO, M., ISHIDA, K., AND TAKAYAMA, K.: Effect of p-menthane derivatives on skin permeation of paroxetine.	共著	2014年	J. Drug Del. Sci. Tech., 24, 713-718 (2014)
ISHIDA, K., OBATA, Y., AKAGI, C., ONUKI, Y., AND TAKAYAMA, K.: Practical syntheses of D-erythro- and L-threo-ceramide [NDS] and difference in contribution of each isomer in microstructure of stratum corneum intercellular lipids.	共著	2014年	J. Drug Del. Sci. Tech., 24, 689-693 (2014)
DUANGJIT, S., OBATA, Y., SANO, H., KIRUCHI, S., ONUKI, Y., OPANASOPIT, P., NGAWHIRIRUNPIT, P., MAITANI, Y., AND TAKAYAMA, K.: Mentosomes, novel ultra-deformable vesicles for transdermal drug delivery: Optimization and characterization.	共著	2014年	Biol. Pharm. Bull., 35, 1720-1728 (2012)
ONUKI, Y., HASEGAWA, N., IKEGAMI-KAWAI, M., SUEMATSU, T., SAKURAI, S., SHIROZU, S., TSUBUKI, M., OBATA, Y., AND TAKAYAMA, K.: Contribution of glucose to crystallization of phenytoin in injectable dosage form by dilution with infusion fluids.	共著	2014年	Chem. Pharm. Bull., 62, 989-993 (2014)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
薬物の皮膚透過性と処方成分配合量および皮膚表面構造変化の関連		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
アセトアミノフェン含有オーバル錠の調製における工程変数の最適化		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
楕円錠の処方最適化と信頼性評価		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
示差走査熱量測定による角層細胞間脂質モデルの微細構造変化評価系の開発		2015年6月	第40回日本香粧品学会
製剤成分の皮膚刺激性と細胞間脂質の構造変化の関連		2015年6月	第40回日本香粧品学会
MRI を利用したエマルション化粧品の乳化状態の評価		2015年6月	第40回日本香粧品学会
Elucidation of skin permeation of duloxetine transdermal formulation and promoting mechanism of formulation components		2015年8月	Gordon Research Conferences
III 学会および社会における主な活動			
2014年4月～	日本薬剤学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 講師	氏名 石塚 和美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年度～ 2014年度～ 2014年度～	演習を取り入れ、理解を深めるとともに、受動的な講義のみにならないように努めている。 毎回最初に前回範囲の正誤問題を行い、要点の整理、知識の定着に努めている。 毎回最後に次回の範囲を示し、予習できるように努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年4月	深考臨床薬学（共著、京都廣川書店）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年度	後期ベストレクチャー賞受賞 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 薬剤師の情報提供に対する妊婦の服薬への心理的影響度の検証	共著	2015年4月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会
(論文) 実務実習における学生の「学びの姿勢」に着目した新規態度養成プログラムの構築と評価	共著	2014年10月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会
(論文) テキストマイニングを用いた薬局実務実習の問題点の抽出	共著	2014年4月	日本地域薬局薬学会誌, 2(1), 30-36
(論文) 割線入りテオフィリン徐放性製剤の分割による薬物溶出挙動への影響	共著	2012年2月	YAKUGAKU ZASSHI, 132(2), 225-230
(論文) A 5% glucose infusion fluid provokes significant precipitation of phenytoin sodium injection via interruption of the cosolvent effect of propylene glycol.	共著	2012年1月	Chem. Pharm. Bull., 60(1), 86-93
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 倫理的ジレンマに関する教育プログラムの導入と有用性の評価		2015年5月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会
(演題名) 薬学生を対象とした白衣、マスク着用に伴う心理的効果の検証		2015年5月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会
III 学会および社会における主な活動			
2015年5月	第9回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会実行副委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 教育実習センター	職名 講師	氏名 宮下 正弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年～ 2015年～ 2015年～	薬学英语IIB講義 生物系実習I～IV, 物理系実習III 研究入門演習, 生物系実習I (新コアカリキュラム)
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年～ 2015年～	薬学英语IIBに関わる教材の作成 生物系実習I (新コアカリキュラム) の実習帳作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年～	新コアカリキュラム実習の企画 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Effect of tyramine on the production of interstitial adenosine during perfusion with adenosine 5'-monophosphate in rat hearts <i>in vivo</i>	共著	2013年1月	Eur. J. Pharmacol., Vol. 700
(論文) Productive effect of diltiazem, a L-type calcium channel antagonist, on lysophosphatidyl-choline-enhanced hydroxyl radical generation by MPP(+) in rat striatum	共著	2013年1月	Clin. Biochem., Vol. 46
(論文) 逆相カラムが示す陰イオン交換作用を利用した無機イオンの高速液体クロマトグラフィー分析	共著	2011年2月	分析化学, Vol. 60
(論文) リン酸アルキルアンモニウムを添加した移動相を用いる逆相高速液体クロマトグラフィーによるヨウ化物イオン及びヨウ素化チオロニン類の同時分析	共著	2011年10月	分析化学, Vol. 60
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 教育実習センター	職名 講師	氏名 渡辺 聡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月	パワーポイントの配色を工夫して見やすくした。 タイムリーな話をできるだけ取り込んだ。 クイズ形式のテストを用いて導入を試みた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年4月	「研究入門」冊子。 「生活環境と健康」レジメ。 「研究入門」レジメ。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年4月	学生実習における基礎手技の習得、技能習得に伴う実験方法の構築、その後のSGDについて、全ての学生が確実に参加し、実行できるような方策を考案し実行した。 学内FD講演会に参加。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Role of xanthine oxidoreductase in acute stress response against LPS-induced oxidative damage.	共著	2011年	J. Health Sci.
Redox unbalance is concerned in fructose-induced metabolic syndrome.	共著	2010年	J. Health Sci.
Acceleration of continuous ethanol ingestion-induced liver damage by hyperuricemia.	共著	2009年	J. Health Sci.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 機器センター	職名 講師	氏名 笠井 博子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月～	板書と映像を併用し、学生の見え易さ・聞こえ易さに配慮。授業毎に問題を解き、わからない箇所を把握、自己学習につなげる。
2 作成した教科書、教材、参考書			「分析科学」(第2版)化学同人
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			2011年度から、学内FD・SD研修会に参加し研鑽に努めている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Structural Features of Polyacylated Anthocyanins using Matrix-Assisted Laser Desorption/Ionization and Electrospray Ionization Time-of-Flight Mass Spectrometry	共著	2011年	Rapid Commun. Mass Spectrom., 25, 1051-1060
(論文) チョウジの蕾における匂い物質の変動	共著	2012年	日本植物園協会誌, 46, 121-126
(論文) Covalent anthocyanin-flavonol complexes from the violet-blue flowers of Allium "Blue Perfume."	共著	2012年	Phytochemistry, 80, 99-108
(論文) Proteomics of the rodent malaria parasite using matrix-assisted laser desorption/ionization quadrupole ion trap time-of-flight tandem mass spectrometry	共著	2012年	Anal. Sci., 28, 813-817
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
星薬大薬用植物園で栽培されるウコンの香気成分の分析		2016年3月	日本薬学会第136年会
シクロデキストリン包接マトリックスを用いたMALDI-TOFMSによる低分子化合物の測定		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
薬学への招待2015	高校生を招待し高度精密分析機器についての説明を行う(2015年 6月 20日)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 機能形態学	職名 講師	氏名 松本 貴之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年4月～ 現在	学生からの授業アンケートの結果を参考にして、 教育方法を常に見直している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Mechanisms underlying increased serotonin-induced contraction in carotid arteries from chronic type 2 diabetic Goto-Kakizaki rats	共著	2014年9月	Pharmacol Res. 87:123-32
(論文) Enhanced uridine adenosine tetraphosphate-induced contraction in renal artery from type 2 diabetic Goto-Kakizaki rats due to activated cyclooxygenase/thromboxane receptor axis.	共著	2014年2月	Pflugers Arch. 466:331-42
(論文) Suppression of endoplasmic reticulum stress improves endothelium-dependent contractile responses in aorta of the spontaneously hypertensive rat.	共著	2013年8月	Am J Physiol Heart Circ Physiol. 305:H344-53
(論文) Alterations in vasoconstrictor responses to the endothelium-derived contracting factor uridine adenosine tetraphosphate are region specific in DOCA-salt hypertensive rats.	共著	2012年1月	Pharmacol Res. 65:81-90
(論文) Uridine adenosine tetraphosphate-induced contraction is increased in renal but not pulmonary arteries from deoxycorticosterone acetate-salt hypertensive rats.	共著	2011年8月	Am. J. Physiol. Heart Circ. Physiol. 301:H409-H417
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 自然発症高血圧ラット腎動脈と頸動脈における心房性ナトリウム利尿ペプチド誘発弛緩反応の比較とメカニズムに関する検討		2015年7月	第132回日本薬理学会関東部会
(演題名) ラット頸動脈における高濃度インスリンによるセロトニン誘発収縮反応増強に対する薬理的検討		2015年7月	第132回日本薬理学会関東部会
III 学会および社会における主な活動			
2009年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
2011年9月～現在	Fellow of the American Heart Association		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	実務教育研究部門
職名	講師	氏名	湧井 宣行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年7月～	実務実習事前学習で、実習終了時に実技試験を行い、学生全員が実習を理解できるように工夫を行っている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2014年8月～	調剤薬局に行き、実務家教員としての薬剤師技術の維持と知識担保を行っている。 学内FD講演会に参加。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 小児粉碎薬における医薬品含有量および損失の評価	共著	2011年6月	医療薬学. 37. 425-430
(論文) Determination of exposure of dispensary drug preparers to cyclophosphamide by passive sampling and liquid chromatography with tandem mass spectrometry.	共著	2013年12月	J Oncol Pharm Pract. 19 31-37
(論文) Development of a closed drug preparation method for oral anticancer drugs.	共著	2013年6月	J Oncol Pharm Pract. 19 315-320
(論文) Menthol reduces the anticoagulant effect of warfarin by inducing cytochrome P450 2C expression.	共著	2014年6月	Eur J Pharm Sci. 56 92-101
(論文) Expression of hepatic cytochrome P450 in a mouse model of ulcerative colitis changes with logical conditions.	共著	2015年4月	J Gastroenterol Hepatol. In printing
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 経口抗がん薬の調製時曝露を防止する：錠剤懸濁投与器具及び錠剤懸濁投与方法の開発		2015年3月	日本臨床腫瘍薬学会
III 学会および社会における主な活動			
2014年4月～	日本臨床腫瘍薬学会 会員委員会委員		
2015年4月～	International Journal of Pharmaceutical and Clinical Research : Editorial Board		
2015年4月～	品川区学校薬剤師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 講師	氏名 山村 美保
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年4月 ～2015年5月	「コミュニティファーマシー」講義にてオリジナル資料にて講義を行うことにより、教材のマンネリ化防止、最新の情報提供を実施。事前実習において、SGD を取り入れ参加型の実習を、導入。
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年4月	「コミュニティファーマシー」講義にてオリジナル教材作成 13講義
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年4月 ～2015年5月	調剤薬局において、調剤業務、レセプト業務、在宅医療などについて、継続的に参加しておりこれから求められる薬剤師像を常に意識し、講義を通して学生に伝えられるようFD活動として参加致しております。(85日間) 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
テキストマイニングを用いた薬局実務実習の問題点の抽出	共著	2014年1月	日本地域薬局薬学会誌
実務実習における学生の「学びの姿勢」に着目した新規態度養成プログラムの構築と評価	共著	2014年12月	Journal of Pharmaceutical
(論文) Measurement of the antioxidant power of mouthwashes used for stomatitis.	共著	2015年5月	Asian Journal of Pharmaceutical and
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
1989年～2015年5月	東京都薬剤師会会員		
1989年～2015年5月	日本薬剤師会会員		
2014年4月～	株式会社ヤマグチ薬局 本社 非常勤薬剤師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 講師	氏名 鳥越 一宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年4月～	薬歴作成などの参加型講義を実施し、 毎回演習、発表を行うことで理解が深まるよう に努めている
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年4月 2016年2月	患者情報 (分担執筆) 疾患薬理学 (分担執筆)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2014年7月	日本緩和医療薬学会年会にて、臨床研究に関する シンポジウムで講演
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年7月 2014年12月 2015年1月	学内の教育FDに参加 学内の教育FDに参加 認定実務実習指導薬剤師養成WSに参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Hippocampal epigenetic modification at the brain-derived neurotrophic factor gene induced by an enriched environment.	共著	2011年2月	Hippocampus., 21, 127-32
(論文) Usefulness of olanzapine as an adjunct to opioid treatment and for the treatment of neuropathic pain.	共著	2012年1月	Anesthesiology., 116, 159-169
(論文) Olanzapine suppresses the rewarding and discriminative stimulus effects induced by morphine.	共著	2012年2月	Synapse., 66, 174-179
(論文) Effects of mirtazapine on sleep disturbance under neuropathic pain-like state	共著	2012年6月	Synapse., 66, 483-488
(論文) Sigma-1 receptor function is critical for both the discriminative stimulus and aversive effects of the kappa-opioid receptor agonist U-50488H.	共著	2012年7月	Addict Biol., 17 717-724
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
オピオイドの副作用マネジメントに用いる抗精神病薬の薬理学的プロファイリング比較		2015年10月	日本緩和医療薬学会
III 学会および社会における主な活動			
2013年4月～現在	日本緩和医療薬学会 研究推進委員会委員		
2014年4月～現在	日本臨床腫瘍薬学会 認定制度委員会委員		
2015年4月～現在	東京都病院薬剤師会 緩和医療領域薬剤師養成特別委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤師職能開発研究部門	職名 講師	氏名 酒井 寛泰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			単なる教科書の説明ではなく、まず目的意識を植え付けるよう、国家試験過去問題を紹介し、どのような勉強をすれば、国家試験の過去問を解くことができるかを詳細に説明し、再度過去問を解かせる授業形式をとっている。これの繰り返しにより、どのようなところが問われるか等を理解させ、能動的な自己学習ができるよう指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書			薬理 薬学ゼミナール
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Rac1 regulates myosin II phosphorylation through regulation of myosin light chain phosphatase.	共著	2015年6月	J Cell Physiol. 2015;230:1352-64.
(論文) Neutrophil recruitment is critical for 5-fluorouracil-induced diarrhea and the decrease in aquaporins in the colon.	共著	2014年9月	Pharmacol Res. 2014, 87:71-9.
(論文) Mechanisms of cisplatin-induced muscle atrophy.	共著	2014年7月	Toxicol Appl Pharmacol. 2014;278:190-9.
(論文) Fluorouracil induces diarrhea with changes in the expression of inflammatory cytokines and aquaporins in mouse intestines.	共著	2013年1月	PLoS ONE. 2013;8:e54788.
(論文) Involvement of the Tyr kinase/JNK pathway in carbachol-induced bronchial smooth muscle contraction in the rat.	共著	2013年4月	Anesthesiology. 2013;118:1076-85.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) マウス気管支平滑筋収縮反応における Rax1 signaling の関与と気道過敏性時のその変化		2015年8月	第57回日本平滑筋学会総会
(演題名) Augmented bronchial smooth muscle contractility induced by aqueous cigarette smoke extract in rats.		2015年8月	第57回日本平滑筋学会総会
III 学会および社会における主な活動			
2005年4月～現在	日本薬理学会 評議員		
2013年4月～現在	日本緩和医療薬学会 社員(評議員)		
2013年4月～現在	放送大学 非常勤講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤師職能開発研究部門	職名 講師	氏名 里 史明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2015年5月1日	可能な限り、図示し単語のみを暗記せず、生命現象をイメージとして捉えられるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年4月1日	講義用プロジェクター資料（薬学特別演習II）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Bisleuconothine A Induces Autophagosome Formation by Interfering with AKT-mTOR Signaling Pathway.	共著	2015年	J Nat Prod. in press
Domain 36 of tropoelastin in elastic fiber formation.	共著	2014年	Biol. Pharm. Bull. 37(4):698-702.
ATP13A2 deficiency induces a decrease in cathepsin D activity, fingerprint-like inclusion body formation, and selective degeneration of dopaminergic neurons.	共著	2013年	FEBS Lett. 2:587(9):1316-25
New insights into the pathogenesis of autosomal-dominant cutis laxa with report of five ELN mutations.	共著	2011年	Hum Mutat. 32(4):445-55.
PINK1 stabilized by mitochondrial depolarization recruits Parkin to damaged mitochondria and activates latent Parkin for mitophagy.	共著	2011年	J Cell Biol. 189(2):211-21.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ヒト単球細胞を用いたトロポエラスチン分解並びに弾性線維分解の検討		2015年6月	日本結合組織学会
Latent TGF-beta binding protein1がfibrillin-1線維形成に与える影響		2015年6月	日本結合組織学会
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬理学
講師	氏名 葛巻 直子		
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2014年～現在	自身で独自の教材を作成し、思考力を鍛えることを意識し、実戦的な力が身に付くよう講義を行っている。
2	作成した教科書、教材、参考書	2014年 印刷中	分子病体薬理学 I (京都廣川書店) 詳解薬理学 (廣川書店)、図解薬理学 (南山堂) 疾患薬理学 (ネオメディカル)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2014年～現在	国内最大規模の卒論研究室における研究遂行指導を行っている。 慶應義塾大学医学部生理学教室訪問講師を兼任し、星薬科大学との学生・研究交流を推進している。 学内FD講演会に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Epigenetic transcriptional activation of monocyte chemoattractant protein 3 contributes to long-lasting neuropathic pain.	共著	2013年3月	Brain 136, 828-843
(論文) Mitochondrial dysfunction associated with increased oxidative stress and α -synuclein accumulation in PARK2 iPSC-derived neurons and postmortem brain tissue.	共著	2012年10月	Mol Brain, 5(35)
(論文) Multiple analyses of G-protein coupled receptor (GPCR) expression in the development of gefitinib-resistance in transforming non-small-cell lung cancer.	共著	2012年10月	PLoS One, 7(10)
(論文) Change in microRNAs associated with neuronal adaptive responses in the nucleus accumbens under neuropathic pain.	共著	2011年10月	The Journal of Neuroscience. 31(43), 15294-15399
(論文) The κ opioid system regulates endothelial cell differentiation and pathfinding in vascular development.	共著	2011年7月	Blood, 118(3), 775-785
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ヒト疾患特異的 iPSC 細胞技術を用いたドパミン神経依存性難治疾患における細胞内応答の多角的解析		2015年3月	第 88 回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2010年～現在	日本薬理学会評議員		
2010年～現在	日本緩和医療薬学会評議員		
2009年～現在	日本緩和医療薬学会試験委員会 委員		
2011年～現在	日本緩和医療薬学会研究推進委員会 委員		
2015年～現在	日本がんサポーターズ学会 痛み部会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 機器センター	職名 助教	氏名 池上 眞由美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年～	学生実習において、操作の説明に加えて原理についても詳しく説明し、実習内容についての理解を深める工夫をしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2011年～	FD学内シンポジウム参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Selective accumulation of a novel antimalarial rhodacyanine derivative, SSJ-127, in an organelle of <i>Plasmodium berghei</i> .	共著	2010年9月	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> 18 7804-7808 (2010)
(論文) Angiotensin converting enzyme inhibition blocks interstitial hyaluronan dissipation in the neonatal rat kidney via hyaluronan synthase 2 and hyaluronidase 1	共著	2011年1月	<i>Matrix Biology</i> , 30 62-69 (2011)
(論文) Proteomics of the rodent malaria parasite using matrix-assisted laser desorption/ionization quadrupole ion trap time-of-flight tandem mass spectrometry	共著	2012年8月	<i>Anal. Sci.</i> , 28 813-817 (2012)
(論文) Contribution of glucose to crystallization of phenytoin in injectable dosage form by dilution with infusion fluids	共著	2014年10月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> 62 989-993 (2014)
(論文) Inhibition of mTOR activity in diabetes mellitus reduces proteinuria but not renal accumulation of hyaluronan	共著	2015年7月	<i>Upsala J. M. Sci.</i> , 120 233-240 (2015)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ローデントマラリアを用いたロダシアニン誘導体の経口投与による抗マラリア効果		2016年3月	日本薬学会第136年会
シクロデキストリン包接マトリックスを用いたMALDI-TOFMSによる低分子化合物の測定		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 医療薬剤学	職名 助教	氏名 川野 久美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		学内FD講演会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Evaluation of transference and protransference for percutaneous delivery of cisplatin in hairless mice.	共著	2015年4月	Journal of Pharmaceutics & Pharmacology, S (1):7
(論文) Folate-targeted gadolinium-lipid-based nanoparticles as a bimodal contrast agent for tumor fluorescent and magnetic resonance imaging.	共著	2014年4月	Biol Pharm Bull, 37:521-527
(論文) Combination therapy with gefitinib and doxorubicin inhibits tumor growth in transgenic mice with adrenal neuroblastoma.	共著	2013年4月	Cancer Med, 2:286-295
(論文) Adrenal tumor volume in a genetically engineered mouse model of neuroblastoma determined by magnetic resonance imaging.	共著	2012年7月	Exp Ther Med, 4 :61-64
(論文) Effects of polyethylene glycol spacer length and ligand density on folate receptor targeting of liposomal doxorubicin in vitro.	共著	2010年12月	J Drug Delivery, 2011: ID 160967
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) In vivo evaluation of doxorubicin-loaded liposomes prepared with poly-L-glutamic acid as and intraliposomal trapping agent		2015年7月	第31回日本DDS学会学術集会
(演題名) フレドロン酸の新生血管阻害作用を介したドキシソルビン封入リポソームの抗腫瘍効果の増強		2015年7月	第31回日本DDS学会学術集会
(演題名) ポリグルタミン酸と正電荷リポプレックスの連続投与による肝臓へのsiRNA送達		2015年7月	第31回日本DDS学会学術集会
(演題名) コンジュゲートに依存したPEGの免疫原性		2015年7月	第31回日本DDS学会学術集会
(演題名) PEG-コンジュゲートの抗体産生に関する投与量の影響		2015年7月	第31回日本DDS学会学術集会
(演題名) 小角X線散乱測定による正電荷リポソームとsiRNAのリポプレックス形成過程の検討		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬品分析化学	職名 助教	氏名 伊藤 里恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2004年4月～ 現在	学生実習において、丁寧な説明指導を基盤として、自発的な実験を促し、実験手法の理解および知識の習得を促す。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも 可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Sample cleanup using solid-phase dispersive extraction for determination of vancomycin in serum.	共著	2014年2月	Anal. Sci., 30, 271-275
(論文) Determination of gentamicins in meat by LC/FL accompanied with online immunoaffinity chromatography cleanup system.	共著	2013年12月	Jpn. J. Food Chem. Safety, 20, 170-177
(論文) Application of stir-bar soptive extraction to food analysis.	共著	2013年4月	Trends in Anal. Chem., 45, 280-293
(論文) 分子インプリントポリマーをクリーンアップに応用したハチミツおよびローヤルゼリー中クロラムフェニコールの分析	共著	2012年5月	分析化学, 61, 383-389
(論文) Improvement and validation the method using DLLME with in situ derivatization followed by GC-MS for determination of tricyclic antidepressants in human urine samples.	共著	2011年12月	J. Chromatogr. B, 879, 3714-3720
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
固相分散抽出法および固相蛍光誘導体化法を用いたHPLCによる血清中のエフェドリンとプソイドエフェドリンの微量分析		2015年6月	日本法中毒学会34年会
III 学会および社会における主な活動			
2009年3月～2010年2月	日本分析化学会関東支部幹事		
2010年3月～2014年2月	日本分析化学会関東支部常任幹事		
2011年3月～現在	日本分析化学会代議員		
2009年7月～現在	ISO/TC194 国内委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 衛生化学	職名 助教	氏名 今井 正彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年度～ 現在	物理系実習III：実習終了後にまとめの講義を行い、理解の向上に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年度～ 現在	物理系実習IIIテキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2012年度～ 現在	大学院に所属する中国人留学生の研究指導を行っている。当該学生は平成25年度の薬学会年会において優秀発表賞を受賞した。学内FD講演会に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Growth inhibition and mechanism of action of <i>p</i> -dodecylaminophenol against refractory human pancreatic cancer and cholangiocarcinoma.	共著	2012年3月	Bioorg. Med. Chem., 20, 2520-2526
Inhibitory effects of <i>p</i> -dodecylaminophenol on the invasiveness of human fibrosarcoma cell line HT1080.	共著	2013年7月	Bioorg. Med. Chem., 21, 6015-6021
Effect of <i>p</i> -aminophenols on tyrosinase activity.	共著	2014年6月	Bioorg. Med. Chem., 22, 3994-4000
Inhibitory effects of <i>p</i> -alkylaminophenol on melanogenesis.	共著	2014年7月	Bioorg. Med. Chem., 22, 4677-4683
Inhibitory effects of hydroxylated cinnamoyl esters on lipid absorption and accumulation.	共著	2015年4月	Bioorg. Med. Chem., 23, 3788-3795
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Inhibitory effects of cinnamic acid derivatives on lipid absorption and accumulation.		2015年9月	第43回構造活性相関シンポジウム 第10回薬物の分子設計と開発に関する日中シンポジウム
Inhibition of human fibrosarcoma HT1080 cell growth and invasion by <i>p</i> -dodecylaminophenol.		2015年10月	The 3rd International Conference on Retinoids
III 学会および社会における主な活動			
2012年10月～2014年3月	日本レチノイド研究会第24回学術集会 事務局		
2013年10月	星薬科大学大学院研究科助手会・大学院自治会合同公開セミナー 運営		
2014年11月	星薬科大学大学院研究科助手会・大学院自治会合同公開セミナー 運営		
2015年10月	星薬科大学大学院研究科助手会・大学院自治会合同公開セミナー 運営		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤師生涯学習支援室	職名 助教	氏名 堀内 正子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年～ 2012年～	学生実習では操作が研究現場で活用される実例を示し学生の興味を引くよう指導している。アドバンスト特別講義(講演会など)を撮影し、反復学習が可能としている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2015年3月12日 2011年～	くすり教育研修会に参加(日本薬剤師会主催、文部科学省後援、厚生労働省後援、他) FD学内シンポジウム(毎年)参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effects of <i>Bidens pilosa</i> L. var. <i>radiata</i> SCHERFF on experimental gastric lesion	共著	2010年11月	Nat Med. 64:430-436
(論文) 宮古ビデンスピローサの鉄欠乏性貧血と塩酸/エタノール誘発胃粘障害に対する効果	共著	2010年10月	薬理と治療. 38 (2) : 157-163
(論文) Effects of <i>Bidens pilosa</i> L. var. <i>radiata</i> SCHERFF treated with enzyme on histamine-induced contraction of guinea pig ileum and on histamine release from mast cells.	共著	2009年2月	J. Smooth Muscle Res. (2&3):75-86
(論文) 実験的鼻アレルギーに対する酵素処理宮古ビデンスピローサの抑制効果について	共著	2009年1月	生薬学雑誌 63 (1) : 1-5
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
小学生を対象とした「薬の飲み方実験」の基礎的試み		2016年3月	日本薬学会 第136年会
ローデントマラリアを用いたロダシアン誘導体の経口投与による抗マラリア効果		2016年3月	日本薬学会 第136年会
III 学会および社会における主な活動			
2012年1月～現在	品川区学校薬剤師会非常勤講師として品川区の小中学校で「育薬」、「薬物乱用」、および保健委員会での実験の指導を担当		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 教育実習センター	職名 助教	氏名 笹津 備尚
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)50音順・商品名でひける 治療薬事典	共著	2010年7月	総合医学社
(論文)Preparation and evaluation of medicinal carbon oral films.	共著	2010年4月	Chem Pharm Bull., 58, 454-475
(論文)Formulation and evaluation of matrix type mucoadhesive tablets aimed at treating oral aphtha	共著	2013年8月	Drug Dev Ind Pharm., 39, 1254-1261
(論文)Preparation and antitumor effect of N-trimethylchitosan/fucoidan ion-complex submicron particles.	共著	2011年7月	Current Nanoscience, 7, 497-502
(論文)Evaluation of matrix type mucoadhesive tablets containing indomethacin for buccal application.	共著	2013年9月	Int. J. Pharm., 453, 454-461
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
新たな軟膏剤の分類 ~機能性添加剤の役割について~		2015年8月	日本褥瘡学会
ポリフェノール添加キシログルカンハイドロゲルの調製と評価		2015年9月	日本薬学会関東市部会
III 学会および社会における主な活動			
2010年4月~現在	日本臨床腫瘍薬学会 理事		
2009年4月~2010年3月	日本臨床腫瘍薬学会 総務委員会 委員		
2011年4月~2012年3月	日本臨床腫瘍薬学会 広報委員会 委員		
2011年4月~現在	日本臨床腫瘍薬学会 会員委員会 委員		
2012年4月~現在	東京都病院薬剤師会 褥瘡領域薬剤師養成特別委員会 特別委員		
2014年4月~現在	外用療法研究会 世話人		
2015年4月~現在	日本褥瘡学会 評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生体分子有機化学	職名 助教	氏名 横江 弘雅
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		通年 4月～5月 1月～5月	研究指導 (所属学生とのディスカッション) 実習指導 (2年生化学実習 I を担当) 卒論指導 (卒業論文、発表資料の添削と手引)
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Enantioselective synthesis of (+)-penostatin E	共著	2014年8月	J. Org. Lett. 2014, 79, 7512-7519.
(論文) Enantioselective Synthesis of 8-epi-Xanthatin and Biological Evaluation of Xanthanolides and their Derivatives	共著	2012年6月	Chem. Pharm. Bull. 2012, 60, 1340-1342.
(論文) Enantiocontrolled Total Syntheses of Breviones A, B and C	共著	2011年6月	J. Am. Chem. Soc. 2011, 133, 8854-8857.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
新規マルチターゲット抗インフルエンザ阻害剤の構造活性相関研究		2015年3月	第135年日本薬学会年会
抗HCV活性を有するケイヒ酸誘導体の合成と活性評価		2015年3月	第135年日本薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬理学	職名 助教	氏名 芝崎 真裕
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年4月1日	自身で教材を作成し、特に問題解決能力が身につくよう、現在、実習・演習を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2014年5月18日	薬物治療学演習IIテキスト	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2014年7月23日 2014年12月17日	FD研修会参加 (内部質保証と教学IRについて) FD研修会参加 (大学ガバナンスと研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインについて)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Implication of KCC2 in the sensitization to morphine by chronic ethanol treatment in mice.	共著	2014年68 (1):39-43.	Synapse
(論文) Implication of mGlu5 receptor in the enhancement of morphine-induced hyperlocomotion under chronic treatment with zolpidem.	共著	2014年738:360-367.	Eur J Pharmacol
(論文) Effect of chronic ethanol treatment on mu-opioid receptor function, interacting proteins and morphine-induced place preference.	共著	2013年228 (2):207-215.	Psychopharmacology (Berl)
(論文) Involvement of the K ⁺ -Cl ⁻ co-transporter KCC2 in the sensitization to morphine-induced hyperlocomotion under chronic treatment with zolpidem in the mesolimbic system.	共著	2013年125 (5):747-755.	J Neurochem
(論文) Actin dynamics in development of behavioral sensitization after withdrawal from long-term ethanol administration to mice.	共著	2012:36 (8):1385-1396.	Alcohol Clin Exp Res
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 中枢性morphine誘発大腸輸送能低下作用に関する脳部位の検討		2015年3月28日	第135回日本薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
	日本薬理学会評議員		
	日本緩和医療薬学会評議員		
2011年6月～2015年6月	日本緩和医療薬学会試験委員会委員		
	日本アルコール・薬物医学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤師教育研究部門	職名 助教	氏名 工藤 早苗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 病態生理学	職名 助教	氏名 福地 由美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011年6月～ 現在	学生実習では、実験理論や手技の説明に加えて、行っている実験がどのような研究に応用できるか等を話し、研究の面白さを伝えている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Tet2-mutated myeloid progenitors possess aberrant in vitro self-renewal capacity.	共著	2014年5月	Blood, 123, 2897-2899
(論文) Impaired hematopoietic differentiation of RUNX1-mutated induced pluripotent stem cells derived from FPD/AML patients.	共著	2014年12月	Leukemia, 28, 2344-2354
(論文) Robo4 plays a role in bone marrow homing and mobilization, but is not essential in the long-term repopulating capacity of hematopoietic stem cells.	共著	2012年11月	PLoS One, 7, e50849
(論文) Direct reprogramming of terminally differentiated B cells into erythroid lineage.	共著	2012年10月	FEBS Lett., 586, 3645-3652
(論文) Tet2 disruption leads to enhanced self-renewal and altered differentiation of fetal liver hematopoietic stem cells.	共著	2012年2月	Sci. Rep., 2, 273
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) A critical role for O-GlcNacylation in murine fetal liver and adult hematopoiesis.		2015年6月	European Hematology Association
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 教育実習センター	職名 助教	氏名 渡辺 正忠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月～ 現在	学生実習において、これから研究に従事するための思考法と技能の初歩を身につけさせることを目的とし、実験内容、機器の取扱方法、計量の方法、測定操作、データ解析について、実験前後にSGDを採用することによって自発的な理解と考察を促し、レポートを提出させる。実験における身だしなみはOSCEに準拠することとし、レポートは卒業論文の型式に準拠するように指導する。
2 作成した教科書、教材、参考書			生物系実習I実習帳(教育実習センター教員による分担作業)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effects of bisphenol A on the expression of cytochrome P450 aromatase (CYP19) in human fetal osteoblastic and granulosa cell-like cell lines	共著	2012年2月	Toxicol Lett., 210, 95-9.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 総合基礎薬学教育研究部門	職名 助教	氏名 岩崎 雄介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2005年4月 ～現在	学生実習で自発的な実験を促せるような教材の作成を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		学内FD講演会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)Quantification of reduced and oxidized thiols in mouse serum by column-switching hydrophilic interaction chromatography coupled with mass spectrometry.	共著	2011年8月	J. Pharm. Biomed. Anal., 56(1), 103-113
(論文)Characterization of nitrated phenolic compounds for their anti-oxidant, pro-oxidant, and nitration activities.	共著	2011年9月	Arch. Biochem. Biophys., 513(1), 10-18
(論文)Effect of interaction between phenolic compounds and copper ion on antioxidant and pro-oxidant activities.	共著	2011年10月	Toxicol. In Vitro, 25(7), 1320-1327
(論文)Quantitative analysis of perfluorinated chemicals in media for in vitro fertilization and related samples.	共著	2012年7月	Chemosphere, 88(4), 445-449
(論文)Generation of reactive oxygen species by interaction between antioxidants used as food additive and metal ions.	共著	2014年9月	Shokuhin Eiseigaku Zasshi, 55(4), 167-176
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)カフェイン酸と金属の反応によって生成される化合物に関する研究		2015年8月	日本健康科学学会 第31回学術大会
III 学会および社会における主な活動			
2014年4月～現在	日本分析化学会 関東支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤師教育研究部門	職名 助教	氏名 山内 理恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2013年 ～現在	「オリジナル教材（自習用プリント）の作成、オフィスアワーを活用した個人指導体制の充実」薬学教育モデル・コアカリキュラム（コアカリ）における物理・薬剤の各領域の総合的な知識を習得するため、講義後の自習に役立つ演習プリント及び解答・解説を配布し、自主学習を反復するよう促した。オフィスアワー（放課後）における質問や個人指導の申し出は多数あったが、積極的に対応し、オーダーメイド体制で学生の力を伸ばすよう試みた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2013年 ～現在	講義プリントは、物理及び薬剤領域の軸となる項目を抜粋し、本質を理解させるために図や文章を工夫して作成した。自習プリントは、順番に解いていくことによって無理なく知識をつけ、理解を促し、問題解決能力を高められるよう、内容と順番を精査し、類題を多数加えた構成で作成した。併せて解答解説書を作成したが、簡潔で本質をついた解説をするよう工夫を	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2013年 10月13日、14日	平成25年度第13回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）修了 教育を「学習者の行動（知識・技能・態度）に価値ある変化をもたらすこと」と捉え、より良いカリキュラムを作り上げていく手法を体得した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）嶋原淳・山内理恵、薬物動態学 標準問題演習	共著	2015年3月	京都廣川書店
（論文）Iontophoretic transdermal delivery of glycyrrhizin: effect of pH, drug concentration, co-ions, current intensity and chemical enhancers	共著	2013年	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 61 , 1275-1281
（論文）Self-organizing map analysis using multivariate data from theophylline tablets predicted by a thin-plate spline interpolation	共著	2013年	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 61 , 304-309 (2013)
（論文）In vitro and in vivo transdermal iontophoretic delivery of naloxone, an opioid antagonist.	共著	2012年	<i>Int. J. Pharm.</i> , 422 , 132-138
（論文）In-vitro and in-vivo transdermal iontophoretic delivery of tramadol, a centrally acting analgesic.	共著	2011年	<i>J. Pharm. Pharmacol.</i> , 63 , 1437-1445
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ヒトHSD11B1Lの脳内および組織特異的発現との比較		2015年3月	日本薬学会第135年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動		
	なし	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬動学	職名 助教	氏名 五十嵐 信智
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号 数)等の名称
(論文) The Laxative Effect of Bisacodyl is Attributable to Decreased Aquaporin-3 Expression in the Colon Induced by Increased PGE ₂ Secretion from Macrophages	共著 (First author)	2011年10月	American Journal of Physiology Gastrointestine and Liver Physiology, 301, G887-G895
(論文) Consumption of a high-fat diet during pregnancy decreases the activity of cytochrome P450 3a in the livers of offspring	共著 (Contributed author)	2012年8月	European Journal of Pharmaceutical Sciences, 47, 108-116
(論文) Hepatic early inflammation induces downregulation of hepatic cytochrome P450 expression and metabolic activity in the dextran sulfate sodium-induced murine colitis	共著 (Contributed author)	2014年4月	European Journal of Pharmaceutical Sciences, 54, 17-27
(論文) Menthol reduces the anticoagulant effect of warfarin by inducing cytochrome P450 2C expression	共著 (Contributed author)	2014年6月	European Journal of Pharmaceutical Sciences, 56, 92-101
(論文) Morphine-induced constipation develops with increased aquaporin-3 expression in the colon via increased serotonin secretion	共著 (Contributed author)	2015年6月	Toxicological Sciences, 145, 337-347
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 高濃度緑茶ポリフェノールの摂取はトリアゾラムの作用を増強する		2015年7月	第1回日本医薬品安全性学会 学術大会
(演題名) 大黃甘草湯の瀉下作用における甘草の配合理由の解析		2015年8月	第32回和漢医薬学会学術大会
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月～2015年3月	天然薬物研究方法論アカデミー 事務局長		
2014年4月～	和漢医薬学会 評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 衛生化学	職名 助教	氏名 長谷川 晋也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011年～ 現在	テストの採点時に個々の項目ごとの得点率を算出し、得点率の低い分野は課題を課す。また、全体の得点率が低い分野に関して、次年度以降の実習講義や内容を改善する(生物系実習Ⅴ)。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Leptin controls ketone body utilization in hypothalamic neuron	共著	2011年10月	Neurosci Lett Vol. 490 No. 3
(論文) Acetoacetyl-CoA synthetase is essential for normal neuronal development	共著(筆頭著者)	2012年10月	Biochem Biophys Res Commun Vol. 427 No. 2
(論文) Acetoacetyl-CoA synthetase, a ketone body-utilizing enzyme, is controlled by SREBP-2 and affects serum cholesterol levels	共著(筆頭著者)	2012年11月	Mol Genet Metab Vol. 107 No. 3
(論文) The role of acetoacetyl-CoA synthetase, a ketone body-utilizing enzyme, in 3T3-L1 adipocyte differentiation	共著(筆頭著者)	2012年11月	Biol Pharm Bull Vol. 35 No. 11
(論文) Degradation of acetoacetyl-CoA synthetase, a ketone body-utilizing enzyme, by legumain in the mouse kidney	共著(筆頭著者)	2014年10月	Biochem Biophys Res Commun Vol. 453 No. 3
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 神経突起伸長におけるケトン体利用酵素の役割		2015年9月	衛生薬学・環境トキシコロジー
III 学会および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生体分子有機化学	職名 助教	氏名 上森 理弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			所属研究室において、学生個々が月1回行う研究報告会を立ち上げた。また、学生個々が月1回提出する研究報告書の提出制度を立ち上げた。これら2つの事項を通じて、学生の論理的思考力、論理的説明力の育成を目指している。 学内FD講演会に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Document Stereoselective total synthesis of nemorosone	共著	2012年6月	J. Org. Chem 2012, 77, 5098-5107
(論文) Stereoselective total synthesis of nemorosone	共著	2013年3月	J. Antibiotics, 2013, 66, 141-145
(論文) Stereoselective total synthesis of (±)-hyperforin via intramolecular cyclopropanation	共著	2013年4月	Tetrahedron Lett. 2013, 54, 2022-2025.
(論文) Collective total synthesis of PPAPs: Total synthesis of clusianone via intramolecular cyclopropanation	共著	2013年7月	Nat. Prod. Comm. 2013, 8, 955-959.
(論文) Enantioselective approach to polycyclic polyprenylated acylphloroglucinols via catalytic asymmetric intramolecular cyclopropanation	共著	2015年2月	J. Org. Chem 2015, 80, 1735-1745
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生化学	職名 助教	氏名 平川 城太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年10月 ～現在	予習を事前に行い、コアカリキュラムの内容に則するように準備・演習を進める。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Novel antibodies reactive with sialyl Lewis X in both humans and mice define its critical role in leukocyte trafficking and contact hypersensitivity responses.	共著	2015年6月	J. Biol. Chem., 290, 15313-26
(論文) Role of high endothelial venule-expressed heparan sulfate in chemokine presentation and lymphocyte homing.	共著	2013年7月	J. Immunol., 191, 448-55
(論文) Essential Role of Peripheral Node Addressin in Lymphocyte Homing to Nasal-Associated Lymphoid Tissues and Allergic Immune Responses.	共著	2011年5月	J. Exp. Med., 208, 1015-25
(論文) Novel Anti-carbohydrate Antibodies Reveal the Cooperative Function of Sulfated N- and O-Glycans in Lymphocyte Homing.	共著	2010年12月	J. Biol. Chem., 285, 40864-78
(論文) Conditional Gene Targeting in Mouse High Endothelial Venules.	共著	2009年5月	J. Immunol., 182, 5461-8
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 抗硫酸化糖鎖S2は鼻咽頭関連リンパ組織へのリンパ球ホーミングを抑制しアレルギー性鼻炎を抑制する		2015年7月	日本糖質学会
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬理学	職名 助教	氏名 河田 美穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年～現在	学生の目線に立ち、それぞれの学生に合った指導を行うよう努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Changes in the expression of IL-6-mediated microRNAs in the dorsal root ganglion under neuropathic pain in mice	共著	2016年3月	Synapse
(論文) Processing of neuregulin-1 by neuropsin regulates GABAergic neuron to control neural plasticity of the mouse hippocampus.	共著	2012年9月	Journal of Neuroscience 32, 12657-12672
(著書) 慢性疼痛におけるエピジェネティクス研究の最前線	共著	2015年11月	医歯薬株式会社
(著書) 細胞外プロテアーゼの機能	共著	2013年12月	中外医学社
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) A novel regulation system of inhibitory neural networks involved in schizophrenia		2016年3月	日本薬理学会
神経分化系譜に従った δ -オピオイド神経系の生理的役割		2015年10月	JNRC 鎮痛薬・オピオイドペプチド研究会
III 学会および社会における主な活動			
2010年～現在	日本神経化学学会会員		
2015年～現在	日本神経科学学会会員		
2015年～現在	日本薬理学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬品物理化学
		職名	助手
		氏名	郡司 美穂子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2011年～2014年	FD学内シンポジウム (第1～4回) 参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Crystal Structure of an Epalrestat Dimethanol Solvate	共著	2016年	<i>X-ray Structure Analysis Online</i> , 32 (3), 7-9
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) レボフロキサシン結晶多形の構造解析と相転移現象の解明		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部 大会
(演題名) エパルレスタット結晶多形の構造解析		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部 大会
(演題名) イオン液体を利用した経皮吸収促進法とその製剤設計		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部 大会
(演題名) エパルレスタットの共結晶化と物理化学的特性の評価		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部 大会
(演題名) 計算化学を用いたCyclomaltononaose (δ -CD) とコール酸 類縁化合物との相互作用の解析		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部 大会
(演題名) 小角X線散乱測定による正電荷リポソームとsiRNAのリポ ブレックス形成過程の検討		2016年3月	日本薬学会第136年会
(演題名) フルルビプロフェンとリドカインからなる分子複合体の 溶解性挙動		2016年3月	日本薬学会第136年会
(演題名) 結晶構造解析によるイルソグラジンマレイン酸塩の溶解 性変化の検討		2016年3月	日本薬学会第136年会
(演題名) 有機酸-メグルミンの新規分子複合体の基礎的特性		2016年3月	日本薬学会第136年会
(演題名) Cyclomaltononaose (δ -CD) の調製法の至適化 (IV) ～コール酸類縁化合物添加による生成への影響～		2016年3月	日本薬学会第136年会
(演題名) 計算化学を用いたCyclodextrin合成酵素とCyclodextrin、 コール酸類縁化合物およびその包接複合体との相互作用解析		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
公益社団法人日本薬剤学会 物性FG事務局 を担当			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 教育実習センター	職名 助手	氏名 板橋 武史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		学内FD講演会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Cytotoxic anthrasteroid glycosides, malsterosides A-C, from <i>Malbranchea filamentosa</i> .	共著	2014年8月	J. Antibiot., 67(8) 585-588
(論文) A new antifungal yellow pigment from <i>Aspergillus nishimurae</i> .	共著	2011年2月	J. Antibiot., 64(2) 211-212
(論文) Quinazolinobenzodiazepine Derivatives, Novobenzomalvins A-C: Fibronectin Expression Regulators from <i>Aspergillus novofumigatus</i> .	共著	2011年4月	Sci Pharm., 79(4) 937-50
(論文) Novoamauromine and ent-Cycloechinulin: two new diketopiperazine derivatives from <i>Aspergillus novofumigatus</i> .	共著	2010年5月	Chem. Pharm. Bull., 58(5) 717-9
(論文) A new indoloditerpene derivative, penijanthine A, isolated from <i>Penicillium janthinellum</i> .	共著	2009年1月	J. Nat. Med., 63(1) 96-9
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬剤学	職名 助手	氏名 内海 俊一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		学内FD講演会に参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 微生物学	職名 教授	氏名 辻 勉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年5月	授業評価アンケートで写真を多く紹介して欲しいとの要望があったので、できるだけ多くの画像を用意し紹介した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年5月 2014年4月 2011年1月	薬学領域の微生物学・免疫学 第2版(廣川書店) 薬学生のための基礎シリーズ基礎生命科学(培風館) やさしい微生物学(廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 生物系薬学 I, 生命現象の基礎	共著	2015年3月	東京化学同人
(著書) 疾病と病態生理 改訂第3版	共著	2012年4月	南江堂
(論文) Development of liposomal nanoconstructs targeting P-selectin (CD62P)-expressing cells by using a sulfated	共著	2014年10月	Pharm Res 31: 2868-2875
(論文) Modulation of matrix metalloproteinase-9 secretion from tumor-associated macrophage-like cells by proteolytically processed laminin-332	共著	2014年3月	Clin Exp Metastasis 31: 285-291
(論文) Constitutive turnover of phosphorylation at Thr-412 of human p57/coroin-1 regulates the interaction with actin.	共著	2012年12月	J Biol Chem 287: 42910-42920
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 血小板由来可溶性因子はマクロファージのLPSに対する応答を抑制する		2015年6月	第16回Pharmaco-Hematologyシンポジウム
(演題名) インテグリン α 3サブユニットのスプライス変異体の解析		2015年12月	第88回日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動			
1998年～現在	日本生化学会評議員		
2009年～2014年	厚生労働省度薬剤師試験委員		
2014年～現在	特定非営利活動法人薬学共用試験センター財務委員会副委員長		
2014年～現在	厚生労働省医道審議会専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 有機合成化学	職名 教授	氏名 東山 公男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年4月～ 現在	講義の冒頭で前回講義の復讐を行い、講義終了時には次回の講義内容の説明をする。これにより、講義の継続性を意識させている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年11月 2014年12月 2015年8月	新医薬品合成化学 有機系教科で使用する1年前期教科書作成 有機系教科で使用する1年後期教科書作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年7月	内物質保証と教学IRについての講習会参加 学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Direct Aldol Reaction of Trifluoromethyl Ketones with Ketones Catalyzed by Et ₂ Zn and	共著	2011年6月	Synlett, No. 10, 1431-1434
(論文) Brønsted Acid Catalyzed Friedel-Crafts Alkylation Reactions of Trifluoro-methyl- α , β -ynones with Indoles.	共著	2012年11月	Synlett, 23, 2699-2703
(論文) Asymmetric Syntheses of Pyrrolidine and Piperidine Derivatives via Regio- and Stereo-Selective Ring-Opening Reactions of Chiral Aziridine.	共著	2012年1月	Heterocycles, 86, 371-380
(論文) Total synthesis of the proposed structure of eushearilide.	共著	2014年2月	Heterocycles, 88, 1175-1189
(論文) Bisoxazoline-catalyzed asymmetric nucleophilic addition of diethyl zinc to fluorinated alkyl ketones: enantiofacial control by changing the bisoxazoline substituent.	共著	2015年1月	BCSJ., 88, 200-208
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生薬学	職名 教授	氏名 森田 博史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2009年4月～	「小テスト、演習の活用による形成的評価」学習効率を向上させるべく、授業の最後の10分間を確保し、授業に関する小テスト、演習を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			パートナー天然物化学（南江堂） ベーシック有機構造解析（化学同人）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Bisleuconothine A Exclusively Induces Autophagy by Interfering with AKT-mTOR Signaling Pathway	共著	2015年	J. Nat. Prod. 2015, 78(7), 1656-1662.
Two Novel Tetracycles, Cassibiphenols A and B from the Flowers of Cassia siamea	共著	2014年	Tetrahedron Lett. 2014, 55, 1362-1365.
Walsogynes B - G, limonoids from Walsura chrysogyne	共著	2013年	Tetrahedron 2013, 69, 4139-4145.
Lycobelines A - C, Novel C16N2-type Lycopodium Alkaloids from Huperzia goebelii	共著	2012年	Tetrahedron Lett. 2012, 53, 3971-3973.
Total Synthesis of Cassiarin F, A Novel Tetracyclic Alkaloid from the Flowers of Cassia siamea	共著	2011年	Org. Lett., 2011, 13, 4344-4347.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
日本生薬学会	庶務理事		
日本薬学会	一般会員		
東洋医学会	一般会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 機能形態学	職名 教授	氏名 小林 恒雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2005年4月～ 現在	講義時には、スライド、ビデオを用いて、実際のイメージとして理解させると共に、名称や具体的な機構説明は、簡略図や穴埋め形式の講義資料を用いて行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年3月	新細胞生物学 廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Activated Platelets from Diabetic Rats Cause Endothelial Dysfunction by Decreasing Akt/Endothelial NO Synthase Signaling Pathway.	共著	2014年7月	PLoS One. 21:9:e102310
(論文) Mechanisms underlying increased serotonin-induced contraction in carotid arteries from chronic type 2 diabetic Goto-Kakizaki rats.	共著	2014年7月	Pharmacol Res. 15:123-132.
(論文) Relationships among protein tyrosine phosphatase 1B, angiotensin II, and insulin-mediated aortic responses in type 2 diabetic Goto-Kakizaki rats.	共著	2014年5月	Atherosclerosis. 233:64-71
(論文) Mechanisms underlying reduced P2Y(1) -receptor-mediated relaxation in superior mesenteric arteries from long-term streptozotocin-induced diabetic rats.	共著	2013年1月	Acta Physiol (Oxf). 207:130-41
(論文) G Protein-Coupled Receptor Kinase 2, With β -Arrestin 2, Impairs Insulin-Induced Akt/Endothelial Nitric Oxide Synthase Signaling in ob/ob Mouse Aorta.	共著	2012年8月	Diabetes. 61:1978-85.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ラット頸動脈における高濃度インスリンによるセロトニン誘発収縮反応増強に対する薬理学的検討		2015年7月	第132回日本薬理学会関東部会
(演題名) 自然発症高血圧ラット腎動脈と頸動脈における心房性ナトリウム利尿ペプチド誘発弛緩反応の比較とメカニズムに関する検討		2015年7月	第132回日本薬理学会関東部会
III 学会および社会における主な活動			
2005年～現在	日本薬理学会学術評議委員		
2010年～現在	日本平滑筋学会評議委員		
2013年～現在	日本薬学会編集委員		
2015年～現在	第89回日本薬理学会年会組織委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬化学	職名 教授	氏名 細江 智夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書	2015年 2015年	有機化学Ⅰテキスト(分担執筆) 有機化学Ⅱテキスト(分担執筆)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年9月16日	FD研修会参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
11-Hydroxylation of Protoberberine by the Novel Berberine-Utilizing Aerobic Bacterium <i>Sphingobium</i> sp. Strain BD3100	共著	2015年12月	Journal of Natural Products vol. 78 No. 12
Cytotoxic anthrasteroid glycosides, malsterosides A-C, from <i>Malbranchea filamentosa</i>	共著	2014年8月	Journal of Antibiotics vol. 67 No. 8
Chemical defense of the firefly, <i>Rhagophthalmus ohbai</i> (Coleoptera: <i>Rhagophthalmidae</i>)	共著	2014年2月	Applied Entomology and Zoology vol. 49 No. 2
Quinazolinobenzodiazepine Derivatives, Novobenzomalvins A-C, Fibronectin Expression Regulators from <i>Aspergillus novofumigatus</i>	共著	2013年4月	Scientia Pharmaceutica vol. 79 No. 4
A New Antifungal Yellow pigment from <i>Aspergillus nishimurae</i>	共著	2013年2月	Journal of Antibiotics vol. 64 No. 2
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
イリオモテボタル <i>Rhagophthalmus ohbai</i> (鞘翅目: オオメボタル科)の抗菌性化学防御物質		2015年5月	日本菌学会
漢方薬が <i>Aspergillus nidulans</i> の第二次代謝産物に与える影響		2015年5月	日本菌学会
<i>Aspergillus novofumigatus</i> の第二次代謝産物の立体化学に関する考察		2015年5月	日本菌学会
生薬エキスが <i>Aspergillus fumigatus</i> CBS101355株の代謝物に与える影響		2015年9月	日本生薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～平成23年4月	日本菌学会「Mycoscience」編集委員		
平成23年2月～平成27年1月	日本薬学会代議員		
平成23年4月～平成25年3月	日本菌学会評議員		
平成27年4月～平成29年3月	日本菌学会評議員、日本菌学会会則検討委員会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬品製造化学	職名 教授	氏名 杉田 和幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月	薬学人として、より高度な知識を習得させる。医薬品の化学構造の重要性を理解させるために、蛋白-医薬品複合体のX線結晶構造解析の図を使用している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年4月	オリジナルのパワーポイントスライドプリント蛋白-医薬品複合体のX線結晶構造解析の図を標的蛋白ごとに掲載したもの。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
生体有機化学	共著	2012年10月	東京化学同人
Design, synthesis and structure-activity relationship studies of novel sirtuin 2 (SIRT2) inhibitors with a benzamide skeleton.	共著	2015年	Bioorganic & Medicinal Chemistry, 23, 328-339
7-Dehydrocholesterol metabolites produced by sterol 27-hydroxylase (CYP27A1) modulate liver X receptor activity	共著	2014年	The Journal of steroid biochemistry and molecular biology, 140, 7-16
Discovery of DF-461, a Potent Squalene Synthase Inhibitor	共著	2013年	ACS Med. Chem. Lett. 4, 932-936
Peroxisome proliferator-activated receptor agonists with phenethylphenylphthalimide skeleton derived from thalidomide-related liver X receptor antagonists: Relationship between absolute configuration and subtype selectivity	共著	2011年	Bioorg. Med. Chem., 19(10), 3156-3172
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Cotylenin A アグリコンの合成研究		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
Phorbolの全合成研究		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
III 学会および社会における主な活動			
2012年12月～平成26年11月	日本学術振興会科学研究費専門委員会基盤C審査委員		
2014年4月～2016年3月	薬学研究奨励財団選考委員		
2015年2月～2017年1月	日本薬学会 代議員		
2015年4月～2016年3月	日本薬学会 関東支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬品物理化学	職名 教授	氏名 米持 悦生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年5月8日	オンライン学習システム用の問題・解説作成を行、学生の次週の効率化を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年5月8日	教育支援システム用問題及び解説作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 薬剤学実験法必携マニュアルI物理薬剤学	共著	2014年4月	南江堂
(著書) Encyclopedia of Surface and Colloid Science (2nd Edition)	共著	2012年4月	CRC Press, New York
(著書) 医薬品開発における結晶多形の制御と評価	共著	2011年11月	シーエムシー出版
(論文) Correlation between Glass-Forming Ability and Fragility of Pharmaceutical Compounds	共著	2015年3月	J. Phys. Chem. B, 119(14), 4873-4880
(論文) Relationship between Crystallization Tendencies during Cooling from Melt and Isothermal Storage: Toward a General Understanding of Physical Stability of Pharmaceutical Glasses	共著	2014年4月	Mol. Pharm., 11(6), 1835-1843
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) フルルビプロフェン/リドカイン非晶質複合体における物理化学的特性と皮膚透過性の検討		2015年5月	日本薬剤学会
(演題名) in vivo Evaluation of Doxorubicin-Loaded Liposomes Prepared with Polu-L-Glutamic Acid as an Intraliposomal Trapping Agent		2015年7月	日本DDS学会
III 学会および社会における主な活動			
2014年4月～	日本薬学会 関東支部幹事、広報委員会WGメンバー、学術誌編集委員		
2008年4月～	日本薬剤学会 評議員		
20015年6月～	製剤機械技術学会 執行理事、HP委員会委員長		
2015年10月～	日本熱測定学会 幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬化学	職名 助教	氏名 武田 尚
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Dual two-component regulatory systems are involved in aromatic compound degradation in a polychlorinated-biphenyl degrader, <i>Rhodococcus jostii</i> RHA1.	共著	2010年3月	J. Bacteriol., 192, 4741-4751
(論文) クマザサエキスの抗炎症作用	共著	2011年4月	応用薬理, 80, 35-42
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 微生物学	職名 助教	氏名 奥 輝明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書	2015年8月	生物系実習Ⅲ微生物学実習書(実習書の改訂)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年 9月	FD研修会への参加「利益相反マネジメントの目的とその必要性」(飯田香緒里先生)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)食細胞による異物処理-活性酸素産生およびファゴリソーム形成と細胞骨格系-	共著	2010年	ファルマシア,「自然免疫」特集号(1月号)
(論文) Staphylococcal superantigen-like protein 5 inhibits matrix metalloproteinase 9 from human neutrophils	共著	2010年	Infection and Immunity, vol. 78
(論文) Phosphorylation of p57/coronin-1 regulates phagocytosis via its actin binding activity	単著	2012年	星薬科大学紀要(第54号)
(論文) Constitutive Turnover of Phosphorylation at Thr-412 of Human p57/coronin-1 Regulates the Interaction with Actin	共著	2012年	Journal of Biological Chemistry, vol. 287
(論文) Platelets attenuate production of cytokines and nitric oxide by macrophages in response to bacterial endotoxin	共著	2015年	Platelet, in press
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)血小板由来可溶性因子はマクロファージのLPSに対する応答を抑制する		2015年6月	第16回 Pharmaco-Hematologyシンポジウム
(演題名) Staphylococcal superantigen-like protein 5 と Matrix metalloproteinase 9 の結合		2015年6月	第16回 Pharmaco-Hematologyシンポジウム
(演題名)肥満細胞におけるCoronin-1の役割		2015年12月	第38回 日本分子生物学会年会 第88回 日本生化学会大会
(演題名)インテグリン α 3サブユニットのspray変異体の解析		2015年12月	第38回 日本分子生物学会年会 第88回 日本生化学会大会
(演題名)血小板はマクロファージのエンドトキシン応答を抑制する		2015年12月	第38回 日本分子生物学会年会 第88回 日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	生薬学
職名	助教	氏名	平澤 祐介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2006年4月～ 現在	3年次科目『化学系実習Ⅲ』を担当 約10種の刻み生薬を混合した未知検体の鑑別を行わせており、よく考えさせる実習になっている。
2	作成した教科書、教材、参考書 化学系実習Ⅲ実習帳 (2006～2015年版) ベーシック有機構造解析	2006年5月～ 2015年5月 2011年4月1日	化学系実習Ⅲに用いる実習帳 有機化合物の構造解析参考書
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4	その他教育活動上特記すべき事項	2015年2月 2014年2月	指導学生の発表論文が日本生薬学会論文賞を受賞 Mumic acids A-E: new diterpenoids from mumiyo. Journal of Natural Medicines 68(1), 指導学生の発表論文が日本生薬学会論文賞を受賞 Vasorelaxant activity of indole alkaloids from Tabernaemontana dichotoma. Journal of Natural Medicines 67 (1), 9-16 (2013).
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Four New Amarylolidaceae Alkaloids from <i>Zephyranthes candida</i>	共著	2014年2月	J. Nat. Med., vol. 68, 610-614
(論文) Hupermine A, a novel C16N2-type Lycopodium alkaloid from <i>Huperzia phlegmaria</i>	共著	2014年2月	Tetrahedron Lett., vol. 55, 1902-1904
(論文) Voacalginines A - E, New Indole Alkaloids from <i>Voacanga grandifolia</i>	共著	2013年11月	Tetrahedron, vol. 69, 10869-10875
(論文) Bisnicalaterines B and C, Atropoisomeric Bisindole Alkaloids from <i>Hunteria zeylanica</i> , showing Vasorelaxant Activity	共著	2010年5月	J. Org. Chem., vol. 75, 4218-4223
(論文) Alasmontamine A, A First Tetrakis Monoterpene Indole Alkaloid from <i>Tabernaemontana elegans</i>	共著	2009年11月	Org. Lett., vol. 11, 5718-5721
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2008年4月～現在	日本生薬学会会員		
2008年4月～現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬品物理化学	職名 助教	氏名 古石 誉之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月	物理系実習Iにおいて、実習前に座学時間を多く取ることにより、実習中の説明時間が減ったことから、より効率的な実習を行えるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年4月	物理系実習I実習帳(分担)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Identification of furosemide photodegradation products in water-acetonitrile mixture	共著	2015年8月	Chem. Pharm. Bull., 63(8), 617-27 (2015)
(論文) Effect of γ -cyclodextrin as a lyoprotectant for freeze-dried actinidin	共著	2015年5月	Pharmazie, 70(5), 296-299 (2015)
(論文) Interaction of fentanyl with various cyclodextrins in aqueous solutions	共著	2015年4月	J. Pharm. Pharmacol., in press
(論文) Solid-state characterization of sertraline base- β -cyclodextrin inclusion complex	共著	2015年1月	J. Pharm. Biomed. Anal., 107, 265-72 (2015)
(論文) Crystal structure of an epalrestat methanol solvate	共著	2015年1月	X-ray Struct. Anal. Online 31(1), 1-3 (2015)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) エパルレスタットの共結晶化と物理化学的特性の評価		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
(演題名) イオン液体を利用した経皮吸収促進法とその製剤設計		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
(演題名) レボフロキサシン結晶多形の構造解析と相転移現象明		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
(演題名) 計算化学を用いたCyclomaltononose (δ -CD) とコール酸類縁化合物との相互作用の解析		2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
(演題名) Influence of γ -cyclodextrin as a lyoprotectant for freeze-dried actinidin		2015年5月	Joint Conference of the 8th Asian Cyclodextrin Conference (ACC) and the 32nd Cyclodextrin Symposium
(演題名) フルルビプロフェン/リドカイン非晶質分子複合体における物理化学的特性と皮膚透過性の検討		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
III 学会および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬化学	職名 助教	氏名 若菜 大悟
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Identification of Mutaprodenafil in a Dietary Supplement and Its Subsequent Synthesis	共著	2011年6月	Chemical and pharmaceutical bulletin, 59(10), 日本薬学会
(論文) Distinct mechanisms for spiro-carbon formation reveal biosynthetic pathway crosstalk	共著	2013年9月	Nature chemical biology, 9(12), Nature publishing group
(論文) ¹ H-NMR-メタボロミクスによるショウガ抽出エキスの規格化	共著	2014年3月	日本食品化学学会会誌, 21(2), 日本食品化学学会
(論文) NMR-based characterization of a novel yellow chlorophyll catabolite, Ed-YCC, isolated from Egeria densa	共著	2014年4月	Tetrahedron letters, 55(18), Elsevir
(論文) Cytotoxic anthrasteroid glycosides, malsterosides A-C, from Malbranchea filamentosa	共著	2014年5月	Journal of antibiotics, 67(8), Nature publishing group
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 機能形態学	職名 助教	氏名 田口 久美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年6月～ 現在	学生実習において、自発的な実験を促すとともに、丁寧に指導することで実習による実験手法と知識の習得を促す。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Endothelial cellular senescence is inhibited by liver X receptor activation with an additional mechanism for its atheroprotection in diabetes.	共著	2014年1月	Proc Natl Acad Sci USA., 111, 1168-1173
(論文) Suppressed G-protein-coupled receptor kinase 2 activity protects female diabetic-mouse aorta against endothelial dysfunction.	共著	2013年1月	Acta Physiol (Oxf)., 207, 142-155
(論文) G protein-coupled receptor kinase 2, with b-arrestin 2, impairs insulin-induced Akt/endothelial nitric oxide synthase signaling in ob/ob mouse aorta.	共著	2012年8月	Diabetes., 61, 1978-1985
(論文) Enhanced estradiol-induced vasorelaxation in aortas from type 2 diabetic mice may reflect a compensatory role of p38 MAPK-mediated eNOS activation.	共著	2012年8月	Pflugers Arch., 464, 205-215
(論文) Inhibitor of G protein-coupled receptor kinase 2 normalizes vascular endothelial function in type 2 diabetic mice by improving b-arrestin 2 translocation and ameliorating Akt/eNOS signal dysfunction.	共著	2012年7月	Endocrinology., 153, 2985-2996
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ラット頸動脈における高濃度インスリンによるセロトニン誘発収縮反応増強に対する薬理的検討		2015年7月	第132回日本薬理学会関東部会
(演題名) 自然発症高血圧ラット腎動脈と頸動脈における心房性ナトリウム利尿ペプチド誘発弛緩反応の比較とメカニズムに関する検討		2015年7月	第132回日本薬理学会関東部会
III 学会および社会における主な活動			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 有機合成化学	職名 助教	氏名 佐々木 秀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月10日～ 2015年4月6日～	研究入門 大学生生活を始めるにあたり学生の学習意欲が向上するように、SGDを通して学生とのコミュニケーションを取るようにした。 化学系実習 I 学生が実習を安全に行えるように指導するとともに、実験の目的、各種操作の意味を解説、理解す量に指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Bisoxazoline-Catalyzed Asymmetric Nucleophilic Addition of Diethyl Zinc to Fluorinated Alkyl Ketones: Enantiofacial Control by Changing the Bisoxazoline Substituent	共著	2015年1月	Bull. Chem. Soc. Jpn. 2015, 88, 200-208
(論文) TOTAL SYNTHESIS OF THE PROPOSED STRUCTURES OF EUSHEARILIDE	共著	2013年9月	HETEROCYCLES, Vol. 88, No. 2, 2014
(論文) Brønsted Acid Catalyzed Friedel-Crafts Alkylation Reactions of Trifluoromethyl- α , β -ynones with Indoles	共著	2012年10月	Synlett, 2012, 23, 2699-2703
(論文) Direct aldol reaction of trifluoromethylketones with ketones catalyzed by Et ₂ Zn and secondary amines	共著	2011年5月	Synlett, 2011, 1431-1434
(論文) Efficient microwave-assisted prenylation of pinostrobin and biological evaluation of its derivatives as antitumor	共著	2010年2月	Bioorg. Med. Chem. Lett. 2010, 20, 2086-2089
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬品製造化学	職名 助教	氏名 松澤 彰信
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成27年4月- 現在	研究室での卒業研究において、単に答えを教えるのではなく、答えを導くためのツールを教えることにより、自分で考える力を養成している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Solvent-Dependent Self-Discrimination of Bis(2-hydroxyphenyl)diamides	共著	2010年4月	Chem. Eur. J. 16, 5036-5042
(論文) La/Ag Heterobimetallic Cooperative Catalysis: A Catalytic Asymmetric Conia-Ene	共著	2011年6月	Angew. Chem. Int. Ed. 50,
(論文) Direct Aldol Strategy in Enantioselective	共著	2014年1月	Chem. Eur. J. 20, 68-71
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
α -CF ₃ 基を有するアミドの触媒的不斉ダイレクトアルドール反応		2015年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
		なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬物依存	職名 特任教授	氏名 鈴木 勉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年4月から	授業評価を参考に、講義資料を見やすく改善した。 参加型講義に力を入れている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年12月 2014年10月	日本薬学会編 薬と疾病 (鎮痛薬の項を担当) 薬がみえる (MEDIC MEDIA) (鎮痛薬の項を担当)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年11月	学内FD講演会に参加 平成25年度 日本私立薬科大学協会教育賞
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 毒と薬	単著	2015年5月	新星出版社
(論文) Neuropathic and chronic pain stimuli downregulate central μ -opioid and dopaminergic transmission.	共著	2010年7月	Trend Pharmacol. Sci. vol. 31 no. 7
(論文) Sleep disturbances in a neuropathic pain-like condition in the mouse are associated with altered GABAergic transmission in the cingulate cortex.	共著	2011年7月	Pain vol. 152 no. 6
(論文) Effect of chronic ethanol treatment on μ -opioid receptor function, interacting proteins and morphine-induced place preference.	共著	2013年7月	Psychopharmacology vol. 228 no. 2
(論文) Differential substitution for the discriminative stimulus effects of 3,4-methylenedioxymethamphetamine and methylphenidate in rats.	共著	2014年8月	J. Pharmacol. Exp. Ther. vol. 350 no. 2
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) がん疼痛治療とオピオイド鎮痛薬の依存		2015年6月	第20回日本緩和医療学会学術大会
(演題名) オピオイド鎮痛薬を使いこなすために		2015年7月	第23回日本クリニカルファーマシーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2002年5月～	世界保健機関 (WHO) 薬物依存専門委員会委員		
2007年3月～2015年6月	日本緩和医療薬学会代表理事・副代表理事		
2007年4月～2014年3月	日本薬理学会理事		
2013年1月～	厚生労働省薬事・食品衛生審議会薬事分科会員指定薬物部会長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。